

八日市地方遺跡Ⅰ

—小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

(第2分冊 遺物報告編)

2003.3

石川県小松市教育委員会

目次

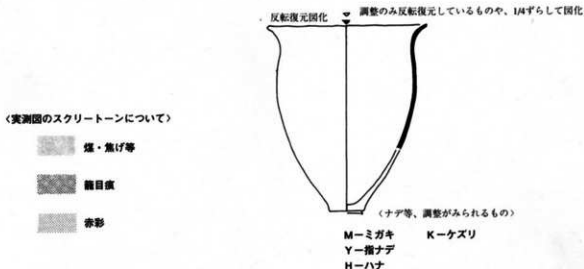
第I章 土器	1
第1節 縄文土器 (宮田)	1
第2節 弥生土器 (福海)	13
第II章 その他の土器・土製品 (福海)	127
第1節 土製加工円盤	127
第2節 土玉・土錘等	135
第3節 その他土製品	140
第4節 ミニチュア土器	151
第5節 蓋形土器	156
第6節 異形土器	158
第7節 絵画土器	162
第8節 焼成粘土塊	168
第III章 石器 (宮田)	169
第1節 礫石器	169
第2節 石皿	186
第3節 砥石	187
第4節 研磨砥石・穿孔砥石	197
第5節 凹石	199
第6節 有孔円盤状石器	201
第7節 環石・環状石斧・多頭石斧	205
第8節 石製加工円盤	206
第9節 定角式石斧・扁平両刃石斧	207
第10節 乳棒状石斧	207
第11節 太型蛤刃石斧	210
第12節 片刃石斧	218
第13節 石鎌・有刃石斧	222
第14節 石包丁	226
第15節 石鎌	231
第16節 石錘	232
第17節 石錘	237
第18節 打製石鎌	239
第19節 磨製石鎌	250
第20節 磨製石剣	251
第21節 その他の剥片石器	252
第22節 石核	256
第IV章 石製品 (宮田)	260
第V章 金属器 (宮田)	260

第VI章 玉類	(宮田)	261
第1節 製玉		261
第2節 玉類成品		277
第3節 製玉関連工具		281
第VII章 木製品	(橋本)	285
第1節 工具		290
第2節 農耕具		307
第3節 漁労具		370
第4節 祭祀具		376
第5節 武器・武具		413
第6節 服飾具		436
第7節 容器・食事具		440
第8節 紡織具		462
第9節 雑具		464
第10節 用途不明木製品		468
第11節 建築材・建築部材		468
第12節 樹皮製品		472
参考文献		481

第I章 土器

凡例

1. 本章の報告は、原則として埋積浅谷出土土器の報告である。
2. 縄文土器に関しては二次的な包含状況であり、観察表中の出土層位は時期を反映しない。
3. 弥生土器は、出土層位が確認でき、全時期を通じて出土している26地区を主に報告する。
4. 古墳時代以降の土器の出土もあるが、本報告では対象外とした。
5. 実測図は下図に示すような記号を用い、煤、赤彩、籠目痕に関してはスクリーントーンで表示している。



第1節 縄文土器（第1図～第8図）

26地区埋積浅谷の、地山砂とこれを浸食したと思われる砂層（xvi層）を中心に出土している。浸食と再堆積を繰り返すことにより、埋積浅谷ではvii層の層準まで縄文土器が包含される状況であり、集落域でも土坑の覆土または堀方残土の混入例がある。

出土資料は中期後葉の大杉谷式から晩期前葉の御経塚式まで認められる。中期末から後期前葉に大きなヒアタスがあるが、後期中葉以降でも有文土器の型式分類は比較的容易で、継続的と言うよりはむしろ断続的である。少なくとも、八日市新保1式、勝木原式（御経塚1式）に比定される資料が認められない。粗製土器は後期中葉から晩期前葉にかけての時期に比定されるものであり、観察表に明記しなかったが、たとえば左撚りの単節縄文、撚糸文、口縁部刻みまたは押圧など、後期中葉に比定される特徴をもつものが多い。

1) 中期後葉の有文土器（1・2）

1は大杉谷式の深鉢形土器である。口縁部文様に特徴的に認められる矢羽状沈線文が見える。2は台付鉢形土器の台部である。縄文地に刻みを施した高さのある隆帯で装飾している。類例は管見に入っていないが、隆帯の特徴から中期後葉の所産と思われる。

2) 後期中葉の有文土器 (3~33)

3は条線文土器である。類似する文様は、福井県永平寺町鳴鹿手鳥遺跡・加賀市横北遺跡・押水町上田うまばち遺跡・柳田村上町和住下遺跡・富山県朝日町境A遺跡等、管見に入る類例は少ないが、分布は広い。福井県域では鳴鹿手鳥遺跡で、富山県域では滑川市木江遺跡や境A遺跡で、堀之内2式~加曾利B1式系の土器に、それぞれ条線文装飾される例が定性的に組成する趨勢のようだ。

4~7・9は三単位波状緑深鉢形土器の口縁部片であり、10はその範疇と思われる深鉢形土器の胴部片である。4はバケツ形の背の高い器形であり、広義にはいわゆる加曾利B1式系と認識されてきたものに含まれるが、金沢市馬替遺跡例に代表されるように、本質的には在地型式の範疇で捉えられる資料である。波頂部の突起装飾が特徴的であり、7のように大きく発達したものもある。装飾帯以下を浮き立たせるのも特徴で、4・9は装飾帯最上部の沈線の外側を潰し、7は装飾帯最上部の隆帯と一体化させている。5・10は頸部が括れる器形であり、5は福井市曾万布遺跡例に代表される、三単位の波状緑が大きく内彎する深鉢形土器であろう。

8は、注口土器の注口部片である。

11は四単位波状緑深鉢であるが、明確な緑帯をなさない形態の特徴から、5・10に近いものと考えられる。否むしろ、10はこちらに分類すべきかもしれない。

14~24は緑帯文系土器である。14~21は平緑、22~24は波状緑の、いずれも深鉢形土器である。緑帯装飾にはいくらかのバリエーションがあって、14~16のように隆帯状に浮き立たせるもの、17・18・20~24のように沈線で区切るもの、そしてそれぞれに充填縄文ないし磨消縄文を施す。また、19のように縄文のみ施すものもある。隆帯状に浮き立たせるものは、14のように縄文を施すものと15・16のように刻みを施すものがある。単位の装飾は、14のような弧状の貼付文、16・17のような棒状の貼付文が認められ、24は単位部に沈線文を施す例で、欠損しているが、おそらく小さな突起状の造作があったであろう。12は、上部を凹ませることと断面形が外反するという形態的な特徴から、広義に緑帯文系の範疇で捉えてよいと思われるが、その他の資料では突起装飾が殆ど認められないことと、緑帯部の装飾が管見にして類例に行き当たらず、少なくともこの土器群の緑帯文系のなかでは異質な資料と考えられる。13は器形が緑帯をなさない直口する口縁部に小さな突起を付し上部を刻んでいる。平行沈線間に施されているのは貝殻擬縄文であり、これが西日本系の注口土器に重用されることを勘案すると、あるいは注口土器の口頸部片かもしれない。

25は緑帯部が外反する浅鉢形土器である。緑帯部の装飾は二条一単位とする直線と弧線の組み合わせからなる沈線文で、緑帯下縁の屈折部に刻みを施す。

26は緑帯部を無文としてその下に縄文帯をめぐらし、27は羽状沈線文を施す。28は羽状沈線文の部分の胴部片である。

29~30は、緑帯部を縦位の貼付で装飾する深鉢形土器であり、東海系として認識されているものである。29は口縁部を内折して、30は肥厚して緑帯をなす。

31~33は羽状縄文が特徴的とされる東日本系の土器である。33は原体を持ち替えて羽状に条を走らせるいわゆる非結東羽状縄文。31は羽状縄文に見えなくもないが、羽状を意図したのかどうか分からない。32は羽状縄文ではないが、土器そのものはこの範疇で捉えられる。

3) 後期後葉の有文土器 (34~36)

34・35・39は、沈線で重畳させた縄文帯が認められる深鉢形土器である。35は、幅広の沈線が、凹線文系の影響を窺わせる。34は直口緑の深鉢形土器であり、単位部は逆U字形の貼付文を口縁装

飾帯の下端に施し、これが35と共通する意匠である。39は沈線で重畳させた縄文帯が、後期中葉の土器を思わせるが、凹線文系に特徴的に認められる胴部裝飾帯下で屈曲する器形である。

38・40～50は凹線文系土器である。40・43～45は浅鉢形土器、その他は深鉢形土器である。口縁部破片は全て平縁であり、波状縁は認められない。38は凹線帯の下端に刻みを施す。40・41は、単位部に扇形?の押圧を施す。

3) 後期末～晩期前葉の有文土器 (51～56)

51～53は、八日市新保2式の波状縁土器である。51が浅鉢形土器、その他は深鉢形土器である。器形の上では口縁部内側を一段高く肥厚し、波頭頂部を内側に捻り込むのが特徴である。三例とも「山」の字の連結三叉文を波頭に施すが、53はその周囲を更に沈線でなぞって複雑な文様を描く。

54は御経塚式の深鉢形土器である。胴部裝飾帯の破片であり、沈線でパネル状に区切った中を三叉文をあしらった文様で埋める裝飾が施されている。

55も御経塚式の範疇で捉えられる深鉢形土器の口縁部片であり、縦線状の沈線文に三叉文をあしらった裝飾がされている。あるいは、見方によっては三叉状入組文に見えるので、中屋式の範疇に含まれるかもしれない。

56は羊歯状文が施される深鉢形土器の口縁部片である。大洞BC式系の外来系譜の土器である。

4) 後期粗製土器 (57～68)

57～62は左捻りの縄文を施す深鉢形土器であり、すべてLR単節縄文である。57・58は縄文原体の結節部の圧痕が認められ、58は縄文の上に巻き貝条痕を施す。60は縄文の節が極端に横に長く、0段多条の縄文原体を使用していると思われる。器形は57のようなバケツ形を呈する。62は口縁部が内彎し、屈曲部に沈線をめぐらせてその上の縄文を磨り消している。口縁端部は、断面形で先細りに成形する。

63～66は右寄りの縄文を施す深鉢形土器であり、66はRLR複節縄文、その他はRL単節縄文である。63～65の口縁部は比較的厚手であり、64・65は口唇部にも縄文を施し、65はさらに口縁端部に指押圧でアクセントをつける。

67・68は捻糸文を施す深鉢形土器である。施文原体は、いずれも左捻りの縄を右巻きにした絡糸体と思われる。

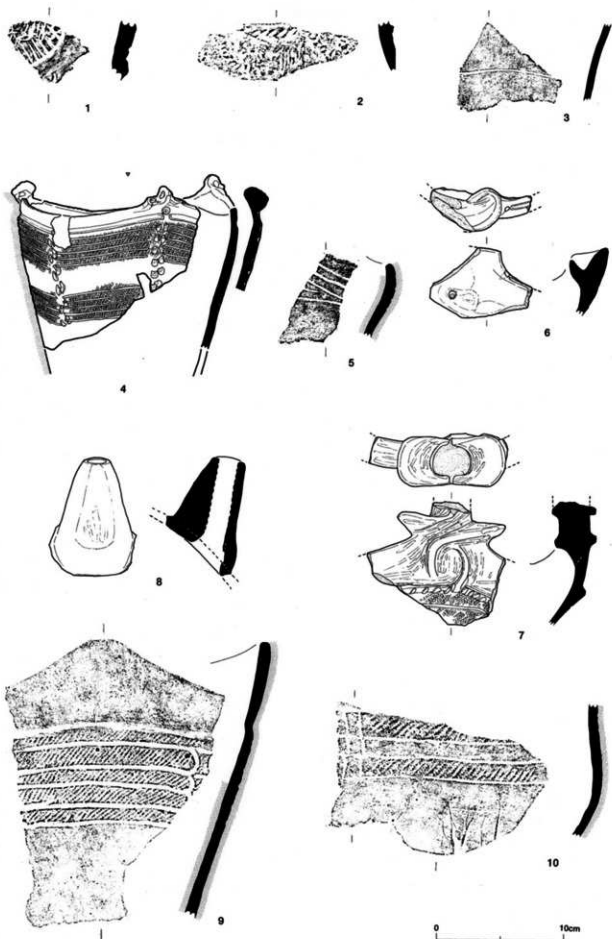
5) 晩期粗製土器 (69・70)

69は禾本科茎の条痕を撫で消して磨いている。二例とも直口縁の深鉢形土器であり、69は内彎気味に、70は外反気味に立ち上がる。口縁部にはりボン状突起を貼付する。

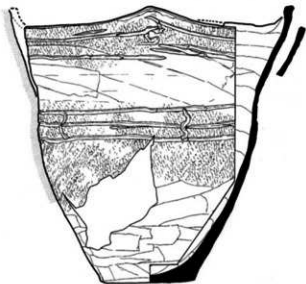
6) 粗製土器底部 (71～76)

71は底部付近であり、底部そのものは欠損している。胴部が強く張り出す器形が推定され、壺形ないし樽形の器形になると思われる。

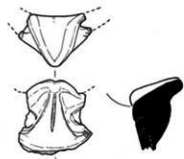
72～76は、底部破片であり、網代圧痕が認められる。網代の編み方は、識別できるものは全て2本すくい2本おさえ1本送りである。



第1圖 縄文土器1 (S=1/3)



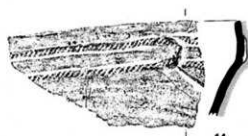
11



12



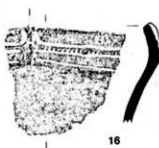
13



14



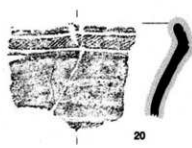
15



16



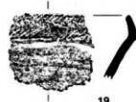
17



20



18



19



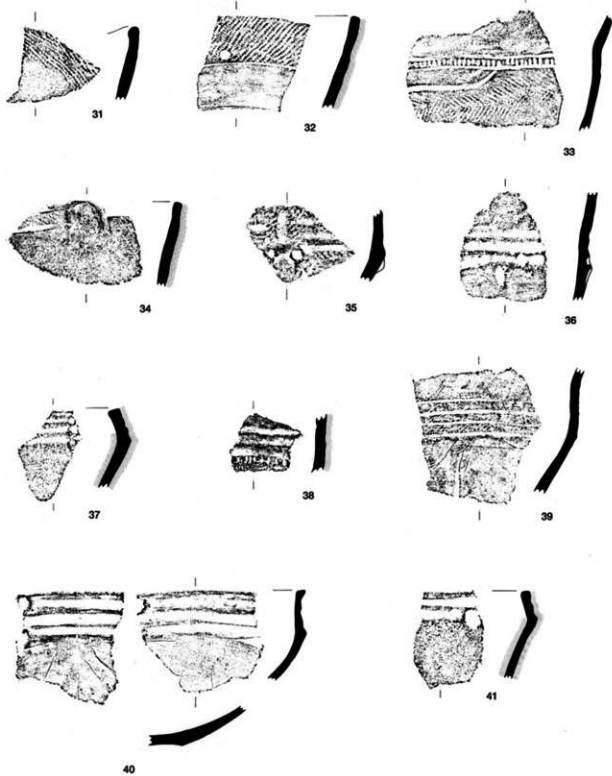
21



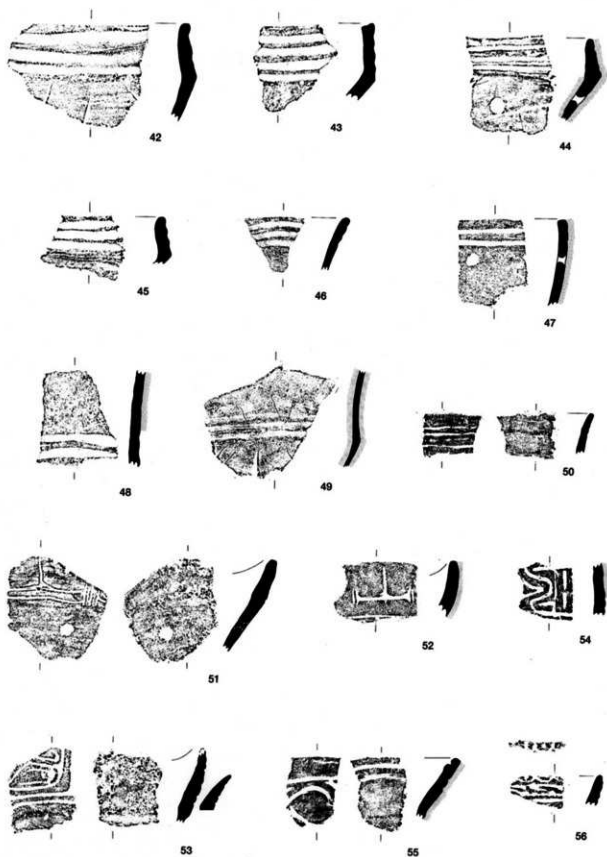
第2圖 縄文土器 2 (S=1/3)



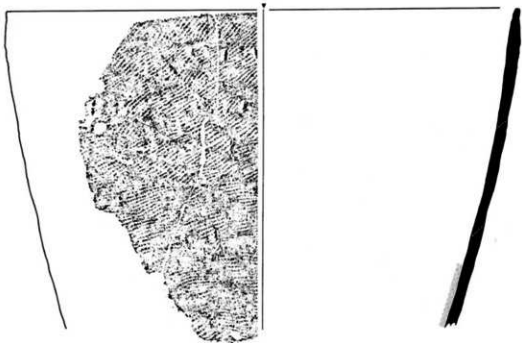
第3図 縄文土器 3 (S=1/3)



第4図 縄文土器4 (S=1/3)



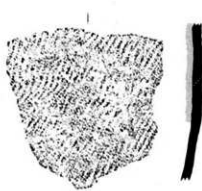
第5図 縄文土器 5 (S=1/3)



57



58



59



60



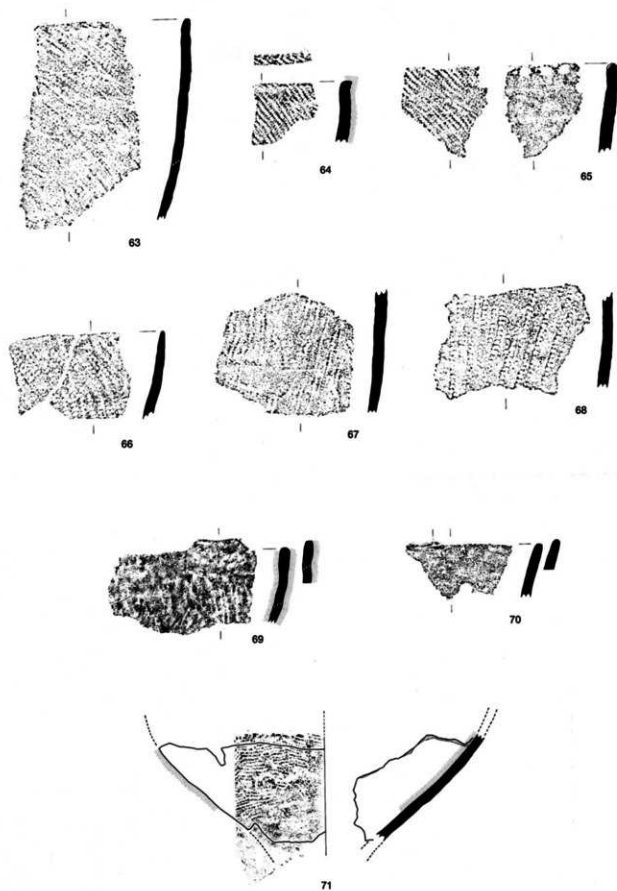
61



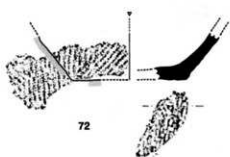
62



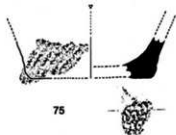
第6圖 縄文土器6 (S=1/3)



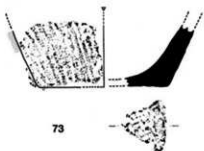
第7圖 縄文土器7 (S=1/3)



72



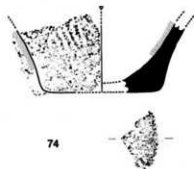
75



73



76



74



第8図 縄文土器 8 (S=1/3)

番号	地区	GR	取上げ階位	建一階位	時期	論文(論文番号)	論文その他要約、および複製品
1	12	24-00	15F	xv	中期後葉		口録取文書の残片。
2	26	E-02		xv	中期?		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
3	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
4	26	F-08	11	xiii	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
5	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
6	26	F-08	16-2	xvi	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
7	田	A-11	地山屋上		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
8	26	E-08	13-7	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
9	26	D-04	下層	xv	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
10	26	D-05	下層	xv	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
11	26	E-08	16-9	xvi	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
12	26	B-06	下層	xv	後期中葉?		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
13	26	E-09	地山屋上		後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
14	26	C-09	地山屋上		後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
15	26	F-09	地山屋上		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
16	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
17	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
18	26	D-06	下層	xv	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
19	26	E-09	16	xvi	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
20	26	F-07	10	xv	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
21	26	F-09	地山屋上		後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
22	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
23	26	F-08			後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
24	26	F-15	地山屋上		後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
25	26	E-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
26	26	F-09	地山屋上		後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
27	26	E-09	8-3	ix,25	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
28	26	E-09	11-3	xvii	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
29	26	G-12	11階	viii,15	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
30	26	E-09	地山屋上		後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
31	26	G-07	22-2	xv	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
32	26	D-09	下層	xv	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
33	26	D-06	下層	xv	後期中葉	JA原綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
34	26	G-04	10	xv	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
35	26	B-04			後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
36	26	F-09	22-3	xv	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
37	26	F-09	16	xvi	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
38	26	F-09	16	xvi	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
39	26	F-08	10	xv	後期中葉	片綴綴論文	片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
40	26	F-07	16-12	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
41	26	F-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
42	26	F-09	22-2	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
43	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
44	26	D-06	下層	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
45	26	D-06	下層	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
46	26	F-11	22-3	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
47	26	F-09	11-3,4,5	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
48	26	F-08	16	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
49	26	F-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
50	26	F-03	8-3	ix,25	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
51	田	K-05	田		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
52	26	D-09	下層	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
53	12	26-18	(土庫)		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
54	26	E-09	11-3,4,5	xv	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
55	26	(本へん)110下		xiii	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
56	26	E-02	8		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
57	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
58	26	F-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
59	26	F-09	地山屋上		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
60	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
61	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
62	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
63	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
64	26	F-09	地山屋上		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
65	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
66	26	G-05	16,11	xiii	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
67	26	E-09	地山屋上		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
68	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
69	26	G-04	11	xiii	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
70	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
71	26	E-09	地山屋上		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
72	26	F-08	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
73	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
74	26	E-09	地山屋上		後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
75	26	E-09	16-9	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。
76	26	F-08	16	xvi	後期中葉		片写取文書の片断? 読み下した文、1枚複製品。

第2節 弥生土器 (第9図～第87図)

はじめに

a. 土器の選出方法

選択した方法として、遺跡の時間軸の設定を行うことに重点を置いた。抽出方法は、平成8年以前の調査は狭い面積での調査であるため、全体の状況が把握しにくく、土器の取り上げも煩雑になっている。そのため、広範囲に調査を行うことができ、埋積状況が安定し、上下層の区別が明確にでき、尚かつ、当遺跡の全時期を通して出土している26地区を選択し、整理作業及び実測作業を行った。しかし、これでもすべてを網羅できず、報告書掲載までに整理できた分のみの報告となっていることを了承されたい。また、今回の報告では、集落域からは把握しづらい集落Ⅰ期に重点をおいていることも了承されたい。集落Ⅱ期及び集落Ⅲ期に関しては、今後、遺構資料の整理を行って行く上で、補足していく予定である。

b. 掲載方法

なるべく、恣意的操作を行わず、そのままの情報で報告する形をとった。同一層でも肩部に位置する箇所は、混入及び取上段階でのミスが生じやすいため、その都度、層毎の掲載を行う前に所感を述べる形をとっている。なお、xS層、ix層～v層・12・13・27地区に関しては、ごく一部の土器の掲載になっていることを了承されたい。

器種の名称は、形をもとに壺形土器、甕形土器、鉢形土器、高坏を主に区分し、文章及び観察表内では、省略して壺、甕、鉢、高坏とする。また、前期の遺物である深鉢形土器も甕として掲載する。

c. 出土土器の観察

すべて肉眼観察で行い、観察の結果は層毎に観察表を明記し、図ではわかりづらいと考えられる調整方法に関しては、文章内に記載した。

(1) 観察事項と記載方法

【番号】：遺物掲載番号を示す。

【地区・出土地点・層位】：調査区・グリッド(以下、Gr)・遺構名を明記し、図上で取上を行ったものに関しては、取り上げ番号を記載している。出土層位は取り上げ層位と統一層(主層位)を併記している。

【器種】土器の一次的形式名を記載。

【色調】マンセル表色系に準じて行っている。なお、内外面でありにも色調の違うものは、内外両方掲載する。

【胎土】肉眼観察で行い、粗・粗密・密の三種類に区分し掲載した。不勉強で詳細な石材が分からないため、特定できる混在物(金雲母・海綿骨針・赤色粒・シャーロット)のみ掲載し、在地と考えられるものに関しては備考に記載した。

【焼成】良好か不良か区分し掲載した。

【法量】口径・最大腹径・底径・頸部径・脚部径・器高・容量・底の厚さを記載している。計測値はcm及びℓである。また、完存せず数値が計測できないもので、復元できる数値には〔 〕で、残存値に関しては()で記載している。容量は、小林正史氏に依頼し計測していただいた。

【底部の種類】矢部遺跡(寺沢1986)の底部及び脚部の分類を参考にし、脚部は挿入法、接合法、充填法に区分し、底部は円板据置法、充填法、輪台法に区分して掲載した。

1) xv, xvi層出土土器(取り上げ層:16層) (第9図~第15図)

埋積浅谷の最下層の土器群である。確認できた箇所は xii 層の集積部分の下層からで、特に土器の残りが良好であった箇所は、本ベルト 1 以西から 10Gr 内である。取り上げ層:16層としては 16-11 層まで使用して土器を取り上げている。これらは xv 層(16-1・2層(肩部)、16-3~5層)、xvi(16-6~11層)と層の状況から分けられると考えられる。しかし、現地での取り上げの際、この三区分で分けられなかった遺物が多くあるため、xv・xvi 層の掲載とし、詳しい層名がわかるものは、観察表に記してあるので参照されたい。なお、実測可能なものはすべて、体部破片でも残りのいいものは掲載している。

1 は遠賀川式壺である。口縁は欠損、体部は半分のみ残存している。接合は外傾接合で、頸部への接合のみ内傾接合で作られている。口縁は段をもたせ、外面は頸部に二条の沈線をひき、体部最大径には瘤状突起がつく。丁寧な横方向のミガキを行い、底部は一〜二条ほどナデ、底面の接着面にはミガキが施されている。なお内面は板ナデ跡が残るものの、体部最大径近くは横方向のミガキが施されている。

7 は口縁の一部が欠損するのみである。内面ナデ調整、外面は体部下半を削った後、縦方向の条痕を施し、ミガキ調整を行っている。頸部には指頭圧痕が残り、頸部と体部の境には、三条の沈線が反時計回りに施されている。口縁は指沈線を六方向に施したと考えられる。

2・8 は条痕文の無文の壺である。二点とも残りが悪く、2 は内面は丁寧にナデしており、8 は内面はナデているが接合痕が明瞭に残っている。

3~5・10・11 は指装飾を施す壺である。いずれも内面はナデ調整であるが、接合痕が残っている。外面は頸部から上は連続した指頭圧痕が指沈線が施され、体部は条痕が施されている。4・10・11 の外面は赤彩が施され、3 を除いてすべてに海綿骨針が含有し、搬入品と考えられる。6 は内面が丁寧なミガキ調整、外面の口縁には指装飾による浮文が施される。内外面ともに明瞭な焦げの跡が残る。

13 は外面にヘラによる沈線を施した後、ミガキ調整を行い、内面は丁寧にナデ調整である。外面の文様は残りが悪いため、不明瞭であるが、数条の沈線で口縁下、体部最大径底部と三段施し、その沈線の間、上段には横楕円が、下段には縦楕円が施されていると考えられる。

14・15・20 は外面はヘラによる沈線を施した後、ミガキを施し、内面は横方向のナデ調整を施した後、体部下半にミガキ調整を施している。14 は口縁と頸部との間に段を、15 は一条の沈線を施し、二段のレンズ状の文様を施す。20 は三条の沈線を施している。(その文様の下には四条の沈線が施されている。)14 は浮文になっており、レンズ状の文様帯がそろっているのに対し、15 はヘラ描きになっており、レンズ状の文様帯がずれている。16・17 及びその左に掲載してある拓影は接点がないものの、同一個体と考えられる。外面はヘラ工具により、三条の横方向の沈線を施す。その下に、二条の縦方向の沈線と、間隔をおき、数条の縦方向の沈線を五方向に施し、二条の沈線を挟んで縦羽状を施している。その後、ミガキ調整を施す。なお、内面は横方向のミガキが施される。

18・19・25 は内外面ミガキ調整を施し、19 は二条の沈線を施し、一条目の沈線には、きれる箇所があり、そこには円形の突出した箇所が存在する。25 は内面に指沈線が1条施されている。縄文時代の遺物の混入か。

27・28・31 は沈線文系の体部破片である。

29 は浮線網状文が施された体部破片である。

32・33 は鉢の底部と考えられる。32 は内外面、底面ともミガキ調整が施されているが、底面は木

業痕が残る。

35以降は甕である。口縁の形態によって、指凹圧を施すもの(35～60)、ヘラで刻みを施すもの(61～70)、無文のもの(71～91)と区分し、その他として、体部に沈線等有文のもの(92～96)と分けて掲載している。外面の調整は茎を結束したもので施され、縦方向・横方向が存在する。その中でも条痕で口縁端から3cm～5cm程度横方向のナデや条痕で文様の切り替えを行っているもの(35・36・55・83)や口縁のみナデしているもの(58・75・88・89)がある。口縁は先端尖らせるもの(36・38・61・65・68・79・88など)、端部丸いもの(40・55・64・77など)、面をとるもの(75・76)がある。口縁に指凹圧を施すものは、施文方法として、口縁が内傾するものは内面側に(35・37・46・49・52)、外反するものは外側に(42・51)、直立するものはまっすぐ指凹圧が施されている(36・39・40・38など)。内面は条痕の調整が残るものと、ナデ消しているものがある。

2) xv層出土土器(取り上げ層:15層) (第16図)

取り上げ層:16層とは別に、砂層のみで取り上げることができた遺物である。出土土器はすべて掲載している。

109は内外面に横方向の条痕が施されるが、内面は粘土接合痕が消しきれていない。口縁端部は丸く処理してある。

110は外面に横方向の条痕が施され、内面は横方向の丁寧なナデが施される。口縁端部には爪による連続した刻みが施される。

111は外面縦方向の条痕が施された後、指による沈線が三条とその間に、指による連続した凹圧が二列施される。指凹圧は爪痕から右手の親指で施したものと考えられる。内面は丁寧なナデが施され、外面の口縁端部は面を作った上で、指凹圧が施されている。xvi層の遺物と比べると、新相として位置付けられるものと考えられる。

3) xiv層出土土器(取り上げ層:14層) (第17図～第18図)

取り上げ層:14層として取り上げたものであり、砂とフシヨク層が互層をなす。土器は取り上げ層:14-9層から多く出土し、砂層であるためxv, xvi層の混入があると考えられる。実測可能なものはすべて掲載している。

112～117・131は甕である。112は指による連続した凹圧と指による沈線が交互に施される。内面はナデを施している。113は内外面に横方向のナデが施され、図には記していないが外傾接合である。口縁は外面に貼り付け、拡張させている部分にヘラ工具による沈線が三条描かれている。114は貝殻による条痕調整であり、体部上半に直線文、間をおいて縦羽状が施されている。内面は丁寧なナデが施される。115はxiv層で掲載したが、取り上げの際の誤認の可能性もある。外面は、口縁と体部最大径に三角形の彫り込みを施し、ヘラ工具による沈線がその間を横方向に充填する。内外面は横方向の丁寧なミガキが施されている。116は外面にはヘラ工具によるレンズ状の文様が施され、一箇所瘤状突起が付く。口縁は残りが悪いが、三角形の突起があったものと考えられる。内外面は横方向の丁寧なミガキが施される。117は底部から上は剥離しており、外傾接合であることが確認できる。内外面ハケ調整を施し、外面は縦方向のミガキ、内面は部分的に指ナデが施されている。131は縦方向の条痕調整の後、部分的に横方向のミガキが施される。

118～130は条痕文系の甕である。外面は横方向のみで調整されるもの(123・124)体部縦方向から横方向に切り替わるもの(118・120・121・126)斜め方向に調整した後、縦方向に部分的に行うも

の(119)がある。内面は横方向に条痕調整を行うもの(118・120～122)縦方向に条痕調整を行うもの(126)ナデるもの(123～125・128・130)がある。なお、119は一部条痕調整がナデ消されており、127は口縁のみ条痕が残る。口縁はやや外反するもの(120・124・125・129)と直立するもの(118・121～123・126・128)がある。端部には指凹圧を施すもの(120～122)刻みを施すもの(123～124)無文のもの(118・126～129)がある。

4) xiiC層出土土器(2～6Gr取り上げ層:10層)(第19図～第21図)

xiiC層は、層の厚みがある箇所と浅く上下層の混入を受けやすい箇所を、Grで区分し掲載している。5・6Grは特に取り上げ層:10層が深く確認でき、出土量がもっとも多い箇所である。

133・135は外面ハケ調整を施し、櫛描文施文箇所はハケを板ナデで消している。どちらも5本一組とする櫛状工具で上から下へ、時計回りに施文している。内面と底面はナデを行っている。なお、133の底面は砂目敷きであったことが確認できる。135は、体部に焼成後の穿孔がみられる。134は無文の壺である。外面はハケ調整を行った後、頸部近くまで、ハケを板ナデで消している。底部は剥離が激しく、ナデがあるかないかは不明である。口縁は残りが悪いものの、ヘラ工具による刻みを施していることがわかる。

136～138は、残りが悪く、口径は不明瞭である。137は薄い作りで、外面はハケを残したまま、4本一組の櫛状工具で直線文を施す。口縁端面はX字状の刻みを施している。このX字状は、左から右斜めに刻みを施した後、右から左斜めに刻みを施している。136はハケをナデ消した後、二条単位で直線文を二段施し、その下に波状文を施す。口縁端面は上からのみ、指による凹圧が確認できる。138は136と同様、ナデ消した後、4本一組の櫛状工具で直線文を施す。口縁端面は上下両方からの指による凹圧が施される。

139は大型壺の体部である。外面はハケ調整の後、丁寧なナデ消しを施し、その後、5本一組の櫛状工具で直線文を施す。おもしろいことに、直線文に挟まれる文様は段ごとに違った文様が施されている。直線文に挟まれる箇所を上から、一段目は無文、二段目は円形刺突文、三段目は波状文、四段目はヘラ工具で描かれた菱形の文様を施している。この様相からすると、直線文を施した後、その中に違う調整を行ったと考えられる。なお、波状文は直線文と同一工具と考えられる。内面は丁寧なナデ調整である。

140は小型の壺である。櫛状条痕で施文して作られている。外面体部下半は横方向に、上半は縦方向に条痕を施している。ちょうど胴部最大径の調整が見えないため、順序は不明である。口縁付近には明瞭な指押えが残る。口縁端部には二列の刺突文を施すが、一カ所空白の部分があり、口の形からして、注ぎ口ではないか。内面はナデ調整である。

141は外面は荒い縦方向の板ナデ、内面は指ナデを施しているが、最大径から少し上の箇所の接合痕は消しきれておらず、明瞭に残る。

142は壺の体部上半と考えられる。体部内面ハケ調整後ナデ、外面は刻みを部分的に施す断面三角形の突帯を一段施し、その下に粘土紐を貼り付け指ナデを施しながら、断面三角形の突帯を渦状に作っている。その後、一段目の突帯の上に直線文、波状文を施している。なお、突帯の上には部分的に刻みが施されている。

144は外面は斜め方向に櫛状条痕を施した後、上下に板ナデを施す。内面は土器の剥離が激しいが、ナデであることが確認できる。また、焼成後の穿孔が一对あり、土器の破損部分と一致しないことから、補修孔ではなく、転用の際に利用されたものと考えられる。なお、この対角線状にあたる箇所が

欠損しているため、蓋穴用かは不明である。

143はこの層で取り上げているものの、混入である可能性が高い。取り上げ層：16層で出土している条痕文系の壺と類似したものと考えている。土器は頸部近くの箇所と考えられ、外面には赤彩が部分的に施されている。内面は黒色を呈し、明瞭な粘土接合痕がみられる。

145・146は沈線文系の壺である。145は内外面とも丁寧なミガキ調整を施し、頸部との間に明瞭な段をもつ。外面には三条のヘラ工具による弧線を施し、一部彫り込み、区画を作っている。その文様の下は縄文で充填される。146は外面ミガキ、内面は頸部までミガキを施す。外面の口縁は三条のヘラ工具による弧線を施し、中を縄文で充填している。口縁端面には八方向の瘤状突起があり、その間をヘラ工具による横羽状でうめっている。外面胴部は二段のコの字重ね文を施す。上段は、コの字重ね文の外は縄文を充填し、中は無文と縄文で充填するものを交互に施している。また胴部は1/3しか残存しないが、口縁の文様が八方向であることや文様の幅から、八方向に瘤状突起及び文様は作られていると考えられる。なお、瘤状突起には巻貝による刺突が施されている。

148は内外面ともハケ調整であり、口縁は指ナデを施し、口縁端部には羽状刺突文が施されている。

150・151はいずれも口縁端部に刻みを施し、外面に4本一組の櫛状工具で上から下に三条施し、下端に三角刺突を施す。内面はハケ調整である。149も同様な甕の体部破片と考えられる。

147・152・153は、無文のハケ調整の甕であり、153のみ内面にハケが残るが、147・152は丁寧なナデ消しを行っている。152・153は口縁に指ナデを施し、深く口縁端面に刻みを施す。口縁内面にみえる指の接着痕は、刻みを施す際についたものと思われる。

154～160は条痕文系の甕である。154は外面は縦方向の条痕を施し、口縁から9cm下にかけて、横方向に条痕を施す。内面は横方向に丁寧なナデを施し、口縁付近は明瞭な指押えが確認できる。155は取り上げ層：10層の中でも上面から出土している。外面はヘラ工具による横羽状を施し、154同様、その下は横方向の条痕を施す。156は内外面とも横方向の条痕であり、口縁端部には、ヘラ工具による凹圧の一つ確認でき、六方向に付けたと考えられる。また口縁内面には、2本一組の櫛状条痕による刺突が施される。158は小型の甕で、外面は縦方向の条痕、内面は条痕の後、横方向のナデを施す。159・160は二点とも外面は横方向の条痕、内面は横方向のナデを施し、口縁端面に面をつくっている。159は押し引きの廉状を、160は斜めに浅い指押えを施している。157はこの層以前の混入の可能性が高い。外面は横方向の条痕、内面は丁寧なナデを施す。

5) xii C層出土土器 (7～10Gr 取り上げ層：10層) (第22図～第24図)

6Gr以東に比べ、下層から遺物の出土がみられる分、出土するものは下層の混入がみられることと取上の際の誤認が生じていると考えられる。

161は外面に板ナデを行った後、胴部下半は縦方向にミガキを行う。6本一組の櫛状工具で、口縁端面には一条の直線文を、胴部外面には頸部に三条、胴部に二条一単位で合わせて三段施している。また胴部の二段と三段目の間は直線文を施文した後、横方向のミガキを施す。内面はハケ後、丁寧なナデが施される。

162・164は10層で掲載しているが、この層の上面から出土していること記す。162は外面に櫛状条痕を時計回り横方向に施し、指ナデを一条挟んで縦方向に条痕を施している。その後、ヘラ工具で一条波状文を施している。内面は丁寧な横方向のナデを施している。

163は、内外面ハケ調整を施す。その後、外面には4本一組の直線文を時計回りに施し、下端に三角刺突を施す。口縁は内外面ナデを施し、口縁端部に連続した刻みを施す。164は外面は下から上へ

順にハケを施し、口縁端までいたる。その後、体部上半に、2本一組の施文工具で時計回りに波状文を施す。口縁端部は、連続した刻みと、ヘラ工具による四つの刻みを一組として八方向に施している。内面は斜めにハケ調整し、その後ナデ消しをしている。頸部から口縁端にかけては横方向にハケを施している。なお、この土器は取り上げ層：9層において多くみられる器形である。

165は外面は細い条痕が横方向に施され、内面は丁寧な横方向のナデが施される。口縁は内外面ナデを施し、端部に連続した刻みを施している。

166は内外面ハケ調整を施し、口縁は内外面に横方向のナデを施している。また底部は欠損しているが、底部近くに土器の破損範囲に接着剤的な塗料の付着がみられ、その箇所にも補修孔が1点あけられている。なお、対になる穴は欠損のため不明である。

167・168条痕文系の壺である。外面に横方向の櫛状条痕を施し、内面は丁寧なナデを施す。167の口縁は直立しており、口縁端面を肥厚させた箇所に連続した刻みを施す。168の口縁はやや外反させ、先端尖らせた端部に連続した刻みを施す。167は条痕調整後、6本一組の櫛状条痕で波状文を二段施している。おそらく、横方向に施される条痕施文工具と同一であろう。

169は下層遺物の混入と思われる。外面は斜め方向に条痕を施し、内面は丁寧な横方向のナデを施す。口縁外面には1cm程度の幅で、横方向のナデが施されている。

170は外面縦方向に櫛状条痕を施し、頸部には同一工具で直線を施す。内面は条痕の後、頸部近くまでナデ消している。なお口縁は残りが悪く、何単位かはわからないが波状口縁である。

171は鉢であろうか、外面口縁付近に一条、体部最大径の所に弧状に粘土帯を貼り付け、その上に縦縄文を施す。内面は丁寧な横方向のナデである。

172は外面にヘラ工具による文様を施し、その後ミガキを施している。内面は横方向に丁寧なナデを、口縁内面はヘラ工具による沈線を一条ひき、段をもたせている。

173は外面に指による沈線を三条施し、その下及び内面は横方向のミガキを施す。

174は下層の混入と考えられる。内外面に横方向の条痕を施す。

175は外面横方向の櫛状条痕を施し、外面に肥厚させた口縁から頸部にかけて、4本一組の櫛状条痕による刺突が施されている。口縁内面には斜めに条痕が施されている。おそらく、外面の条痕の施文工具と同一であろう。内面は丁寧なナデである。

176は外面に条痕調整、内面に横方向のナデを施し、口縁はやや外反し、端部には連続した刻みが施される。

177は受け口状の条痕文系の壺であり、口縁端は欠損している。口縁外面は指による非連続な横方向の沈線、その下には指による凹圧を施し、その間を円形刺突で充填している。頸部には、指による沈線が施されている。内面は条痕の後、横方向のナデが施されている。

178・179・180は混入の可能性が高い。178は取り上げ層：16層から出土する土器と類似し、胎土にも海綿骨針を含有する。外面は指による連続した凹圧を三段、内面は横方向のナデを行うが接合痕がみえる。180は鉢であり、外面にはヘラによる沈線を入れ浮文上にし、ミガキを施す。内面は横方向のミガキを施している。

181は鉢であろうか、外面は縦方向のハケを施した後、1.5cm程度の楕円状の突出があり、それを囲むようにヘラ描きが施される。把手か？内面は横方向のハケが施されている。

182は外面にハケ調整の後、櫛状施文工具をナデ消している。文様は5本一組の櫛状工具で直線文を二条施し、その間に円形刺突を施している。内面は横方向のハケ調整の後、横方向のミガキを施す。

6) xii S層出土土器 (7~10Gr 取り上げ層:10層砂) (第25図)

埋積浅谷の肩部に位置し、砂層である。そのため下層の混入や取り上げでの誤認が多いと考えられ、土器量は少量であるが、xiiC層出土土器とは分けて報告する。

183・184は小型の甕である。内外面条痕を施し、底部は横方向のナデを施している。183の口縁のみ横方向にナデで内傾ぎみになっている。

185は浅いあたりの条痕を内外面に施し、内面は部分的にナデている。

186・187は内外面横方向の条痕を施し、187は内面横方向のナデを施している。口縁は直立に立ち、先端に連続した刻みを施す。

7) xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層:9層) (第26図~第36図)

集積部分の箇所でもっとも土器量が多く、出土した層である。5・6Grはその中でも層が厚く一定量出土している。すべての土器を掲載できた訳ではなく、特徴あるものは破片でも掲載し、多く出土しているものは割愛していることを了承されたい。

188~197は櫛描文系の壺である。191は口縁から欠損して分からないが、190は受け口状を呈し、195は袋状を呈する。受け口状のものは、やや後出のものになるのかもしれない。188~196は内外面ハケ調整を行った後、頸部から体部上半に櫛描文を施し、189・191・193は体部下半を、196は体部内面をミガいている。内面はハケ調整の後、体部上半まで指によるナデ消しが施され(188・190・192・194)、口縁までナデが及んでいるものもある(192・193・195)。櫛描文様は、直線文も波状文も同一工具が使われており、上から下へ順に描いている。それぞれまったく同じパターン文様のなく、直線文からはじまり、波状文で終わるもの(189・193・195)と直線文で終わるもの(188・190・191・192)がある。直線文に挟まれる波状文が一条のもの(188・192・193・195)二条のもの(189・190・191)がある。194は直線文の間に三角刺突が施されており、直線文を施した後、施したのだろう。次に、口縁に文様を施しているものをみていくと、190は受け口外面に直線文と波状文を施し、下頸部に連続した刻みを施す。196は肥厚した端面に直線文を一条施し、両端から連続した刻みを施している。194は角度を変えて刻みを二段施し、横刺突羽状文を施している。197は口縁しか残存しない。口縁端部と内面に縄文を施している。その後、内面には2本一組の条痕で一周描き、段を作り、鋸歯状に二段施している。

198・199は無文の壺である。内外面ハケ調整を施し、199は、外面は頸部近くまでミガキを施しており、二点とも内外面体部上半はナデ消している。198の口縁端部は大きめの三角刺突を施し、199はX字状の刻みを施している。

200は口縁端を欠損するが、受け口状を呈していたと考えられる。内外面は丁寧な横方向の指ナデを施し、口縁には、3本一組の櫛状条痕で文様を描いている。頸部には一条施文がろうじて確認できる。

201~216は条痕文系の壺である。すべて内面は横方向のナデを施し、外面体部下半は縦羽状にするもの(204・211・215)、斜め方向にするもの(209・210・212)、横方向に施すもの(208・216)がある。外面頸部から体部上半の文様はさまざまであるが、基本として櫛状条痕で施し、文様の下端にヘラ工具で山形文を施すもの(209)がある。文様の施文パターンは、直線を施す文様の土器(201・209・212)は、まず直線で三段に区画分けを施し、その後波状文(212)もしくは跳ね上げ文(201)を施している。ただし208や210は例外である。210は頸部から二段直線を施しその後、波状文を施し、最後に三段目の直線文を施している。208は文様の施文方法は櫛描文土器と同様で、同一工具で上か

ら下へ順に直線文と波状文を交互に施文する。次に、横羽状のもの(202・205)は、下から順に上の段へと羽状を施している。202はその後、斜線の接点に扇形文を施している。203は頸部を横方向に条痕を施した後、五方向に垂線を施している。また口縁に付く突出部も同じ方向で五単位施されおり、その後横方向の直線で埋めている。口縁は受け口状(203・205・206)のものと、外反するもの(201・202・207・213)がある。外反するものは外側に粘土を貼り付けて、段をもたせ、その箇所斜め方向の条痕(201)や、扇形文(202)などを施している。しかし、207は口縁端部、縦方向の連続した短線をひき、粘土紐を口縁下に貼り付け、その上を指による凹圧を加えている。203のようにかなり内傾するものや206は、内面には文様が施されませんが、殆どのものは施文されるようである。口縁内面の文様には横羽状を施すもの(201・202)や、垂線を施すもの(205)、波状文を施すもの(213)がみられる。これらの文様は次の層で構文に採用されていくようである。なお、215・216は胎土、質感が在地のものとは違い、搬入品と考えられる。215は貝殻条痕調整であり、頸部には粘土帯を貼り付けて、貝殻による連続した凹圧が施されている。216は頸部近くに二点の指凹圧がみられる。外面は細い樹状条痕で横方向に施す。

217～229は沈線文系の甕である。外面の文様はさまざまである。内面は丁寧なナデで、頸部から口縁にかけて外反する箇所に、ミガキを施すもの(220・221・223)もある。外面はヘラ描きのみで施文されるもの(217～223・226)と、それに加え縄文を充填するもの(224・225・228・229)、貝殻で擬縄文を施すもの(227)などがある。文様は弧線文、コの字重ね文、重区画文、刺突羽状文、円形浮文などを多様に施し、構成されている。円形浮文には、ヘラによる刻みをおこなうもの(218・222)、まれに221のように、巻貝で刺突しているものもある。なお、221・227～229に関しては、搬入品の可能性が高い。

230～234は構文系の甕である。230・231は搬入品である。外面ハケ調整を施し、構文施文箇所はナデ消しを行っている。二つとも直線文の間には円形刺突が施され、口縁端部には連続した刻みが施されている。内面はハケ調整の後、ミガキ調整を行う。232～234は在地の構文系の甕である。外面ハケ調整を施し、直接文様を施す。いずれも下端は波状文で終わっている。口縁は、搬入品と比べ、間延びしているのが特徴である。端部は軽く内外面ナデ調整を施し、連続した刻みを施す。なお、233に関しては2個一組の部分凹圧が施されており、四方向存在したと考えられる。内面はハケ調整の後、縦方向に指ナデを施すもの(233・234)がある。

235～244は無文のハケ甕である。外面は下から上へ順にハケ調整を施し、内面はハケ調整で終わるものと、ナデ消すもの(235・237・238・242～244)がある。口縁は在地の構文を施す甕同様、間延びしており、頸部近くまで内外面ナデのもの(235・236)、一～二条ほど内外面をナデのもの(237～240・243・244)があり、端部には連続した刻みを施す(235～241)。刻みを施す中には、連続した刻みと2個一組の部分凹圧を施すもの(239)や2個一組の刻みを六方向施したと考えられるもの(243)、3個一組の刻みを九方向施すものがある。なお、235は底部にも横方向の丁寧なナデ及び底面もナデであり、ハケが細かく、他のものと様相が違うことや胎土からも搬入品の可能性が高い。236はxi層でみられたタイプの土器である。240は口縁内外面に軽い指凹圧の後がみられ、次のx層でみられる小波口縁を感じさせる。

245～261は条痕文系の甕である。ただし249・252に関しては頸がややすぼまり、甕であっても良かったのかもしれない。260・261は混入と考えられ、xi層より下層のものと考えられる。

245～248は、条痕文系の甕でも文様を施すものである。245・246は外面に条痕調整を行った後、同一工具で245は直線文を体部最大径に施した後、上下に波状文を施し、246は体部最大径に波状文

を一条施している。247は縦方向の条痕を施し、体部上半に直線文を一条ひき、体部上半より上にはヘラ工具による縦羽状を施している。口縁は246・248は内面に波状文を施し、端部には連続した刻みを施している。さらに248は2個一組の部分凹圧が施される。247は端部に2個一組の部分的な刻みを施している。内面は条痕文調整の後、口縁までナデ消すもの(246・247)と頸部近くまでナデ消し、条痕を残すものがある。後者は、櫛描文を施す寛の施文方法と同様である。

249～259は条痕文系の無文の壺である。251・253・254・256～259は、xii層でもみることができる土器群であり、内面頸部から上の横方向の条痕を残すものは、前述同様新しい様相と考えられる。外面は横方向に条痕を施すもの(251・253・256・258)、縦方向に施すもの(250・252)、横から縦に切り替わるもの(249・254・257)がある。ただし257は横方向の条痕の後、櫛状条痕で縦方向に短く施している。口縁はやや外反し、端部には連続した刻みを施している(249・251・253・254・256～258)。255は外面板ナデが施され、ヘラ工具による横羽状が口縁に施され、口唇部には連続した円形刺突が深く施される。内面は貝殻条痕が横方向に施され、口縁端部はナデ消しが行われている。胎土や調整から搬入品の可能性が高い。259は横方向にヘラ工具で何条も描いた後、縦に区画を施している。その後、丁寧なミガキが施される。口縁端部には、同一工具のヘラによる横羽状が施される。内面は丁寧なナデ調整である。

262・263は鉢であろうか。263は口縁の全体を、262は一部粘土帯を巻き上げて作られている。262は内外面ハケ調整の後、ナデ消しを施し、口縁端部には連続した刻みを施す。263は外面縦方向のハケ調整後、底部には縦方向のミガキを施している。内面は斜め方向のハケ調整を施し、部分的に体部下半は縦方向にナデている。口縁は内外面ナデ調整を施し、外面には横方向のハケ調整が施される。

264・265は鉢である。264は内外面斜め方向のハケ調整を施し、外面体部下半は一部ミガキ調整を施し、底部は二条ほど横方向にナデ、内面底部も横方向にナデ消されている。口縁は内外面一条ほどナデている。265は外面下から上へ順に縦方向にハケ調整を施し、その後、体部下半は板ナデを施す。内面は斜め方向のハケ調整を施した後、口縁付近は横方向に施す。口縁端部と外面体部上半に連続した刻みを施すが、体部のものは口縁のものに比べると大きく、別工具と考えられる。

266は高坏であろうか。外面は縦方向のハケを施した後、縦ミガキを施し、脚端部は三条ほどナデられている。脚内面は丁寧なナデが施され、坏部内面は横方向のミガキが施される。

8) xiC層出土土器(7～10Gr取り上げ層:9層) (第37図～第38図)

今回提示してある資料は、壺は条痕文主体となっているが、櫛描文の壺も出土していることを了承されたい。なお、様相としては2～6Gr内の取り上げ層:9層と同様であると考えていただきたい。267は無頸壺であり、一対の穴が二方向に確認できる。外面は横方向のミガキ調整を施し、内面は丁寧なナデが施されている。

268は外面ハケ調整の後、体部下半は縦方向に、体部最大径は横方向にミガキが施されている。内面はナデ調整で、頸部からは横方向のミガキが施されている。

269～275は条痕文系の壺である。269・270は貝殻条痕で調整及び施文を施している。口縁は受け口状を呈し、端部には押し引きを、外面には押し引きの直線を施した後、円形浮文をつけて、貝殻の殻頂部に凹圧している。下頸部は、三角形に連続した段をもつ。内面は二条の直線を施し、垂線を施している。270は269と比較すると、下頸部は指凹圧が施され内面には269の文様に山形文が加えられている。いずれも同一地域の搬入品と考えられる。271～275は櫛状条痕で施されている。内面は丁寧なナデ調整が施され、口縁は外反し肥厚するものと受け口状のものとなる。275は条痕で調整

されるものの、文様構成は223に類似している。外面は体部下半、横方向に最大径は縦羽状を施す。体部上半は直線文を五条施し、直線文に挟まれる間に連続した円形刺突を施している。なお、文様間は横方向のミガキを施している。口縁内面にはヘラ工具による文様が施される。

276・277は沈線文系の壺である。276はヘラで五単位に区画し、コーナーには瘤状突起をつける。コの字を描いた中には、刺突でコの字重ね文を描いている。なお、内外面の頸部はミガキ調整を施している。口縁は外側を肥厚させ、五単位に6～7列の刺突を一組として施している。277は内外面ナデ調整の後、横方向にミガキ調整を行う。口縁の内外面には、三条の沈線が施されている。

278・279は櫛描文系の甕である。外面は縦方向に、内面は斜め方向にハケ調整を施している。279は口縁から頸部近くまで、内外面ナデ調整を行う。外面の文様は同一工具で上から下へ順に施している。口縁は278は連続した刻みを、279は3個一組の刻みを五方向に施している。

280は細い条痕により外面は縦方向に施し、内面は体部上半まで丁寧にナデ消されており、頸部より上に横方向の条痕が残る。口縁は外反し、端部には連続した刻みを施す。

281は外面に縦方向のハケを施した後、口縁から体部最大径まで横方向にナデている。内面は斜め方向にハケ調整を施し、頸部より上は横方向にナデている。口縁は外反し、端部には連続した刻みを施している。

282は外面横方向に条痕を施し、内面は丁寧な横方向のナデが施されている。口縁は直立し、端部には連続した刻みを施している。

283は甕の体部である。外面はハケ後ミガキ調整を施している。5本一組の直線文と円形刺突が交互に施されている。284は沈線文系の壺であり、下層の混入であろうか。外面は重区画の文様を施し、内面はヘラで二条直線を施し、その間に円形刺突が施されている。内外面、丁寧なミガキ調整である。

9) xi層出土土器 (2～6Gr 取り上げ層：9層上面) (第39図～第42図)

取り上げ層：9層の中でも、取り上げ層：8-2層黒褐色埴土との層離面に位置し、定量の遺物があったため、個別に掲載することにした。遺物からは9層と8-2層の過渡的な様相がみえるものと考えられる。

285は無頸壺である。外面はヘラ工具による沈線を横方向に施した後、その間を縦方向の短線が充填する。焼成前の穴が口縁近くにあり、おそらく一対になり、蓋穴用と思われる。また外面には全面に、赤彩が施されている。内面は横方向のナデが施されるが、接合痕は消しきれていない。

286～288は条痕文系の壺である。286は口縁は外面に肥厚させ、その部分に櫛状条痕で連続した刺突が施され、下頸部に指による凹圧が施される。口縁端部は押し引き直線文が施され、波うっている。口縁内面には横方向に条痕が施される。287は体部下半縦羽状を施した後、4～5本を一組とする櫛状条痕で直線文を頸部と体部最大径と二段施す。二段目には時計回りに跳ね上げ文を施した後、跳ね上げ文の上に直線文を一条施し、その上に短い跳ね上げ文を施す。内面は丁寧な横方向のナデである。288は内外面とも丁寧なナデ調整を施している。外面頸部には貼付突帯をつけ、刻みを施し、八方向につくのであろうか、円形浮文を貼り付け、十字に刻みを施している。そして4本一組の櫛状条痕で、直線文を一条ひき、突帯とで二段もうけ、その中に斜格子状の文様を施している。口縁はヘラ工具で重区画を施し、下頸部に連続した刻みを施している。口縁内面は、二条横方向に直線文を施した後、二条一単位とした垂線が施されている。

289は内外面に丁寧な横方向のナデが施されている。外面には櫛状条痕による波状文が描かれていたと考えられる。口縁はふくろ状を呈し、内面に斜めの指凹圧が施され、口縁端部を波立たせている。

290は無頸壺である。口縁には一対の蓋穴が確認できる。内外面はハケ調整の後、外面体部下半は縦方向、体部最大径は横方向のミガキ調整が施される。体部上半には、5本一組の櫛状工具で上から下へ順に直線文と櫛描文が施され、下端に連続した三角刺突を施している。

291は内外面の剥離が激しく、調整はみえにくい、板ナデ調整であることが確認できる。

292は沈線文系の壺である。内外面丁寧なナデ調整を施し、外面にはヘラ工具による文様が描かれる。文様及び口縁の波状は六単位で構成され、直線文を四段とその間に弧線文を交互の向きに四段施している。また凸部分が上向きの弧線文には中に、下向きの弧線文には外に縄文を充填している。そして、文様間にはミガキ調整が施されている。口縁内面は、一条沈線を施し、段をもたせ、縄文を充填し、口縁端部にはくぼみ箇所に刻みを施している。

293～295は体部最大径に瘤状突起を付ける土器である。293・294は内外面ハケ調整を施し、293は外面体部上半に6本一組の櫛状工具で六方向の擬流水、その下に波状文を一条施している。口縁は両者とも大きく外反しており、293は口縁端部に連続した刻み及び2個一組の部分凹圧を施している。内面は瘤状突起4～5個を一列として二列一組にして、その間に直線文を施し、さらにそれを一単位にして四方向に施している。294は三条の波状文が施された上に瘤状突起が四方向につく。295は沈線文系と条痕文系の融合した甕と考えられる。外面は櫛状条痕で斜め方向に施し、頸部には同一工具で二条の直線文を施す。さらに直線文の下端には押し引きの連続した刻みを施し、口縁内面には刺突羽状文が施されている。

296～301は櫛描文系の甕である。内外面は斜め方向に下から上へ順に施していき、内面は指ナデで頸部近くまで縦方向にナデている。口縁は297の小波状口縁を除いて、連続した刻みを施している。なお、296は四方向に2個一組の部分凹圧が施されている。298・299は、口縁内面に櫛描文が施される。298は直線文を299は波状文が施されている。

302～304は無文の甕である。内外面はハケ調整を施し、303・304は頸部近くまで縦方向に指でナデ消している。口縁端部は302は波状文が施され、303・304は連続した刻みが施される。そして302は2個一組とした部分凹圧が十方向、303・304は四方向に施されている。なお、303の底面には焼成後の穿孔がみられる。

305は外面にヘラ工具による横羽状を施し、内外面に丁寧な横方向のミガキを施している。口縁端部には、連続した刻みが施される。

306は条痕文系の甕であり、内外面に横方向の条痕調整を施す。内面は頸部近くまでナデ消している。口縁は外反し、端部には条痕による連続した刻みを施している。

307は外面下から上へ順に、内面は横方向にハケ調整を施し、外面の底部近くは横方向にミガキを施している。内面は部分的にナデ消されている。

308は内外面に横方向の丁寧なミガキが施され、体部上半には円形刺突と4本一組で直線文と波状文が施されている。

309は沈線文系の壺である。内外面丁寧なナデ調整の後、横方向のミガキ調整を行う。外面は頸部に貼付突帯を施し、口縁端部と突帯上に連続した刻みを施す。なお、頸部の突帯上には部分的に楕円状の浮文が八方向に付けられた上にも刻みが施される。そしてヘラ工具による横方向の沈線を二条施し、それを中央に横羽状が二段施される。その段の間に二条一組の弧線文が施されている。口縁は内面を肥厚し、十～十二単位に波状があったと考えられる。その波状に合わせて、三条一組とする弧線文を施し、五条の沈線が施されている。

310～312は壺の口縁である。310は条痕文で施文されており、311は頸部には条痕が施されるも

の、肥厚した口縁外面と端面には、7本一組の櫛工具による波状文が施されている。312は、下顎部には連続した刻みを、外面には三本の棒状浮文をつけ、その後羽状刺突文を施している。口縁内面及び頸部は横方向のナデである。

313・314は条痕文系の甕である。313は内外面の頸部から下は横方向の条痕が施され、口縁から頸部にかけては斜め方向に施される。314は外面は下から上へ櫛状条痕で横羽状を施し、内面は横方向の丁寧なナデが施される。口縁端部は連続した条痕による刻みが施され、2個一組の部分凹圧が八方向に施されていたと考えられる。

10) xA層出土土器(2~10Gr取り上げ層:8層黒褐色埴土) (第43図~第47図)

315~345までは2~6Gr出土資料で、346~355は7Gr以西の出土である。

315~317は条痕文系の壺である。315は受け口状を呈し、下顎部は肥厚させ下方に条痕を施した後、指による凹圧が施されている。口縁にはヘラによる文様が、端部には連続した刻みが施されていたと考えられる。316は3本一組の櫛状条痕で外に波状文と直線文、内面には二条の波状文が施され、端面には押し引きの直線文が施されている。317は体部外面は条痕施文後、乱雑にナデている。頸部には貼付突帯を付け、その上に連続した指の凹圧が施されている。その後、頸部に縄文を施したようである。内面は明瞭な指押しえと接合痕が残る。

318~321・323は櫛描文系の壺である。318は内外面ハケ調整を施し、外面は口縁の屈曲部から横方向のナデを施している。口縁には連続した円形刺突を施し、5本一組の櫛工具で波状文、直線文、頸部には直線文と波状文を施している。319は内外面ともハケ調整の後、横方向のナデを施している。口縁には3本一組の櫛工具で波状文、糜状文、直線文を施し、下端に三角刺突を施している。また、口縁端部には一条の沈線を施した後、連続した刻みを施し、下顎部にはX字状の刻みが施されている。320・323は内外面ハケ調整の後、外面は横方向のミガキを、内面は体部上半までナデ消している。321も内面は同様であるが、体部外面のミガキは下半のみである。櫛描文様には、すべて上から下へ同一工具で施文され、文様構成の中に糜状文が入っている。321は口縁内面に体部櫛描文と同一工具で、垂線を十方向施している。320には蓋穴は存在しない。

322・324~326は無文の壺である。322は内外面にハケ調整を施し、口縁内外面と外面底部は二~三条横方向のナデが施され、口縁端部には連続した刻みを施している。324・325は内外面ハケ調整の後、324は体部下半横方向のミガキを、325は頸部近くまで縦方向のミガキを施している。325の内面は体部上半までナデ消している。326は外形接合であり、内外面板ナデで調整し、外面頸部のみ横方向のミガキを施している。なお、底部には砂目数が確認できる。

327・328は沈線文系の壺である。327は内外面ナデ調整が施している。外面の文様はヘラ工具で口縁と頸部に四~五条を一組として施し、その間を縦方向の四~八条を一組とし直線を施している。そして体部下半には重区画文を施している。文様はすべて四単位で施されている。328は外面は一对の瘤状突起が二カ所張りつき、その後縄文を全体に充填している。そして二条の沈線が縦方向に施されている。内面は縦方向のハケ調整の後、薄くナデている。

329・330は内外面ハケ調整を施し、330は口縁内外面ナデ調整を施している。329は外面に櫛状工具で横羽状を上から下へ、330は櫛状工具で直線文を二条施した後、上から下へ斜めに施している。口縁は329は連続した刻みを、330は2個一組とする刻みを七方向施している。

331・332は口縁内面を加飾する甕である。内外面ハケ調整を施し、331は頸部近くまで内外面ナデている。332は内面を部分的であるが、縦方向にナデている。文様は331は外面に直線文、波状文、

直線文・廉状文を施し、口縁内面に二条一組で四方向に施されている。332は外面は6本一組の太い櫛状工具で一条波状文を施し、口縁内面には293と類似した文様構成を施している。293のように瘤状突起ではなく、棒状浮文に刻みを入れたものを二列施し、その間に直線文を施している。

333～337は櫛描文系の甕である。333はxi層でみられた器形で、内外面ハケ調整を施し、口縁内外面と体部内面はナデ調整が施されている。外面の文様は直線文・波状文・直線文を一組にして二段施され、その間に三角刺突が施される。334は内外面ハケ調整を施し、外面には二～三条の短線を間隔を開けて施し、その下に波状文と直線文を施している。口縁外面は二～三条横方向にナデられており、口縁端部には連続した刻みと2個一組の部分凹圧を四方向施したと考えられる。335～337は内外面ハケ調整を施し、335・336は内面を指で縦方向に頸部までナデ消し、337は横方向に口縁近くまでナデ消している。外面の文様は、335・336は直線文と波状文を、337は直線文のみで五条施している。口縁端部はいずれも連続した刻みを施している。

338～342は無文の甕である。内外面にハケ調整を施し、338・340は体部内面横方向に、339は縦方向に頸部近くまでナデ消されている。また339・340・342口縁内外面もナデ調整が施されている。口縁は340以外連続した刻みが施されている。

343は内外面に縦方向にハケ調整を施し、その後内外面ともにミガキを縦方向に施している。底部付近は外面は連続した指押えがみられ、内面は縦方向のナデが施されている。

344条痕文系の甕である。外面には斜め方向の条痕が施され、内面は横方向の丁寧なナデが施されている。口縁端部には指による2個一組の凹圧が一カ所確認できる。

345は鉢である。内外面斜め方向にハケ調整を施し、外面には5本一組の櫛状工具で直線文を上から順に六条施し、その上に扇形文を施し、擬流水文を描いている。下端には連続した三角刺突が施されている。

346・348は、櫛描文系の壺である。内外面ハケ調整を施し、内面は頸部近くまで、縦方向に指ナデを施している。その後外面の施文は346は、5本一組の櫛状工具で直線文と波状文を交互に四段施し、口縁端部には斜格子状の刻みが施されている。口縁内面は連続した三角刺突を四段施している。348は5本一組の櫛状工具で、直線文を一条と扇状に九単位施している。口縁端部は棒状の工具で、やや横に押し引きした刺突を連続して施している。

347・349～351・354・355は条痕文系の壺の口縁である。内面はすべて丁寧なナデである。前段階に比べると口縁の文様をヘラ工具で施すものが増加している。347は体部に横方向の櫛状条痕を施し、下頸部には連続した刻みを施し、指沈線を一条そして連続した指による凹圧が施される。その後、3本一組の櫛状条痕で垂線をひき、垂線間に弧線文がめぐる。口縁は、擬流水文を施した後、端部にヘラ工具による細い刻みが施されている。内面は丁寧なナデである。349・350は頸部は縦方向の櫛状条痕が施され、349は同一工具で、350は5本以上を一組とした櫛状工具で直線文を施している。口縁は349は重区画文を350はおそらく線鋸歯文を描いていると考えられる。内面は条痕後、横方向の丁寧なナデである。351はこの層でも床から出土しており、取り上げ層：9層上面でも良かったのかも知れない。頸部は連続した横方向の条痕を施し、下頸部を肥厚させ、その箇所二段の連続した指による凹圧を施している。その上には二条、ヘラ工具による沈線がめぐる。内面は横方向の丁寧なナデが施される。354は山形状に貼付突帯を施し、貼付突帯の上と口縁端部に条痕で連続した刺突を施している。355は粘土を貼り付けた上に同心円状にヘラ工具で二重施し、その両端にくの字状に描き、同心円状とくの字状の間を横方向にヘラ工具による短線で充填している。

357は条痕文系壺の体部である。体部には櫛状条痕による縦羽状が施され、体部上半には直線文と

縦方向の短線が施される。その下、縦羽状の上に二条の山形文が施されて、その二条の山形内には、円形状の赤彩が施されている。また直線文の上には瘤状突起がついており、その突起にも赤彩が施されている。

356は内外面縦方向のハケ調整を施し、内面は丁寧にナデられている。頸部には貼付突帯が施され、その上を連続した指凹圧が施されている。体部には、板状工具による連続した刻みが七段施されている。胎土は石英質が多く、質感等からも搬入品と考えられる。

358～361は無文の甕である。内外面ハケ調整を施した後、359・360は体部最大径のあたりまで縦方向に指でナデ消している。口縁は358は連続した刻みを、360・361は上下を違えて指凹圧し、小波状をつくっている。359は一部、三角形状に突起をもち、その間を円形の押し引きの刺突が施されている。なお、体部上半には調整ハケと同一工具で、二～三条ほど直線文を施しているようにもみえる。362は外面は縦方向に、内面は斜め方向にハケ調整を施し、外面の体部上半には、連続した押し引きの刺突が施される。口縁は内外面、横方向の丁寧なナデが行われ、くの字状を呈する。この層から出土している土器と比べて、胎土はあまりにも細かく薄い作りであり、搬入品と考えられる。

11) 1x1 A層出土土器(2～7Gr 取り上げ層:8層黒褐色砂～埴壇土層) (第48図～第49図)

この層から以下報告する2～6Grの木製品集積部分の箇所は、段階毎の層堆積が薄く、取上の際におきる混入の可能性が高い。しかしその状況下でも様相差がみえると考えられたので、取り上げ層に従い掲載している。なお、十分に分類・接合・復元までできなかったため、ごく一部特徴的なものの抽出で、掲載が終わっていることを了承されたい。なお、接合した土器片の中に、何層にもまたがるものは、現位置の信憑性が高い層での掲載を行っている。

363・364は条痕文系の壺である。363は内外面ナデ調整を施した後、直線文を数条施し、その直線文の上端と中間、末端と三段にヘラ工具による押し引きの刺突が並ぶ。その後、押し引き刺突に区画された間に、弧線文が二段とその下にもう一段施されている。なお、直線文が施されていない箇所には縄文が充填されている。364は内外面ナデ調整を施し、外面は3本一組と7本一組の櫛状条痕で文様が施されている。頸部には数条横方向に直線を施した後、3本一組の工具で直線文の上端、下端に凸同志が向かい合うように弧線文を施している。その後、弧線間の幅広い部分には押し引きの短線で、狭い部分には垂線が施されている。口縁は、弧線文の間に直線文が施され、下頸部のいは3本一組の工具で刻みが施されている。

365・366は細頸壺である。365は口縁を内傾させ、内外面ハケ調整の後、丁寧にナデが施されている。外面は5本一組の櫛状工具で口縁端面に波状文、頸部には波状文と直線文を交互に二段とその下に波状文と廉状文が施されている。366は6本一組の櫛状工具で廉状文、直線文、波状文を施し、下端に大きく描いた波状文が施されている。口縁端部には櫛描文施文工具と同様なもので連続した刻みが施されている。367は底部及び頸部を欠損する。外面はハケ調整の後、7本一組の櫛状工具で文様を施し、体部最大径から上は横方向に、下は縦方向に丁寧にミガキを施している。内面は丁寧にナデが施されている。

368・370・371は櫛描文系の甕である。内外面ハケ調整を施し、368・370は体部上半まで、371は体部下半を指でナデ消している。368の外面の文様は、6本一組の櫛状工具で、流水文を下から上へ描いており、八単位施し、四方向にのみ流水文の下端に瘤状突起がつく。口縁内面には、十方向に同一工具で垂線が施されている。370は、外面のハケは縦方向に施されており、横方向に5本一組の櫛状工具で短線を上下交互になるよう施し、素地のハケと直交させることにより、市松文様を作っている。

る。口縁内面には同一工具による波状文が施されている。371は外面は7本一組の櫛状工具で直線文二条、波状文一条施している。口縁は上下を違えて指凹圧し、小波状を呈す。369は沈線文系の系譜のものと考えられる。内外面ナデ調整が施され、内面は横方向の丁寧なミガキ調整が施されている。外面の文様は半截竹管で乱れた波状文を二条施し、口縁内面にも垂線が施されている。

372の外面ハケ調整は意図的であろうか。頸部から体部にかけては、向きを違えて斜め方向に施している。内面は斜め方向の後、部分的にナデられ、口縁には、ハケ工具による連続した刻みが施されている。

373は外面に櫛状条痕を横羽状に施されている。内面は条痕施文の後、頸部まで縦方向に指でナデ消され、口縁のみ横方向に条痕が残る。口縁端部には、ヘラ工具による連続した刻みが施されている。

374は縦方向にハケ調整を施し、頸部から上は横方向にナデられている。内面はハケ調整の後、体部上半まで縦方向に指でナデ消し、頸部から上は横方向にハケ調整が残る。口縁端部には2個一組の刻みが、六方向に施されている。

375は内外面にハケ調整を施し、内面は体部上半まで縦方向に指でナデ消されている。外面体部上半は5本一組の櫛状工具で直線文を一条施し、その下には廉状文と波状文が交互に二段施されている。体部下半には、同一工具で上から下へ縦羽状が施され、その後、縦羽状の単位毎に底部近くまで垂線が施されている。口縁端部は、両端同じ箇所を指でつまむ方法が連続して施されている。

376は高坏である。接点はないが、同一個体と考えられるため、図上復元を行っている。内外面ハケ調整を施し、脚裾部は、内外面軽く何条かナデられている。坏部は内面横方向の丁寧なナデ調整が施されている。

377は鉢である。内外面広いハケ調整を施した後、外面は斜め方向にミガキが施されている。なお、断面図では記載し忘れているが、外傾接合である。

378～380・382は、くの字甕である。すべて搬入の可能性が高い。外面は縦方向に、内面はやや斜めにハケ調整が施されている。口縁は378・379は頸部から口縁まで内外面ナデ、382は内外面同じようにナデているが、内面はハケ調整が残る。378・380・382は外面体部上半に櫛状工具による連続した刻みが施されている。

381は鉢である。内外面幅の広いミガキ調整を施している。

12) viii S層出土土器（7～10Gr取り上げ層：8古層）（第50図）

取り上げ層：灰色埴土の下層面に位置する砂層である。浅谷における堆積のキー層なる箇所である。実際はもっと多くの土器が出土しており、掲載できたものはほんの一部にすぎないことを了承された。

383は内外面にハケ調整を施し、口縁は横方向のナデ調整が施されている。外面の文様は、7本一組の櫛状工具で直線文と廉状文を交互に、下端には連続した斜行短線を施している。口縁内面には羽状刺突文が施され、口縁端部には4個一組の櫛状工具の刻みが六方向に施されている。

384は壺の頸部である。内外面ハケ調整を施し、外面には4本の貼付突帯を施し、その上に連続した刻みを施している。なお、突帯の剥離した箇所から、突帯を付ける際に沈線を数条描き、それをもとに貼り付けたことがわかる。

385は壺の口縁である。内外面ハケ調整を施し、口縁下には粘土帯を貼り付け、指による凹圧が施されている。口縁端部と内面にはハケ工具による羽状刺突文が施されている。

13) viii1A, ix1A層出土土器(2~6Gr取り上げ層:7層黒褐色砂壤土層) (第51図)

2~6Grに関しては、97年度から掘削した箇所はこの層からになる。95年度に行われた際には、調査区も拡大しておらず、狭い範囲であったため、やむをえず法面をつける形で調査となった。そのため、層毎での掘削ができない状況にあった。97年度からの調査ではこの面から掘削開始になり、層毎に遺物を取上げる際、E-4Grから出土しているものはix1A層との混在の状況での取り上げになってしまっていることを了承されたい。

386は内外面斜め方向にハケ調整を施し、内面は体部上半から上は丁寧な指ナデが施されている。外面は7本一組の櫛状工具により、直線文を十条施し、その上に扇形文を施し擬流水文をつくっている。擬流水文の下端には連続した三角刺突が二段施されている。口縁は内外面一~二条ほどナデ、端部に沈線を一条入れた後、内面にハケ工具による羽状刺突文が二段施されている。

387は外面に細かいハケ調整、内面に荒いハケ調整が施されている。口縁は受け口状を呈し、内外面を丁寧に横方向にナデている。外面は6本一組の太い櫛状工具で、直線文と波状文が交互に施される。下顎部にはハケ工具による連続した刻みが施されている。口縁外面及び端面には縄文を充填し、その後外面にはヘラ工具による山形文が施されている。

388・389は太頸壺である。388は内外面ハケ調整の後、外面には部分的に、内面は横方向に丁寧なミガキが施されている。外面の頸部には直線文、口縁端部にはハケによる連続した斜格子状の刻みが施されている。389は内外面にハケ調整を施し、頸部には全周しない直線文が施されている。口縁端部は一条沈線を施し、上からハケ工具による刻みが施されている。

390・391は細頸壺である。390は口縁はやや内彎気味に直立し、内外面丁寧にナデを施し、外面には7本一組の櫛状工具で口縁に一条、頸部に四条施していることが確認できる。391は外面はハケ調整の後、外面体部下半は横方向のミガキが施されている。外面の文様は、4本一組の櫛状工具で頸部から上から下へ順に七条施し、その下に扇形文と直線文を交互に二段施している。

392は内外面に丁寧にナデが施される。外面頸部にはヘラ工具による沈線を一条施した後、同一工具で横羽状が施され、下端に2本一組の太い櫛状工具一条直線文が施されている。

393は口縁と底部が欠損している。内外面ハケ調整を行った後、内面は頸部近くまでナデ消している。外面の文様は糜状文二条、波状文、糜状文を施し、下端には四方向に瘤状突起がつく。その後竹管による円形刺突が突起状も含め、連続して施されている。

394は壺の口縁である。外面ハケ調整の後、内面は丁寧に横方向のミガキ調整が施されている。外面の文様は横方向に短線をひき、一段毎違えて市松文様をつくっている。

395・396櫛描文系の甕である。内外面ハケ調整を施し、内面は体部最大径近くまでナデ消されている。395の外面は、その後板ナデが施されている。口縁は内外面軽く一~二条ほどナデ、上下を違えて指凹押し、小波状を呈す。外面の文様は395は5本一組の櫛状工具で頸部に直線文を一条、体部上半に直線文二条、波状文を一条はさみ、直線文を二条施し、下端には連続したハケ工具による三角刺突が施されている。なお、底部には焼成後の穿孔がみられる。396の外面は6本一組の櫛状工具で直線文を一条施し、同一工具で斜めに施されている。多分、横羽状になるのであろう。

397は内外面にハケ調整を行った後、内面は指で体部上半近くまでナデ消している。

398は内外面に縦方向のハケ調整を施した後、内面をナデ消している。その後外面は体部最大径近くを横方向に、下半は縦方向に、内面体部下半、口縁内面は横方向にミガキが施される。また外面には櫛による2個一組の連続した刻みが二段施されている。

399は外面は斜め方向に、頸部からは縦方向にハケ調整を施し、その後、体部上半は横方向にハケ

調整が施されている。底部及び底面は横方向に削った後、横方向にミガキ調整を施している。内面は口縁を残して丁寧なナデが施され、口縁には横方向のハケ調整が残る。口縁端部には2個一組のハケ工具による部分凹圧が八方向に施されている。

14) vii, viii層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 6, 7層黒褐色砂層) (第53図)

浅谷の肩部に位置し、層は薄く砂層である。土器の混在も多く存在すると考えられる。実際の土器量は多く出土しているが、一部のみ掲載を行う形をとった。

400は口縁が内彎し、外形接合で作られている。内外面ハケ調整を施し、口縁外面は横方向に施し、ハケ工具による刻みで山形文を描いている。また口縁端部には、連続したハケ工具による刻みが施されている。

401は器形から壺と考えられ、内外面は下から上へ順にハケ調整を施し、内面は体部上半まで指でナデ消している。

402は体部は内外面斜め方向に、外面頸部は縦方向に、内面は横方向にハケ調整を施している。その後、荒いハケで外面体部は斜め方向に、頸部は直線的に、口縁外面は斜め方向に、内面は横方向に施されている。

403は内外面下から上へ順に斜方向に、外面頸部は縦方向にハケ調整が施されている。底面もハケ調整が施されている。口縁内外面は横方向のナデを施し、底部及び内面は体部上半まで指でナデ消している。文様は4本一組の櫛状工具で直線文を三条施した後、同一工具で斜行短線を間に二段と、下端に縦方向に短線を連続して施している。口縁内面には同一工具で2本一組の垂線を四方向に施し、その間を斜行短線が三段にわたり充填されている。

404は内外面にハケ調整を施し、底部には横方向にナデが二条ほど確認できる。内外面は部分的に、内面は全面に、幅広い横方向のミガキ調整が施されている。段をもたせた口縁には下段から扇形文を施し、上段には向きを変えて施し、段の角にはハケ工具による連続した刻みが施され、口縁端面には縄文が充填される。

405は低脚の高坏である。内外面ハケ調整の後、外面、脚内面は横方向にナデ、内面坏部は丁寧な横方向のミガキ調整が施されている。脚柱部には貼付突帯が一条施され、ヘラ工具による連続した刻みが施される。

15) viA層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 黒色土層) (第54図)

浅谷肩部のもっとも上面に位置する層である。フシヨク混じりの砂壤土であり、完形土器の出土が多くみられた。ただ、この層に関しては肩部の遺構との重複がみられ、掲載したものは信憑性があるものを選んであるため、一部のみ掲載となっている。

406は搬入品であろうか。幅の広いハケ工具で内外面調整し、その後外面頸部から体部上半にかけては細かいハケ工具が施されている。内面及び口縁外面は横方向の丁寧なナデが施され、垂下した口縁には一条凹線がめぐり、外面体部上半には細かいハケ工具による連続した刻みが三段施される。

407はとても焼きの良い土器である。外面には縦方向のハケ調整がみられ、口縁から頸部にかかる箇所は、横方向のナデが施されている。また縦方向には指跡がみられ、それと対比して口縁内面にも指の接着痕がみられるのは、口縁成形時もしくは口縁外面に文様をほどこす際のものであろう。口縁外面にはハケ工具による斜行子状の刻みが、頸部には二条の貼付突帯がめぐり、ハケによる連続した刻みが施されている。

408は台付壺と考えられる。内外面ハケ調整を施し、外面体部下半は縦～斜め方向に、内面は横方向に施されている。体部上半は木目による擬縄文が施され、残存箇所では八条の沈線がめぐり、沈線下には薄い円形浮文が二つ付き、上に円形刺突が施される。体部は段を持ち、その段の箇所には櫛状工具による連続した刻みが施されている。

409は、外面は縦方向、内面は横方向にハケ調整を施し、全面にわたってナデ調整が施されている。外面の文様は4本一組の櫛状工具で直線文を三条施し、直線文の間に連続した竹管状の円形刺突を施している。口縁内面には、四方向に切り替えのある櫛状工具による羽状刺突文を施し、その後四個一列を二列一組にしたものが、羽状刺突文の切り替え部分の下、四方向に施されている。また口縁端部にも充填されている。

410は内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は体部上半まで、口縁端部は内外面ナデている。凸凹しており、作りが荒いように見受けられる。

411・412は無文の甕である。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は頸部まで指でナデ消している。口縁端部は面をもち、411は口縁内外面はナデられ、外面に一条凹線がみられる。412は、体部上半にハケ工具で三条ほど直線文が描かれている。

413・414は外来系の甕である。413は内外面ハケ調整を施し、口縁内外面ナデ調整を施し、口縁端部は拡張しつつまみ上げ、口縁外面は二～三条凹線が入る。頸部には貼付突帯を施し、指による連続した凹線が施され、爪圧痕が残る。414は荒いハケ工具で、外面は下から上へ順に斜め方向にハケを施し、頸部は縦方向にハケ調整が行われている。その後、底部に放射状のハケを施している。内面はハケ調整と思われるが、丁寧に指で頸部までナデ消されている。口縁は内外面ハケ調整を施し、内面はつまみあがる箇所はナデられている。外面体部上半には櫛状工具による連続した刻みが施されている。

415は内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は頸部まで指ナデが施されている。口縁は内外面横方向にナデ、先端をやや立ち上げらせ、外面には斜め方向にハケ調整が施されている。なお、口縁の一部には注口が作られている。

416は内外面荒いハケ調整を、内面、底部には部分的にナデられている。その後、体部下半には放射状のハケがみられる。口縁内外面はナデられ、口縁端部は軽く一条凹線が施されている。

417は内外面ハケ調整を施し、体部外面下半は部分的にミガキが施され、内面は指ナデでナデ消されている。口縁付近には2個の突出があり、縦方向に貫通している。蓋穴用か？

418は当初、台形土器を想定し実測したものの、径の大きさ等から鉢である可能性が高く、断面が左方向にある。内外面ハケ調整の後、内面は軽くナデ、外面及び底面は丁寧にミガキが施されている。

419・420は高坏の脚である。どちらも充填法であり、419は内外面ハケ調整の後、内外面ナデ、420は外面は丁寧にミガキ、内面は横方向のナデが施されるがしぼり痕が残る。

16) viii1C層出土土器（取り上げ層：灰色埴土Ⅱ2層）（第56図）

11Gr以西で、確認した層である。泥質層であるため、土器の一括性は高いと考えられる。特に421～424は同一地点から出土している。

421は内外面にハケ調整を施し、内面は体部上半から上は指でナデられているが、接合痕が残る。外面の文様は、6本一組の櫛状工具で直線文を四条、直線文、廉状文を交互に二段と間隔を置いて、二条の直線文が施されている。その後、文様間、体部全体、底面に幅広いミガキ調整が施されている。

422は内外面にハケ調整を施し、内面は体部最大径近くまで横方向にナデ、外面は段より下半にかけて横方向にミガキ調整が施されている。外面の文様は8本一組の櫛状工具で直線文を施し、直線文

と、斜行短線を二段交互に施している。口縁は内外面ナデ、ややつまみ上げ、軽い一条の凹線が入る。内面は体部文様と同一工具で、三段にわたって斜行短線が施されている。

423は内外面に荒いハケ調整が施され、内面体部上半には細かい目のハケ工具による調整がみられる。外面体部下半はミガキ調整が施され、口縁内外面及び底部はナデられ、口縁端部はつまみ上げている。口縁内面には6本一組の櫛状工具による垂線が施されている。

424は細頸壺である。内外面ハケ調整を施し、体部最大径から口縁にかけてはナデ消されている。外面の文様は、4本一組の櫛状工具で直線文を二条、廉状文を一条、その下、間をあけて体部には、櫛状工具による刻みが一段施され、その下に横羽状刺突文を四段施している。また間をあけて直線文が一条施されている。口縁には櫛状工具による連続した刻みが施され、内面には二条一組を4本と一条を1本で五単位に施されている。

425は内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は体部最大径まで指でナデ消されている。外面の文様は6本一組の櫛状工具で、直線文と斜行短線を四段と下端に直線文が施されている。口縁外面は頸部までナデられ、内面は同一工具で八単位施された後、上下を違えて指凹し小波状にしている。

426は内外面下から上に順にハケ調整を施し、内面は板ナデを体部最大径から上に施した後、最大径近くは指ナデが施されている。口縁内外面はナデられ、端部は面が作られている。

427・428は小型の壺である。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、428の内面は丁寧にナデ消されている。427の口縁にはハケ工具による連続した刻みが施されている。

429は台付鉢であろうか。内外面ハケ調整を施し、外面脚部及び坏部内面は指ナデが施されている。

17) vii2C層出土土器（取り上げ層：灰色埴土Ⅲ層）（第57図）

8Gr以西で確認した層であり、泥炭層である。土器の残りが良く、完形になるものが多く出土した。430・431は同一地点からの出土である。

430は口縁と体部の接合箇所がないものの、胎土、焼成等から同一個体と考えられる。下から上へ順にハケ調整を施し、その後外面体部最大径には横方向に施している。内面は縦方向に頸部までナデ消している。口縁は若干つまみ上げ、端部を面取りし、端部下方に櫛状工具による連続した刻みが施されている。なお、底面には粘土の貼り足し箇所が残る。

431は下から上へ順にハケ調整を施し、外面体部下半は下方向へケズリと推定され、その上から放射状のハケ調整が施されている。口縁端部はつまみ上げ、一条の凹線が描かれている。焼成前に施された2個一対の穴がみられ、蓋穴用と考えられる。

432は台付の水差し形の壺である。内外面にハケ調整を施し、内面は部分的に、外面は脚部と口縁端部及び頸部は横方向にナデられている。体部外面はハケ調整の後、頸部近くまでミガキが施されている。把手は挿入して付けられ、口縁は把手側へこみをもつ。反対側の口縁の欠けは意図的であろうか。脚は充填法であり、内外面ハケ調整が施されている。

433は無文の壺である。下から上へ順にハケ調整を行うが、内面は粘土接合痕が消しきれていない。外面頸部近くは横方向のナデが確認できる。なお、外面には明瞭な龍目痕が残る。

434は無文の甕である。内外面下から上へ順に荒いハケ工具で調整を施し、内外面口縁から頸部及び底部には細かいハケ工具で再度調整が施されている。口縁端部下方には、細かいハケ工具による連続した刻みが施されている。

435・436は鉢である。内外面ハケ調整を施し、435は底部のみ436は外面底部と内面は丁寧にナデ消されている。

18) viC層出土土器（取り上げ層：灰色埴土Ⅱ層）（第58図～第59図）

灰色埴土の二層目に位置する。6Gr～15Grないしは95年度の調査箇所においても存在する。ただし、取上の際埴土の比率の問題で、肩部での取り上げ層名は8中層としている。しかし同一層として捉え、細かい地点は観察表でみていただくことにして、灰色埴土Ⅱ層で併せて掲載している。範囲が広域にわたり、すべてが同一時期に位置するかどうかは確信は持てない。なお、459・460は12Grで貝層が検出された位置から出土した遺物であり、viiiC層に該当するものである。

437は大型の壺の口縁である。外面はハケ調整を施し、口縁内外面は丁寧な横方向のナデが施されている。口縁外面には2本一組の櫛状工具で斜行子状の文様を描き、下顎部には板状工具による連続した刻みが施されている。

438～440は広口壺の頸部である。内外面ハケ調整を施し、内面は頸部近くまでナデられたと考えられる。外面の文様は、438は三条の貼付突帯が付き、その三条の突帯の上に、二本の棒状付文が貼り付けられている。その後、突帯の上にハケ工具で連続した刻みが施されている。突帯の下端には勾玉状の突起が連続して並ぶ。439は頸部には二条の貼付突帯が付き、その上に四方向に棒状の付帯が、2個一組で貼り付けられている。体部上半には5本一組の櫛状工具で直線文二条と廉状文一条をセットに二段施し、その下にかすかに間を開けて波状文が施されているのが確認できる。440は頸部には一条の貼付突帯が付き、突帯の上には接着時の横ナデが、内面には指押さえの跡が残る。突帯の上には、まずハケ工具による刻みを横方向に施し、突帯を二段に分ける。その上に斜め方向に同一工具で、連続した刻みを施している。なおその刻みは三回方向を違えられている。突帯の下には5本一組の櫛状工具で、直線文と廉状文が確認できる。口縁は端部にハケ調整が施され、頸部に施された工具と同一なもので連続した刻みが施されている。内面にも同一工具で三方向に切り替えを作りながら、羽状刺突文を描き、その後、竹管状工具で連続した円形刺突を施し、その下には5～7個を一列とし、二列一組で四方向に施されている。

441は短頸壺である。外面は下から上へ順に縦方向にハケ調整を施し、頸部には連続した指跡が残る。外面体部上半にはハケ工具による連続した刻みが施されている。内面は横方向にナデられ、指圧痕が多数残り、凹凸がある状態になっている。口縁には二条の凹線が施されている。なお、外面の一部へこみは初圧痕である。

442は細頸壺である。内面は調整が確認できず、指の届く範囲はナデであることのみわかる。外面は縦方向にハケ調整を施し、3本一組の櫛状工具で直線文を四条施し、櫛と同一であろうか、小さい管状で連続した刺突を四段施し、また底部にも二段施されている。文様の入らない体部最大径は横方向に丁寧にミガキが施されている。

443は栗林系の無頸壺と考えられる。ただ、かなり簡略化しているようで、縄文の充填はみられず、ヘラ描き文様のみが写し取られている。内外面ハケ調整を施した後、横方向に丁寧なナデが施されている。外面には竹管状工具による沈線が二条、その下に弧線文が三条施されている。沈線の間には竹管状工具で刺突が施されている。なお口縁には2個一対の焼成前の穿孔があり、蓋穴用と考えられる。

444は内外面にハケ調整を施し、内面は体部上半まで指でナデ消している。外面の文様は図には記載されていないが、ハケ目の上に直接描かれている。5本一組の櫛状工具で、直線文と斜行短線を上から下へ交互に施している。口縁は四方向に三角形の突起がみえ、その間をハケ工具による刻みが充填されている。

445・446は無文の甕である。内外面ハケ調整を施し、外面底部及び頸部は縦方向に、体部最大径は横方向に施されている。内面はハケ調整の後、445は全面、446は体部下半のみ指でナデ消されて

いる。口縁内外面はナデられ、端部は面取がされている。

447・448は近江系の甕である。土器の断面はどちらも黒く、胎土、質感等から在地のものと違うと判断される。内外面ハケ調整を施し、447は口縁内外面は荒い目のハケ工具で施されている。外面の文様は、447は櫛状工具による三角刺突が三段と3本一組の櫛状工具による直線文が、交互に施され、下端に波状文が施されている。448は横方向の刻みが連続して施され、その下には櫛状工具により直線文を二条施し、さらに一段目の直線文の上には波状文を施している。口縁はどちらも外面をナデた後、外面は右下がりのハケ調整を施し、447はなおかつその上からつまみ上げるように横方向にナデている。447のほうが後出の形式だろうか。

449は内外面斜め方向にハケ調整を施し、体部内面は縦方向にナデ、頸部にかけては横方向にナデている。外面はその後、別のハケ工具で底部は横方向に、体部は縦方向に施している。口縁は内外面をナデ、つまみ上げ、外面は体部外面の二次調整と同一工具で右下がりのハケ調整を施している。

450は外面は荒いハケ調整で横方向に施し、頸部から口縁にかけて縦方向に施している。内面は細かい目のハケ工具で横方向に施した後、縦方向に指でナデ消している。口縁は受け口状にし、内外面荒いハケ工具で施されている。

451は荒い目のハケ工具で内外面斜め方向にハケ調整を施し、体部外面は下方向にケズリ、その上を細かいハケ工具で放射状に施している。内面は体部最大径近くまで上方向にケズリ、体部上半はナデられている。口縁は外面縦方向に、内面は横方向に荒いハケ工具で施し、口縁端部にはハケ工具による連続した刻みが施されている。

452は内外面縦方向にハケ調整を施し、底部、底面にかけてはナデられ、その後外面は体部最大径近くまで縦方向にミガキが施されている。内面は体部下半は上方向にケズリ、体部最大径のあたりにはやや縦方向のミガキがみえる。口縁は内外面横方向にナデ、口縁端部はつまみ上げ、外面体部には軽く一条凹線が入る。

453～455は小型の甕である。454・455は、雑な作りである。焼成時に意図的に黒くしているのであろうか。それぞれ、内外面ハケ調整を施し、453は、外面は横方向に部分的にナデている。454、455はハケ調整の後、内外面ナデ調整しているものの、粘土接合痕を消しきれていない。455は外面に3本一組の櫛状工具で時計逆回りに8cm程度だけひき、その下は全周している。

456は台付鉢である。脚部の剝離から充填法であったことがうかがわれる。内外面ハケ調整を施し、外面は板工具によるナデ、内面は横方向のミガキ調整が施されている。頸部は内側に突出部をもち、口縁は欠損している。しかし、それほどは延びず、体部最大径近くで立ち上がって終わるものと考えられる。

457・458は高坏の脚と考えられる。とても焼きの良い土器である。457は内面は横方向に、外面は縦方向にハケ調整を施し、その後外面は脚裾部は横方向に、脚柱部はタテ方向に丁寧にミガキが施されている。脚内面は、板工具でナデつけられたままの雑な状態で終わっており、裾部のみ三～四条、丁寧にナデが施されている。

459は小型甕の体部下半である。内外面ハケ調整を施し、底面と内面は指ナデが施されている。

460は低脚の高坏である。口縁と脚裾部の一部が欠損する。内外面ハケ調整を施した後、坏部外面は縦方向に、内面は横方向にミガキ調整が施されている。その後外面には3本一組の櫛状工具で十単位に上から下へ垂線が施されている。

19) vC層出土土器（取り上げ層：灰色埴土Ⅰ層）（第60図）

灰色埴土の一番上にあたる層である。土器量は少なく細片が主である。これら掲載しているのもも下層に近く、取り上げ層：灰色埴土Ⅱ層や8新とあまり差はないものと考えられる。

461は水差し形の直口壺である。縦方向にハケ調整を施し、外面は体部最大径はナデられ、頸部から口縁にかけては、横方向に丁寧にナデられている。把手は挿入法で付けられている。

462は無文の甕である。内外面斜め方向にハケ調整を施し、内面は縦方向に部分的にナデ消している。外面頸部にはハケ工具と同一工具で横方向に直線文状に施されている。

463は台付壺である。内外面にハケ調整が施され、脚部部は内外面横方向にナデられている。外面体部には3本一組の櫛状工具で波状文と直線文が施されている。

464は鉢である。内外面にハケ調整を施し、口縁は及び底部は内外面ともナデられている。口縁は面を作った下方にハケ工具による連続した刻みが施されている。

465は内彎する鉢である。外面は剥離が激しいため調整が見えにくい、ハケ調整が施され、部分的にナデていることが確認できる。内面はハケ調整が施されたと考えられるが、まったく痕跡が残らず丁寧にナデている。口縁には一条の沈線文が施され、焼成前に施された2個1対の穴が施される。

20) xS層出土土器（取り上げ層：8-2下, 47層）（第61図～第62図）

浅谷の本流部分で粗粒砂層である。基本的には95年度下層に対比できるものと考えている。この層から出土しているものは、取り上げ層：9層から16層をけずり、堆積したものであり、土器は縄文後期から八日市地方5～6期まで存在する。その中で、特徴的なものを抽出し、一部掲載した。

466は櫛描文系の壺である。外面は磨滅が激しい。内外面ハケ調整を施し、内面は指でナデ消し、文様施文箇所と外面底部付近は横方向にナデられていたことが確認できる。外面の文様は、6本一組の櫛状工具で直線文が2条、3本一組の荒い櫛状工具で波状文が一条描かれ、これを一組とし二段施されている。施文順序は不明である。

467は壺の体部である。内外面ハケ調整を施し内面は横方向にナデ消されている。外面の文様は頸部近くにヘラ工具による沈線が二条施されていることが確認でき、その下には縄文を充填し、その上にヘラ工具で二重の菱形を、下に4本一組の櫛状工具で弧線文を描いている。なお、図には記載を忘れているが、内外面煤の付着がみられる。

468～470は条痕文系の壺である。内面はすべて丁寧に横方向の丁寧にナデが施されている。外面の文様は468は下頸部に粘土を貼り付け、口縁外面にヘラ状工具でコの字重ね文を、下方には3本一組の櫛状工具で波状文を描き、下から指凹圧が施されている。またコの字重ね文が描かれている箇所と波状文の間には、楕円形状の浮文に縦方向の刻みがいれたものがみられ、その下には、半截竹管状の工具で円状に押し印したものが、二つ施されている。469は頸部は櫛状条痕でやや斜め方向に施され、口縁は明瞭な段をもたせ、外面に面を作っている。口縁端面にはヘラ工具で幅広い弧線状の文様を、凸同士あわせて二段施し、外面には渦巻き状に施されたものが二段ずらして施されている。また口縁の上端両方は波状に施され、その上には縦方向に連続した刻みが施されている。

470は外面頸部は貝殻条痕で横方向に数条、間隔をおいて横方向に数条施し、その間を埋めるように、時計逆回りで斜め方向に櫛状条痕が施されている。口縁は明瞭な段をもち、口縁外面には棒状付文を二本一組で三方向に施している。その間をヘラ工具でS字もしくは逆S字状に描き、S字状の中を貝殻条痕で充填する。また口縁の上下端部と浮文の上には貝殻による刻みが施され、浮文の上下端と接する箇所には円形浮文が付き、殻頂部で凹圧している。

471は鉢である。外面は縦方向に、内面は横方向にハケ調整を施し、外面底部には指押さえ痕が残る。その後、外面は部分的にミガキが施されている。口縁端部にはハケ工具による連続した刻みが施されている。

472は内外面横方向に丁寧なミガキが施され、体部上半には、押し引き沈線が六条施され、その間には山形文を二条ずらした状態のものが沈線と同様、押し引き状に施されている。時期等まったく不明である。

473～478は浮線文系の文様をヘラ描きしたものである。内外面丁寧なミガキが施され、473は口縁を五単位の波状に、476も波状に474・475・477・478は水平に作られている。473は口縁に二条の沈線を施し、体部最大径には三条の沈線が間隔をあけて施され、二段に区画されている。その中に逆ハの字に沈線を描き、区画された中にハの字状に沈線を描いている。それを下段にも同様に施している。474は沈線を頸部及び体部最大径からやや下寄りに二条ずつ描き、文様施文箇所を設定する。その後、区画にあたる沈線から縦方向に短線をつなげ、その下に横側に広い菱形を描き、再び下の区画に短線をつなげている。そして菱形の中に一条沈線を、菱形の上下端には沈線と三角形の彫り込みが施されている。475は四条の沈線を施し、二条と三条の間で段をわけ、一段目に三角形の彫り込みを、二段目には一段目の直下に逆三角形彫り込みが施される。476は口縁下は口縁のラインに沿って沈線を一条、その下には八条施される。また四条目の上には三角形の彫り込みが、七条と八条間には三点の刺突がみられる。477はもっとも浮線文系的で口縁と胴部二段にわたって施されている。一段目は三条の沈線をひき一条目には逆三角形に、位置をずらして二条目には三角形に彫り込む。二段目は四条の沈線をひき、二条と三条をつまんでいる。478は沈線を口縁に二条と体部最大径近くに三条施し、文様施文箇所を区画し、その中には工字文が施されている。

479は条痕文系の甕である。内面は横方向に丁寧にナデられ、外面は横方向に条痕が施されている。口縁端部は軽い凹圧がみられ、浅く波打ってみえる。

21) xS層出土土器（取り上げ層：95年度下層）（第63図～第65図）

95年度に調査した箇所の下層取り上げ遺物と、これに相当する97年度以降の調査で出土した浅谷西側の河道最下層にあたる遺物である。ただし、95年度の調査では、一部中州の砂を除去した部分で、97年度以降の調査内での取り上げ層：13～16層にあたる箇所も含まれることを了承された。

480～483は掲指文系の壺である。480は内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面底部は縦方向に指ナデが、口縁内外面は横方向にナデられている。外面頸部には、6本一組の掲指工具で直線文が三条施されている。481は細頸壺で、内外面はハケ調整が施され、外面は部分的に板ナデが、内面は丁寧にナデ消されている。外面の文様は、6本一組の掲指工具で頸部に直線文を四条、廉状文を一条施している。体部上半には直線文一条と廉状文一条、直線文二条施した上に三単位で流水文を描き、その下には廉状文一条と直線文一条施している。また文様の下端には板状工具による三角形刺突が施される。482は掲載ミスである。本来は取上げ層：47層に載せるべき遺物である。内外面丁寧なナデを施し、内面は頸部から口縁の開口部にかけて横方向の丁寧なミガキが施されている。外面は竹管状の工具で内面から上へ斜め方向に施した後、七条の沈線が施され、下には線鋸歯文が施されていることが確認できる。口縁は上下端部に貝殻であろうか、連続した刻みを、内面にはハケ工具による羽状刺突文が施されている。483は外面に縦方向の、内面に横方向のハケ調整が施され、外面は部分的にナデ消され、内面には頸部への立ち上がり部に指押さえ痕が明瞭に残る。外面の文様は4本一組の掲指工具で、直線文二条に廉状文を一条はさみ、直線文二条が施されている。口縁端部は、内外面に連続

した指の接着痕がみられ、端部に斜格子状の刻みをほどこす際についたものと考えられる。

484・485は条痕文系の壺である。内面は横方向に丁寧にナデられる。484は、外面口縁下に5本一組の櫛状条痕で直線文二条施し、その間に跳ね上げ文を施している。頸部には押し引きの刺突が二段と直線文が交互に施されている。口縁には円形浮文が口縁端上下交互に12個施され、それを目安にヘラ工具でコの字重ね文を描き、2個一組に六単位施され、その間には縦羽状が二列施されている。口縁内面には3本一組の櫛状条痕で六方向に垂線が施されている。485は口縁及び体部半分は欠損する。外面は体部最大径のやや上あたりのみ1cm程度あけ、それ以外は櫛状条痕で横方向に施している。空間のあいたところを境として、上段と下段に分け、上段には3本一組の櫛状条痕による大きい波状文は凹凸を向き合うよう施され、その真ん中に同一工具による細かいピッチの波状文が施されている。下段にはまず一条波状文が施され、その下に弧線を二段、凹凸を合わせるように描き、その後、弧線の上に垂線を描き、六方向に広がるように文様を描き、さらにその重なる接点中央は、指で円形状にナデられている。またこの文様はおそらく八単位で構成され、その間は垂線で区画されている。

486・487は沈線文系の鉢である。内外面丁寧にナデられ、外面の文様は、486は四つの瘤状突起を施し、それを目安に二つのコの字重ね文を間に埋めていく。487は、口縁下に3個一組の刺突が連続して施され、その下に一条の沈線が施される。その下には、重区画文が二段互い違いに施される。口縁は八単位の拡張する部分を作り波状にして、ヘラ工具による連続した刻みが施される。内面には一条沈線をひき、拡張していない間には斜め方向に、拡張部分には三角形状にヘラ描きが施されている。

488・489は鉢である。488は内外面ハケ調整を施した後、外面は部分的に、内面は丁寧にナデ消されている。489は外面ハケ調整の後、斜め方向にミガいており、内面は縦方向～横方向に丁寧にナデられている。

490～492は浅鉢である。490は内外面横方向に丁寧にナデられ、その後ミガかれている。口縁には三角形状の突起をもつが、幾方向につかは不明である。491は内外面丁寧にミガキが施され、口縁内面には一条緩い沈線が施され、端部には連続した刻みが施されている。492は丸底で内外面丁寧にナデられている。外面には沈線が三条施されている。

493・494は浮線文系の鉢である。493は、接点はないが同一個体と考えられる。両者とも内外面丁寧に横方向のミガキが施され、外面の文様は浮線網状文が施される。口縁は、493はやや外反し三角形状の突起をもつ。494はやや内傾に立ち、水平口縁である。

495は内外面横方向に丁寧にナデを施した後、外面には横方向のミガキが施される。外面の文様は、口縁には三条の竹管状工具による沈線が施され、体部には六条の沈線が施されるが、四方向に断続し、2点の刺突が施されている。なお、口縁には二個一対の補修孔がみられる。

496は内外面丁寧にミガかれ、口縁は波状をなす。先端の丸い工具で口縁には斜め方向に描き、その下には浮線文状に施されている。その下には二条の沈線が間隔をあけて施され、その間には六条程度に向きを変えて斜め方向に施される。なお、口縁内面には軽く横方向にナデ、段が設けられている。497は小型の甕である。外面は縦方向の条痕の後、縦方向にミガかれ、内面は横方向に丁寧にミガかれている。口縁は先端先細りで、外面体部上半には細いヘラ工具による沈線が三条描かれる。なお、沈線の下には、補修孔が一つ認められる。

498・499は有文の甕である。内外面ナデられ、498は外面に二条の指による沈線が確認でき、499は指による二条の沈線と波状文が一条施されている。口縁は両者とも連続した指凹圧が施されている。

500・501は無文の甕である。500は内外面横方向に条痕が施され、その後外面は口縁から5cm程度のみ縦方向に施されている。口縁端部には連続した指凹圧が施されている。501は内面は横方向に

ナデ、外面は斜め方向に条痕を施し、口縁端部には竹管状工具による押し引きの刺突が施されている。

502は甕であろうか。内面は横方向に丁寧にナデられ、外面には赤彩が施されている。外面には縦方向に突出部をもち、そこを起点として指による沈線が施されている。口縁内面にはヘラ工具であろうか。斜め方向に短線が施されている。

503・504は壺の体部である。内面は横方向にナデられ、外面には503は沈線が一条、弧状に施され、その中だけミガキが施される。504はハケ調整の後、太めの沈線で区画を施し、その中に櫛状条痕であろうか、直線文と同心円状に描いている。なお、直線と同心円状の間は縄文で充填される。

505・506は壺の底部である。505は内外面丁寧にナデられ、506は外面は丁寧なミガキが施されている。

22) vC～ix層出土土器（取り上げ層：95年度 中層）（第66図～第77図）

95年度調査で中層として取り上げたものである。その中でも木製品集積部分の上層にあたるE-2～E-4Grを主に抽出し、掲載した。なお、統一層ではvC～ix層まで包括する。

507～515は櫛描き文系の壺である。507・509は直口壺である。内外面ハケ調整を施し、507は外面部分的に板ナデを施し、内面は両者とも下半は指でナデ消され、507は内面体部上半も縦方向に指ナデが施されている。外面の文様は、6本一組の櫛状工具で康状文一条、直線文一条、康状文を十四条施されている。下端には扇形文が施されるが、部分的に扇形文が合い向かいになっている箇所がみられる。また口縁内面には十五方向に外面文様と同一工具で、垂線が施され、口縁外面にはハケ工具で羽状刺突文が施されている。509は7本一組の櫛状工具で復帯構成で頸部には直線文を五条施し、体部上半には康状文を一条、直線文を二条施している。口縁は貼付部が剥離しており、調整ハケがみえる。

508・510～512は広口壺と考えられる。内外面ハケ調整を施し、510は外面体部上半は横方向にナデ、内面は頸部は縦方向に、口縁は横方向にナデ消されている。511は外面櫛描き施文場所はナデ消され、体部下半には横方向のミガキが施されている。内面は縦方向に丁寧にナデ消している。508は口縁内面のみナデている。外面の文様は508は日焼けしていない箇所があり、貼付突帯があったものと考えられる。その下には櫛状工具で直線文が施されたことが確認できる。口縁は内面拡張し、外面と内面にハケ工具による羽状刺突文が施されている。なお、内面は十二単位で切り替えがみられる。その後、口縁外面下頸部には、連続した指凹圧が施されている。510は頸部には三条の貼付突帯が施され、ヘラ工具による連続した刻みが施される。その下体部上半には、6本一組の櫛状工具で直線文を三条施し、その上に扇形文を重ね、擬流水文がつくられる。そして、斜行単線を施し、直線文と扇形文が交互に施され、下端には擬流水文の単位とはずれた位置に、2個一組の瘤状突起がつく。511は頸部には9本一組の櫛状工具で直線文が一条施され、体部上半には康状文が一条、五条の直線文が施され、下端には扇形文が時計回りに施されている。512は外面の文様は7本一組の櫛状工具で直線文、波状文、直線文を二条施し、下端には扇形文が施されている。

513～515は外面に直線文と波状文が交互に施される広口壺である。内外面ハケ調整を施し、515は内面体部下半は上方向にケズられ、514は内面は縦方向に、513は内面頸部近くは縦方向にナデ消されている。外面体部下半は、513・514は縦方向にミガかれ、515は板状工具で放射状にナデられている。外面には、513・514は頸部に貼付突帯が施され、その上に指凹圧が施されている。515は突帯があったかは不明である。外面の文様は513・514は櫛状工具で、515は板状工具で直線文と波状文が交互に施され、すべて直線文で終わっている。514・515は体部上半で終わるが、513は体部最大径

まで施され、下端に連続した刺突が施される。

516は口縁一部が欠けるのみではぼ完存である。内外面にハケ調整を施し、内面体部下半及び頸部から上はナデ消され、外面体部下半は上方向にケズられている。外面の文様は、3本一組の櫛状工具による連続した刺突が体部上半と体部最大径に二段施され、その後、体部上半は横方向に、体部下半は縦方向に幅広いミガキ調整が施される。口縁端には一条凹線がはいるようにみえる。

517は内外面横～斜め方向に下から上へ順に荒いハケ調整を行った後、外面は体部下半は縦方向にハケ調整を施し、体部上半は横方向に数条連続して直線文が施されている。その後外面底部は縦方向のミガキ調整が施されている。内面体部下半は指で縦方向にナデ消されている。口縁は内外面ナデ、端部をつまみ上げ、外面には斜め方向にハケ調整が施されている。

518～522は無文の壺である。518・519は内外面ハケ調整を施し、内面は縦方向にナデられ、518は外面は部分的に、519は全面による口縁内面は横方向にミガいている。口縁端部には、ハケ工具による連続した刻みが施されている。520は内外面斜め方向にハケ調整を施し、内面は頸部近くまでナデ消され、外面は間隔をおいて調整ハケとは反対方向にハケ調整を施し、横羽状にみせている。口縁は内外面横方向に丁寧にナデられ、端部両端にはハケ工具による連続した刻みが施される。521・522は内外面ハケ調整を施し、521は外面底部は横方向にナデられ、522は内面底部及び体部上半は縦方向に指でナデ消され、口縁内外面も数条横方向にナデられている。

523～526は無文の小型の壺である。内外面ハケ調整を施し、ほとんど内面はナデ消されている。また524・525の外面は横方向に丁寧なミガキが施されている。

527は内外面ハケ調整を施し、内面はナデ消されている。外面は体部上半から上は横方向のミガキが施され、口縁内面にはハケ工具による三方向に切り替えのみられる羽状刺突文が施され、端部下方には連続した刻みが施されている。

528は外面は縦方向に、内面は横方向にハケ調整を施し、外面はその上から縄文が充填される。外面体部上半には4本一組の櫛状工具で直線文と波状文が確認できる。口縁外面には薄い粘土帯を貼付、指凹瓦が施されている。

529は内外面ハケ調整の後、横方向にナデている。受け口状にした口縁外面には竹管状工具で山形文を施し、下頸部にはハケ工具による連続した刻みが施されている。なお、口縁の一部は指で下げた箇所があり、注口と考えられる。

530・531は細頸壺である。内外面ハケ調整が施され、文様施文場所はナデ消し、内面は体部最大径から頸部にかけて、縦方向にナデられている。外面の文様は530は10本一組の櫛状工具で頸部に直線文七条と、体部に直線文と斜行短線を交互に一段施し、直線文の下端に櫛状工具による刺突が連続して施され、また体部最大径にも同様に直線文と刺突が施される。なお、口縁と体部の文様間及び、文様下は横方向のミガキが施されている。531は7本一組の櫛状工具で上から下へ順に直線文、波状文、直線文を施し、2本一組の櫛状工具で斜行子文を施した後、再び直線文と波状文が施されている。532は無頸壺である。内外面ハケ調整を施し、内面体部下半は縦方向に、上半は縦方向から横方向にナデ消されている。外面は文様施文場所はナデ消され、底部には部分的にミガキが施されている。6～7本一組の櫛状工具で波状文二条と直線文二条が施されている。口縁外面はやや肥厚し、外面にはハケ工具による斜行子状の刻みが施されている。また口縁には焼成前の二個一対の穴が施されている。

533～537・540は口縁端部が小波状を呈する櫛描文系の甕である。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は535は底部のみ、534は体部上半のみ、その他(533・536・537・540)は底部から頸部近くまでナデ消している。533は文様施文場所はナデ消され、6本一組の櫛状工具で直線文と波

状文を交互に施している。そして、体部最大径には同一工具で横羽状が施されている。534はハケ工具で上から下へ横羽状が施されている。口縁内面は、ハケ工具であろうか。波状文が二条施されている。535は6本一組の櫛状工具で直線文二条に波状文一条挟んで直線文が二条施されている。下端には、板状工具による三角刺突が施されている。536は7本一組の櫛状工具により、直線文と廉状文が交互に施されている。537は口縁内面に、4～5本一組の櫛状工具で三条波状文が施されている。540は8本一組の櫛状工具で直線文を四条施し、その上に二条一単位で横方向の半円を描くが、擬流水にはなっていない。なお、口縁は一条沈線を入れた後指凹圧をするもの(533・534・536・537)そのまま指凹圧するもの(535・540)がある。

538・539は内外面ハケ調整を施し、内面は縦方向に指で頸部近くまでナデ消されている。外面の文様は、538は7～8本一組の櫛状工具で直線文二条、波状文一条が施される。口縁はやや垂下し、端部にはハケ工具による連続した刻みが施される。539は4本一組の櫛状工具で、直線文を二条と直線文と波状文を交互に施している。口縁端部には、ハケ工具による連続した刻みが施されている。

541～544は口縁端部上方に刻みを施す櫛描文系の甕である。内外面下から上へ斜め方向に順にハケ調整を施し、543は外面底部を、内面はすべて頸部近くまで縦方向に指でナデ消している。外面の文様は、541は6本一組の櫛状工具で直線文六条施し、その上に扇形文が施される。542は7本一組の櫛状工具で直線文と廉状文を交互に施し、下端に波状文を施している。543は8本一組の櫛状工具で直線文と波状文を交互に施し、直線文を一条と下端に廉状文が施される。544は5本一組の櫛状工具で直線文と廉状文を交互に二段施している。口縁内面には、541はハケ工具による羽状刺突文が、543は2本一組の垂線が六単位に施され、544は波状文二条と垂線が施されている。なお、すべて口縁端部の刻みはハケ工具で施されている。

545・546・549は口縁端部に刻みを施し、外面文様が直線文と廉状文が施されるものである。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、545は内面底部と口縁から頸部にかけて内外面ナデられている。546は内面は縦方向へ指でナデ消し、外面頸部は横方向にナデている。549は外面底部は上方向へケズリ、縦方向にミガキが施される。外面の文様は、545は6本一組の櫛状工具で、直線文二条と廉状文をセットにし、二段施される。545・549はハケ工具により、546は廉状文と直線文を交互に、549は廉状文一条と直線文二条施している。なお、口縁端部の刻みは545は櫛状工具で、546はハケ工具で、549はヘラ工具である。

547は、内外面ハケ調整を行った後、内面は頸部近くまで指でナデ消している。外面の文様は5本一組の櫛状工具で、十条の直線文を施し、その後、縦に垂線の長さを変えて施し、重区画的にみせている。下端には扇形文が連続して施されている。口縁内面には直線文が一条と、端部上方からハケ工具による連続した刻みが施されている。

548は外面の縦方向に、内面の横方向にハケ調整を施し、口縁内外面は横方向にナデている。外面頸部には、一条の貼付突帯がつき、その上には連続した刻みが施されている。

550・551は受け口状の口縁を呈する甕である。内外面横方向から斜め方向にハケ調整を施し、550は、内面は縦方向に頸部近くまで指で縦方向にナデ消し、551は内面体部上半を縦方向にナデ消している。口縁は内外面ナデ、550は下頸部にはハケ工具による羽状刺突文を施し、端部にはハケ工具による連続した刻みが施されている。外面の文様は551は調整ハケと同一工具で横方向に連続した直線を数条施している。

552～557は無文の甕である。内外面上から下へ順にハケ調整を施し、内面は底部付近のみをナデるもの(554・555)があるが、殆どは頸部近くまでナデ消している。また中には二次的なハケ調整を

施すものがあり、557は荒いハケ調整の後、553は調整ハケの後、外面体部上半から下へ同一ハケ工具により、横羽状を施している。内外面体部上半のみ細かいハケ工具で行っている。なお、557はハケ調整の後、体部下半を上方向へケズリ、その後細かいハケ調整を縦方向に施している。口縁は、端部内外面ナデて、面を作るもの(555～557)や、端部にハケ工具で刻みを施すもの(553・554)、上下からの指凹圧により小波状を呈するもの(552)がある。中でも550・557は雑な作りで、土器の表面に凹凸がめだつ。

558～561は無文の甕で口縁がくの字を呈する甕である。外面は縦方向、内面は縦から斜め方向にハケ調整を施し、外面底部及び底面をナデるもの(560、561)、底部及び底面をハケ調整するもの(559)がみられる。558は底部は残存しないが、前者にはいるものと考えられる。中にはタタキ痕や調整ハケの後放射状にハケ調整を施すもの(560)がある。内面は基本的に体部下半は指で縦方向にナデられているが、561は器面が荒れているため、ケズった後、ナデている可能性がある。また558は残りは悪いが、外面体部上半に櫛状工具による連続した刻みが施されていることが確認できる。

562～564は小型の甕である。内外面ハケ調整の後、口縁内外面はナデられ、563は内外面底部を横方向にナデ、564は内面は丁寧になデ消され、外面は縦方向にミガキが施されている。

565～569・571は鉢である。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面を指でナデ消すもの(565・566・568・571)や内外面ミガキ調整を行うもの(565・567・568・571)がある。565・571に関しては底面にもミガキ調整が施されている。また底部を横方向にナデるものとして(565・567・568・571)がある。口縁は、端部にハケ工具による連続した刻みが施されるもの(565・567)と粘土帯を外面に貼り付けて肥厚させ(566・568・571)、口縁外面に文様を568はハケ工具による羽状刺突文が、571はハケ工具による山形状の刺突が施されている。

570は台付鉢と考えられ、内外面ハケ調整の後、内面及び脚裾部はナデ消されている。

572～579は高坏である。内外面ハケ調整を施し、外面にミガキ調整が施されるもの(573・578)、内外面ミガキ調整を施すもの(572・574)、内面坏部をナデるもの(573・575・577～579)がある。576は、内面坏部は横方向にナデ、口縁内面のみ横方向にミガキが施されている。また外面脚柱部に突帯を一条もつもの(574)、二条突帯を施し、突帯上に刻みを施すもの(576)、へら状工具で沈線を数条施すもの(578)、4つの円形浮文を一単位とし、四方向に施すもの(577)や、脚裾部に面をもつもの(573・574・579)や、脚裾部に刻みを施すもの(573・578)がみられる。

580は無頸壺であろうか。体部下半は欠損のため平底で終わるのか、脚が付くのか不明である。内外面ハケ調整を施し、内面上半部は部分的に指で縦方向にナデ消し、外面は文様施文場所を抜かして、横方向にミガキが施されている。外面の文様は櫛状工具による刻みが一段、羽状刺突文が七段施され、下端には刺突を連続させた直線を五～六条施されている。羽状刺突文は五単位で切り替えをもち、羽状刺突文の上には八単位で円形浮文が施されている。また間隔をあけて体部最大径には羽状刺突文が二段施され、二本一組にした棒状浮文が六方向に施されている。

581は把手付の鉢である。内外面ハケ調整を施し、内面は頸部近くまでナデ、外面底部は縦方向にミガキが施されている。口縁は内外面ナデ、端部にはハケ工具による連続した刻みが施されている。なお、外面には三方向に把手がつく。

582～585は壺の破片である。582は無頸壺と考えられ、内外面ハケ調整を行った後、内外面横方向にナデている。外面の文様は当遺跡の土器群にはみられない、竹管状工具で口縁には小さめの刺突を二段施し、その下には大きめの刺突と沈線を交互に施し、体部下半には、沈線五条による半円が描かれたことが確認できる。また、半円の中心部には縦方向に三つと円外に縦方向の刺突が施されてい

る。583・584は広口壺の口縁部分で、583は、外面頸部には縦方向のハケ調整が残るが、内面及び外面の開口部分は横方向に丁寧にナデられている。また内面開口部には、三条の貼付突帯が施され、その上には鋭利な工具で刻みが施された後、二つの棒状浮文が貼り付けられる。突帯の外側、端部近くには半円文が施されたことが確認でき、口縁端面には斜格子状の刻みが施されている。584は、内外面ハケ調整を行った後、内面は丁寧にナデ消されている。内面の開口部には二段の三角刺突と二条の貼付突帯が施され、突帯の上にはハケ工具による刻みが施されている。また口縁端部は、一条の沈線をひいた後、下方にハケ工具による連続した刻みが施されている。

585は、体部破片であり、内面は丁寧に縦方向にナデ、外面には竹管状工具による刺突と、櫛状工具による垂線が施されているのが確認できる。

586は下層の混入遺物である。内面はナデ、外面には数条の沈線が施されている。

587は小型の甕の体部下半である。内外面ハケ調整を施し、外面には半截竹管で描いたと考えられる文様が施されている。なお、この遺物も下層の混入遺物である可能性が高い。

588～590は大型の壺である。588は接合しないが、同一個体と考えられ、図上復元を行っている。内外面荒い目のハケ工具でハケ調整を施し、その後体部外面上半は、上から下へ同一工具で意図的に方向を違え、横羽状にみせている。またその切り替え場所には8本一組の櫛状工具で描く直線文が二条ずつ施されている。外面体部下半には縦方向のミガキが部分的に施され、内面は体部上半は縦方向に部分的指でナデ消されている。なお、外面頸部には日焼けしていない箇所があり、一部貼付突帯が残存している状況から、三条の貼付突帯が施され、突帯の上には刻みが施されていたと考えられる。589は内外面にハケ調整を施し、内面体部下半は横方向にナデ、上半部には斜め～縦方向に指によるナデ消しが施されている。口縁内外面は横方向にナデられ、つまみ上げ、外面は横方向にミガキが施されている。外面頸部には、11本一組の櫛状工具による直線文が十二条復帯で施され、体部上半には同一工具で直線文を描き、二条一組で間隔をおき三段施される。一、二段目の直線文の上には、7本一組の櫛状工具で四方向に施され、三段目には垂線が十八本であろうか、施されている。なお、文様間、体部下半すべて、横方向にミガキが施されている。590は内外面ハケ調整が施され、内面は底部、体部上半は縦方向に指でナデ消され、外面体部下半は上方向にケズリ、その後、板工具でナデられている。底面には明瞭なつなぎ目が残る。口縁内外面は横方向にナデられ、ハケ工具による刻みが2個一組で、下顎部には施されているが、一部しか残存しないため、何方向かは不明である。なお、この土器には龍目跡が明瞭に残っている。

591・592は大型の甕である。591は内外面にハケ調整を下から上へ順に施し、内面体部下半は指でナデ消され、口縁は外面ナデられ、一条沈線を入れた後、上下を違えて指凹押し、小波状に施している。592は調整ハケの後、外面底部は横方向にナデ、頸部から体部最大径にかけては6本一組の櫛状工具で上から下へ順に四段、方向を違えて施し、横羽状にみせている。

23) iv層出土土器（取り上げ層：5層黒褐色埴土）（第78図～第79図）

灰色埴土の上層にあたり、一括して遺物がみられたのは14Grのみである。遺物はすべて検出状況図を作成し、取り上げを行った。接点がなくとも同一個体と考えられるものは図化復元を行っている。器種構成は壺4（長頸壺1、短頸壺2、水差し1）、甕11（小：3ℓ以下7、中：4ℓ程度1、中大：5ℓ以上：3）、高坏2（有段1、半環状把手付1）、鉢1である。（なお、掲載していない甕1点は、599と法量及び調整は同様である。）これらは、底部に焼成後、5cm程度の片側穿孔がみれるもの（594・596・597）、可能性のあるもの（598）があること、高坏が2点とも脚裾部が欠損することから、意図

的な廃棄行為であると考えられる。なお、610のみ取上地点が異なるため、組成比には含んでいない。

593は長頸壺である。内外面板状工具によるナデ調整が施され、部分的に板目が残る箇所もみられる。内面は体部最大径は横方向、上半部は縦方向に指でナデられ、口縁から頸部にかけては、横方向にナデられている。口縁内外面は横方向に丁寧にナデ、先端やや尖らせている。また外面頸部には櫛状工具であろうか。非連続的な直線文が施されている。

594は外面は下から上へ順にハケ調整を施し、内面は斜め方向上方に、時計回りで頸部までケズっている。なお、口縁から頸部にかけてはケズっている感もあるが、明瞭な指押さえ及びナデが施されている。口縁は内外面横方向にナデ、端部は水平に面が作られている。

595は内外面にハケ調整を施し、内面は横方向時計回りにケズっている。口縁から頸部にかけては、内外面横方向に丁寧にナデられ、口縁はやや立ち上がる。

596は完形品である。外面は板状工具で縦方向にナデ、下半部は板の角が明瞭に残る。内面は体部下半は上方向にケズり、体部最大径は横方向にケズっている。頸部から口縁にかけては、内外面横方向にナデ、口縁端部は水平に面が作られている。その後外面頸部は、器形調整のためであろうか。把手の反対側頸部は縦方向上方にケズられている。なお、把手は貼付法である。

597・602・603・604は外面ハケ調整、口縁は擬凹線を施す甕である。外面ハケ調整を下から上へ順に施し、603は板状工具で再度ナデられている。内面は縦方向から斜め方向上方に時計回りにケズるもの(597)、時計と逆回りでケズるもの(602～604)がある。口縁は内外面横方向に丁寧にナデ、口縁端部はややつまみ上げ、肥厚する。口縁端部には2本一組で櫛状工具であろうか。同時にひかれている。なお、603は擬凹線は三条はいつているが、二本のみ同時に施されているようにみえる。

598・599は外面ハケ調整、口縁は無文の甕である。外面タテ方向に下から上へ順にハケ調整を施し、内面は上方向にケズり頸部付近のみ横方向にケズる。口縁内外面は横方向にナデ、ややつまみ口縁を拡張している。なお、598の外面体部上半にはタタキ痕が残る。

600・601は外面ハケ調整の後、体部上半は横方向に板ナデを施すものである。そのせいか、体部最大径が体部中位にあたる感がある。外面縦方向にハケ調整を施した後、体部最大径から上は横方向に板ナデが施されている。また、601の底部は強く縦方向に板ナデが施されている。内面は縦方向から斜め方向上方にケズられ、600は時計回りに、601は逆回りに施されている。口縁内外面は横方向にナデ、やや下方に張り出している。

605は外面は下から上へ順に斜め方向にハケ調整を施した後、体部下半は放射状に調整ハケとは別工具で施され、体部上半も縦方向部分的に施されている。内面は縦方向上方にケズられ、頸部付近のみ部分的にケズられている。口縁内外面は横方向にナデられ、やや内彎ぎみに丸く仕上げられている。端部には二条の擬凹線がはいり、二本同時に施されている。

606は外面は下から上へ順にハケ調整を施し、内面は頸部から2cm残したまま縦方向上方にケズられ、残された箇所には外面と同一工具で横方向にハケ調整が施される。口縁内外面は横方向に丁寧にナデられ、受け口にし、端部は水平に面が作られている。外面の文様は6本一組の櫛状工具で直線文と波状文が時計回りに施されている。口縁外面下方には3個一組で櫛状工具による刺突が施される。

607は坏部の内外面にミガキ調整が柱状部は縦方向に、その下半は放射状に、上方は横方向に施されている。外面には二点の剥離がみえ、半環状把手が付くと考えられる。なお、坏部とは充填法で接合されるが、充填された後、周囲に粘土紐が一条めぐる。

608は有段の高坏である。内外面ミガキ調整が脚柱部は縦方向に、外面坏部は縦方向に、内面坏部は横方向に施される。口縁垂下した端面及び坏部段部分には、三条の擬凹線が入り、同一層出土の甕

の口縁と比べると、ややならかに三条同時にひかれたようにみえる。また口縁端部両端及び段の下方にはヘラ工具による連続した刻みが施されている。なお脚注部の外面下方には、細い櫛状の直線が数条確認できる。

609 は鉢である。内外面ハケ調整を施し、外面底部は軽い指押さえがみられ、口縁内外面は横方向にナデやや内傾気味になる。

610 は短頸壺である。外面は板状工具によるナデが施され、体部は部分的にミガキが施される。内面は指でナデられ、口縁内外面は横方向にナデられ、口縁端部は先端尖り端部つまみ上げられている。

24) 12・13・27地区出土土器 (第80図～第83図)

12 地区からは7～8期から9期まで、13 地区は4～10期まで、27 地区からは4～10期までの土器が主だってみられる。その中の一例を紹介する程度で留める。

611～614 は12 地区出土土器である。以下615～628 が13 地区出土土器であり、629～633 は27 地区出土土器である。

611 は内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は頸部近くまでナデ消している。外面の文様は5本一組の櫛状工具で直線文を、間隔をあけて三条施し、その文様間に上から、廉状文、波状文、廉状文を施し、その下に斜行短線と直線文が描かれている。口縁外面は数条ナデられ、端部には一条の沈線を入れた後、上方から櫛状工具による刻みが施されている。

612 は内外面に荒いハケ調整を行った後、外面は口縁から頸部にかけて、内面は底部及び口縁にかけて、細かいハケ調整が施されている。内面体部最大径には、縦方向に指によるナデ消しが施され、口縁外面は数条、横方向にナデられている。口縁端部には、ハケ工具による連続した刻みが斜格子状に施されている。

613 は内外面ハケ調整の後、外面は板ナデで部分的に、内面は縦方向に指でナデ消されている。口縁端部には、連続したヘラ工具による刻みが施されている。

614 は内外面にハケ調整を施し、外面は板状工具で丁寧にナデ消し、内面は指でナデ消している。

615・617 は無文の壺であり、内外面ハケ調整を行った後、615 は外面全体的に、599 は外面体部下半のみミガキが施されている。口縁には615 は指による凹圧が施され、617 はヘラ工具による刻みが施された後、その上に一条沈線が施されている。

616 は完形品である。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は頸部近くまで丁寧にナデ消している。外面の文様は、5本一組の櫛状工具で頸部に直線文を一条、体部上半部に直線文と波状文が交互に施されている。口縁は受け口状を呈し、外面には体部文様と同一工具で、直線文を一条施し、両端部に櫛状工具による連続した刻みが施されている。

618 は条痕文系の壺の口縁である。内外面丁寧にナデられ、口縁下頸部はやや垂下する。口縁外面には棒状浮文を五方向に施し、その浮文間に三つの重区画文が描かれている。また浮文状には、ヘラ工具による縦羽状が施されている。

619 は内外面ハケ調整を施し、内面体部最大径より上は、縦方向に、指でナデ消されている。外面の文様は、13本一組の櫛状工具であろうか。頸部には四条直線文が施され、体部上半には、直線文が四条施され、二条目の上には、扇形文が施され擬流水状に、三条目と四条目の間には斜行短線が施されている。

620・621 は受け口状を呈する短頸壺である。内外面ハケ調整を施し、内面及び口縁内外面はナデられている。620 は外面頸部には辛うじて直線文が施されたのが確認でき、口縁外面には、棒状浮文

がつき、浮文上には連続した刻みが施されている。この二条の棒状浮文を一組とし、その浮文間には5～6本一組の櫛状工具で垂線が施され、これを一セットとし、四方向に施され、その間には垂線と同一工具で波状文が二条施されている。621は、外面の文様は8本一組の櫛状工具で直線文と波状文を交互に施し、その上に扇形文が三段施されている。

622は完形品である。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面はナデ消されている。外面の文様は、調整ハケと同一工具で直線文三条と下端に扇形文が施されている。口縁端部には下方からによる連続した刻みが施されている。

623は外面剥離の激しい土器である。内外面ハケ調整を施し、内面体部下半は、横方向に丁寧なミガキが施されている。口縁外面には櫛状工具による羽状刺突文が施され、その下には、6本一組の櫛状工具による直線文、波状文、扇形文が施されている。また文様下には横方向にミガキが施される。

624は接点がないが、同一個体と考えられ、図上復元を行っている。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は体部最大径近くまでナデ消されている。外面の文様は、体部上半に縄文が充填された後、4本一組の櫛状工具で弧線文を十二単位に分け、六段にわたって施されている。また、その下に、直線文と三角刺突が施されている。

625は内外面縦方向にハケ調整を施し、内面体部下半は、上方向にケズられている。口縁から頸部にかけては数条ナデられ、口縁端部には連続した刻みが施されている。

626は内外面の斜め方向にハケ調整を施し、内面は頸部近くまで丁寧にナデ消されている。また底部外面には指押さえがみられ、底面は丁寧にナデられている。口縁端部は面が作られ、ハケ調整が施されている。

627はくの字口縁の無文の甕である。内外面ハケ調整を施し、口縁内外面は横方向にナデられ、薄く丁寧に作りである。

628は内外面にハケ調整が施され、外面は縦方向に、内面底部は横方向に、内面体部は縦方向にミガキが施されている。また外面体部上半には、貼付突帯がつき、口縁端部と突帯の上にはハケ工具による連続した刻みが施されている。

629・630は甕である。内外面ハケ調整が施され、629は内面は丁寧にナデ消され、630は内面底部のみナデ消されている。外面の文様は、629は外面体部上半は縄文が充填され、そこに、ヘラ状工具で辛うじて一条割れ目にみえるのと、二条一組と三条一組に沈線が施されている。630は外面体部上半には、4本一組の櫛状工具で、直線文が二条確認できる。なお、両者とも、頸部の割れ口に煤が付着しており、二次的転用の際に煤が付着したものと考えられる。

631は無文の甕である。内外面下から上へ順にハケ調整を施し、内面は頸部まで丁寧にナデ消されている。また口縁端部にはハケ工具による連続した刻みが施されている。

632は小型の甕である。内外面の斜め方向にハケ調整を施し、内面は底部は横方向に、体部は縦方向にナデ消され、口縁内外面も横方向にナデられ、口縁端部は面が作られている。外面の文様は、7本一組の櫛状工具で直線文と廉状文を交互に施し、直線文下端には、3本一組の櫛状工具で斜行短線を施す。またこれと同一工具で、口縁内面には三段にわたり、斜行短線が不並列に施される。

633は鉢である。内外面にハケ調整が施され、口縁内外面は軽く横方向にナデられている。

25) 底部及び脚部 (第84図)

この中で取り上げたものは、底部しか残存しないが、底面に土器成形時の痕跡を残すものや台付の特徴的なものを抽出した。出土層位は観察表にて参照されたい。

634～635は木葉痕が残る土器である。すべて壺の底部であるが、637のみ、内外面に煤の付着がみられる。木葉痕がそのまま残存するもの(634・636)、中央のみナデ消されるもの(635・637)がある。すべて、円板据置法である。

638・640・641は初圧痕を残す土器である。すべて壺の底部であるが、641の内外面に煤の付着がみられる。640は初圧痕だけでなく砂目が付着し、砂目数であったことがわかる。638、641も器面に砂が付き、剥離している様子が窺われ、640と同様な方法がとられたと考えられる。

639・642は網代痕が残る土器である。両者とも甕の底部であり、出土層は、統一層：xii層から古い層でみられるものと考えられる。網代痕の組み手法は、両者とも「二本すくい、二本押さえ」である。643～648は台付鉢もしくは台付壺になるものと考えられる。内底面は2.5cm程度と4cm程度の二法量に区分でき、約2は5cmのもの(644・645・647)は内面に煤の付着がみられる。約4cmのもの(643・646・648)は丁寧にナデが施されている。台の装飾はさまざまで、底面はすべてナデられ、平底のもの(645・646・648)、脚になるもの(643・644・645)に区分できる。また竹管状刺突がみられるもの(643・645・646)、刺突状のもの(647)や貫通するもの(644)がある。なお、648は7本一組の櫛状工具で脚柱から裾部にかけて、直線文を施し、裾部の面をとった上方に爪もしくは半管状工具であろうか、連続した刻みが施されている。出土層位は、統一層：viii以降になり、8期～9期にみられるものと考えられる。

26) その他の沈線文系・条痕文系土器 (第85図～第87図)

基本的に破片資料である。そのため出土層位に信憑性があるか不確かであるが、文様の構成を考える上で貴重な資料と考え、抽出した。出土層位はxii以降新層のものであるが詳しくは観察表にて参照されたい。649～737は沈線文系の壺及びその系統を継ぐ甕であり、738～741・746は条痕文系の壺であり、744・745は甕であり、747・748は縄文施文を施す壺の体部である。

沈線文系土器については永井氏の詳細な検討(宮腰1995)がされているが、器形のわかりにくい破片に対して、ここではあえて施文方法及び文様だけに触れ、大略的な分類で説明する。なお、時期的な変遷及び文様の変化については考察にて提示する。

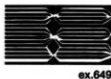
沈線文系の土器の多くは口縁内外面、体部上半から下半にかけて施されている。そこでまずこの中で、口縁・体部両者に採用できる形で分類を行った。なお、浮文を有無、刺突に関する種類区分にはあえて触れず、沈線による横線と縦線から織りなされる構成のみで留める。

Aは祖形が取り上げ層：16層にある、レンズ状の文様を描くもの。(例：No.14・15など)

A-I 横方向に沈線を2～3条描き、区画を行うもの。

- 1 先端尖るもの
- 2 面をもつもの

A-I-1



ex.649

A-I-2



ex.672

ex.671

A-II 横方向に沈線を6条以上とIに比べ、多条に描くもの。

- 1 区画間、区画内に文様を施すもの。

A-II



ex.699

A-II-1



ex.685



ex.687

A-III 横方向に沈線を一周させた後、
区画を行うもの。

- 1 Iの簡略
- 2 IIの簡略
- 3 線上に菱形、垂線を施すもの。

A-III-1



ex.682

A-III-3



ex.696

ex.745

A-III-2



ex.693



ex.691

Bは置区画の文様を施すもの。

B-I 縦→横→縦→横と順に描くもの。

- 1 内に文様を描くもの。
- B-II 2~4条数条毎に縦と横に描くもの。
- B-III 横方向に沈線を一周させた後、縦に
区画を行うもの。

B-I



ex.675

B-I-1



ex.681

B-II



ex.677

B-III



ex.676

Cは弧線文を描くもの。

- C-I 無文のもの。
- C-II 列点を施すもの。
- C-III 縄文を充填するもの。

C



ex.652

C-II



ex.650

C-I



ex.656

C-III



ex.667

Dはコの字重ね文を描くもの。

Eは櫛状工具で文様を描くもの。

- E-I 直線文及び流水文を描くもの。
- E-II 横羽状ないしは放射状に描くもの。

D



ex.673

E-I



ex.718

Fは横方向の沈線のみのももの。

(口線は波状のものであればそのラインに合
わせるもの)

- F-I 無文で数条描くもの。
- F-II 沈線間に横羽状ないし、刺突が
施されるもの。
- F-III 沈線で仕切枠を施し、縄文を充填
するもの。

F-I



ex.661

F-III



ex.664

F-II

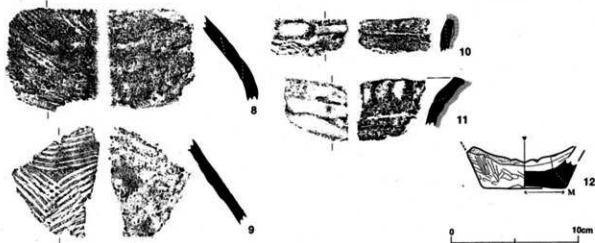
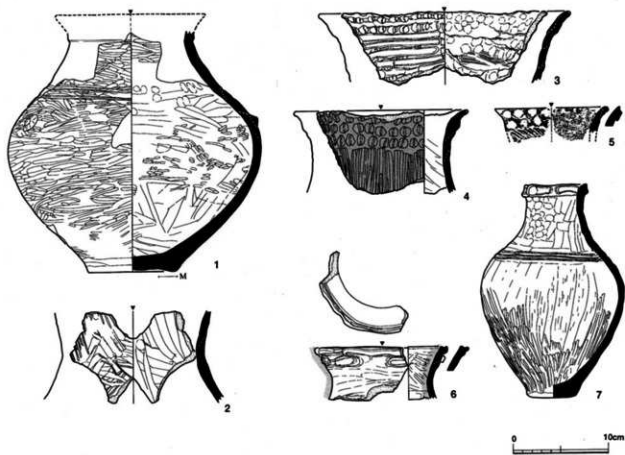


ex.723



ex.727

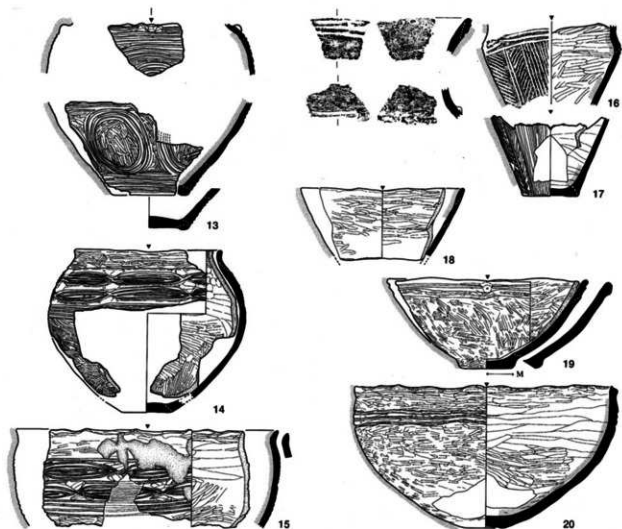
その他、永井氏の言う三角連繫文にあたるもの、
山形を数条重ねるものなどがみえる。



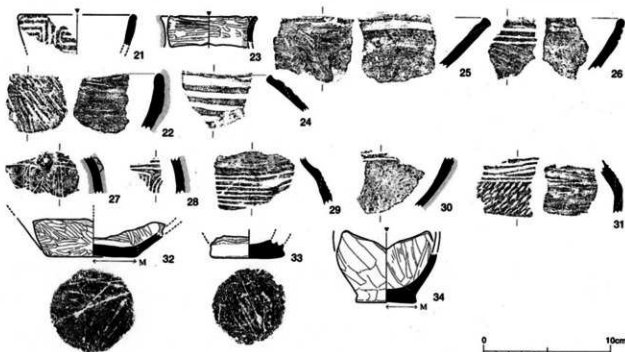
第9図 xv,xvi層出土土器(取り上げ層:16層) 1(1~7:S=1/4, 8~12:S=1/3)

xv, xvi層出土土器 (1~12)

図号	層	取上げ層	土器名	形状	色	出土	口径	最大径	高さ	体積	重量	容積	注	
1	25	9	ツイン16-10	壺	2.5V8/2反白色	壺	18.0	19.0	12.0	25.81	15.4	1.3	片断	
2	26	10	ツイン16	壺	10V9/7.5-2反黒褐色	壺				(14.8)	19.01		片断	
3	26	9	ツイン16-3	壺	2.5V8/2反黒色	壺					17.5		片断	
4	26	9	ツイン16-3.4.5	壺	10V9/7.5-2反白色	壺				(18.0)	(9.5)		片断	
5	26	9	ツイン16-2.5	壺	2.5V7/2反褐色	壺	11.2				(2.7)		内面ナシ 器入	
6	26	10	ツイン16	壺	2.5V8/2反白色	壺	(4.0)				(3.4)		片断	
7	26	9	ツイン16-1	壺	10V9/7.5-2反褐色	壺	19.5	14.9	4.9-5.1	5.9	22.0	1.34	1.3	内面黒褐色
8	26	9	ツイン16	壺	2.5V8/2反白色	壺								片断
9	26	10	ツイン16	壺	5V9/6反褐色	壺								片断
10	26	9	ツイン16-3.4.5	壺	2.5V8/2反褐色	壺								片断
11	26	9	ツイン16-3.4.5	壺	2.5V7/2反褐色	壺								片断
12	26	9	ツイン16-8(器入)	壺	5V7/2反褐色	壺			16.8		(2.3)	1.1		内面ナシ 片断

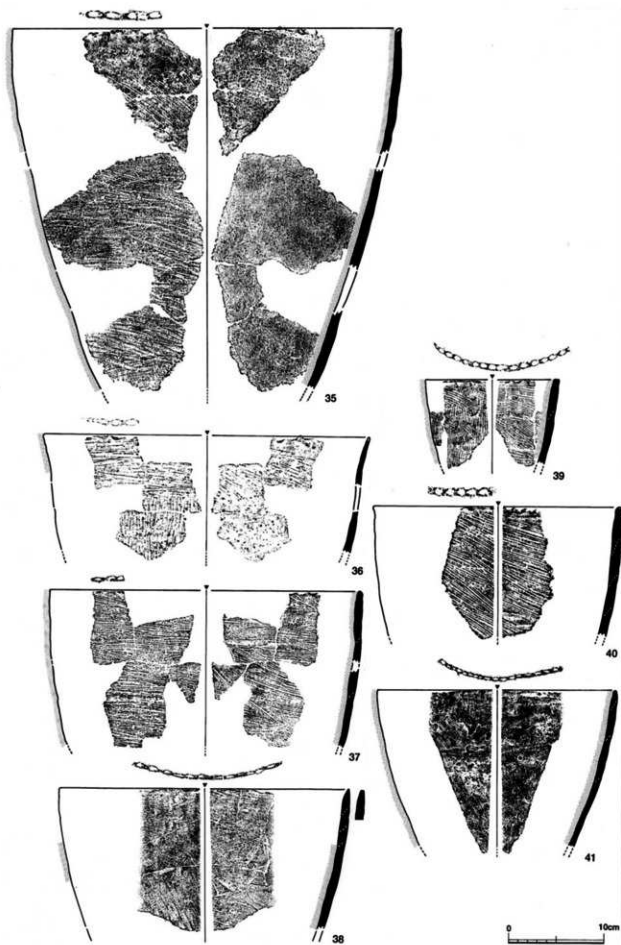


0 10cm

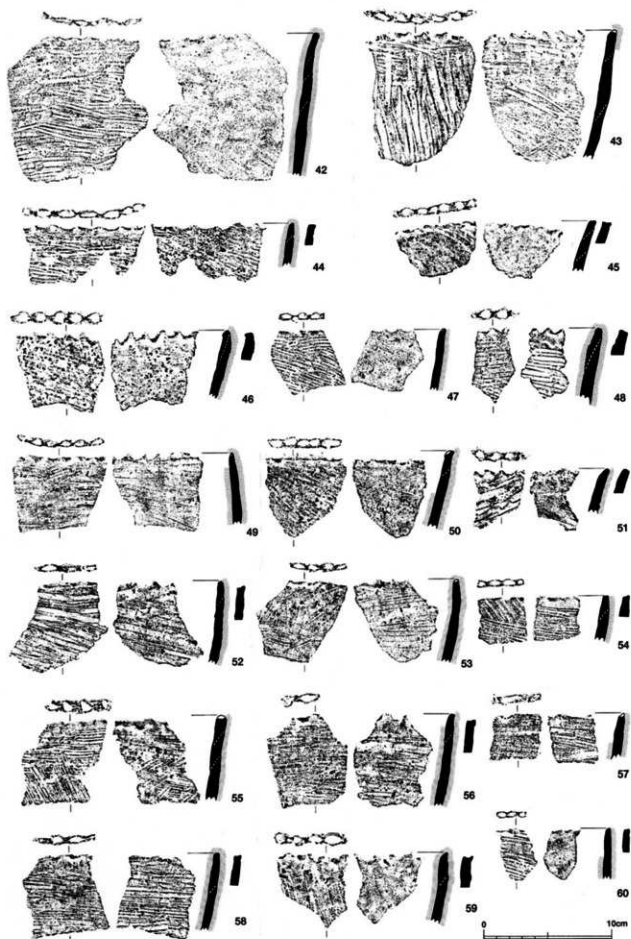


0 10cm

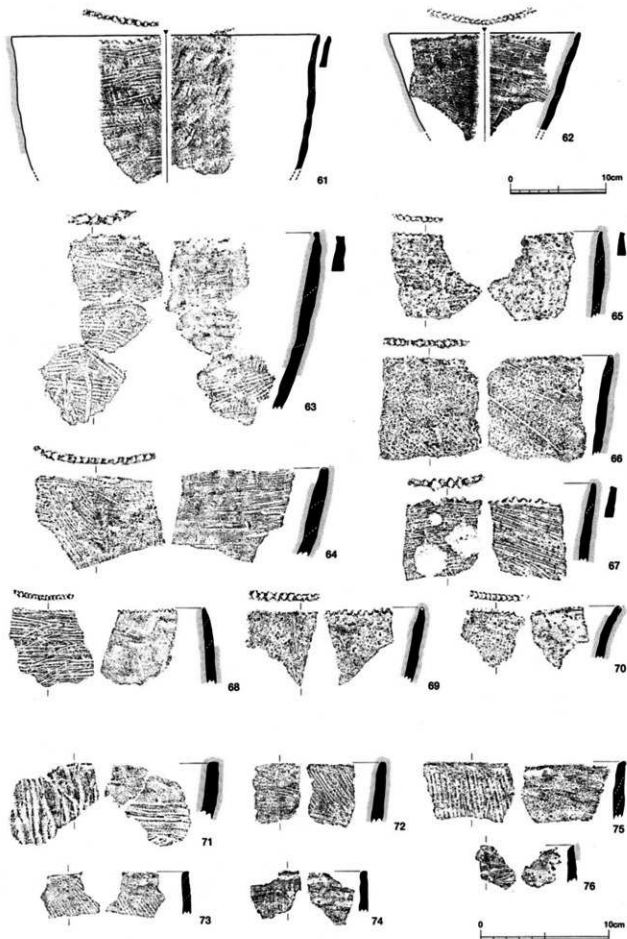
第10図 xv,xvi層出土土器(取り上げ層:16層) 2 (13~20: S=1/4, 21~34: S=1/3)



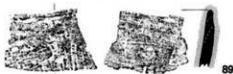
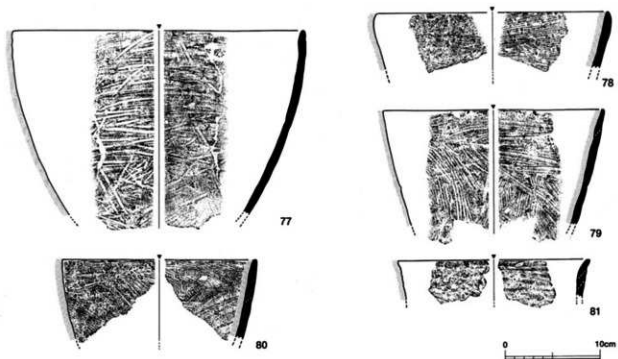
第11図 xv,xvi層出土土器 (取り上げ層:16層) 3 (S=1/4)



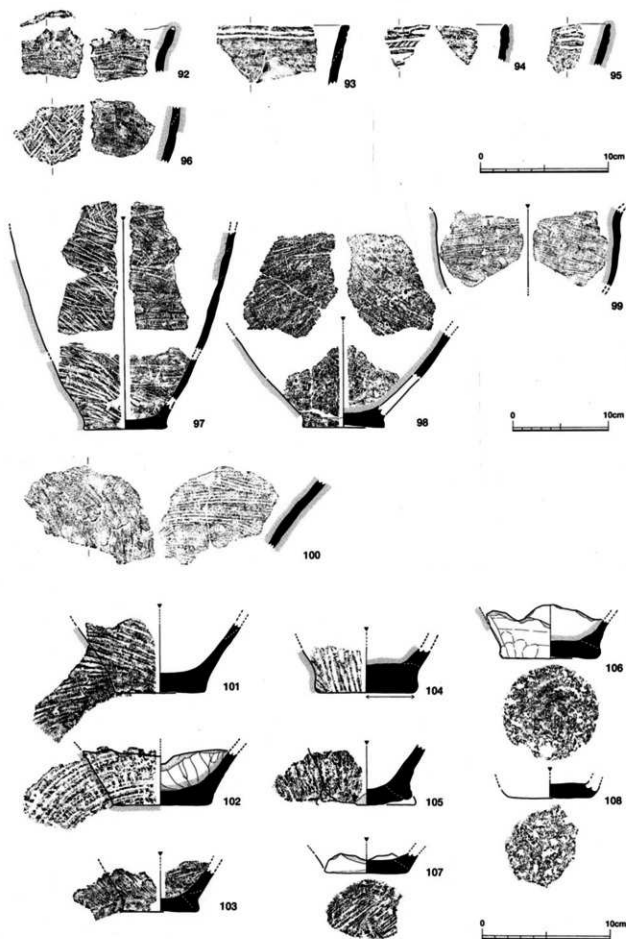
第12図 xv,xvi層出土土器(取り上げ層:16層)4 (S=1/3)



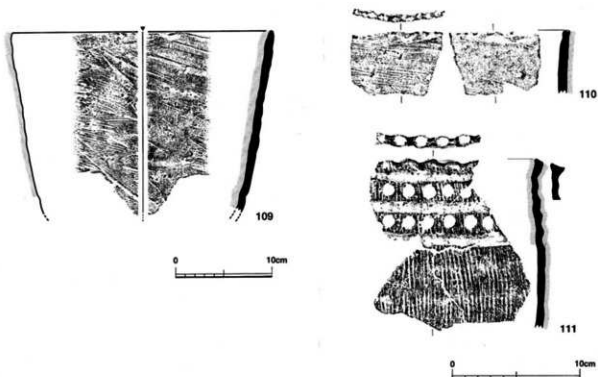
第13図 xv,xvi層出土土器 (取り上(層) : 16層) 5 (61・62 : S=1/4, 63~76 : S=1/3)



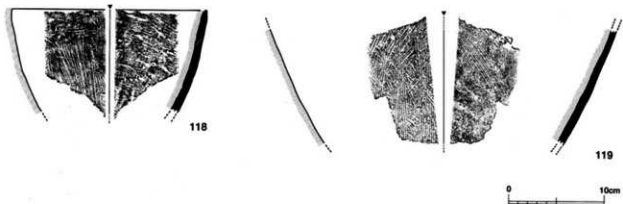
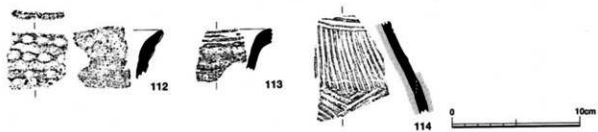
第14図 xv,xvi層出土土器(取り上げ層:16層)6 (77~81: S=1/4, 82~91: S=1/3)



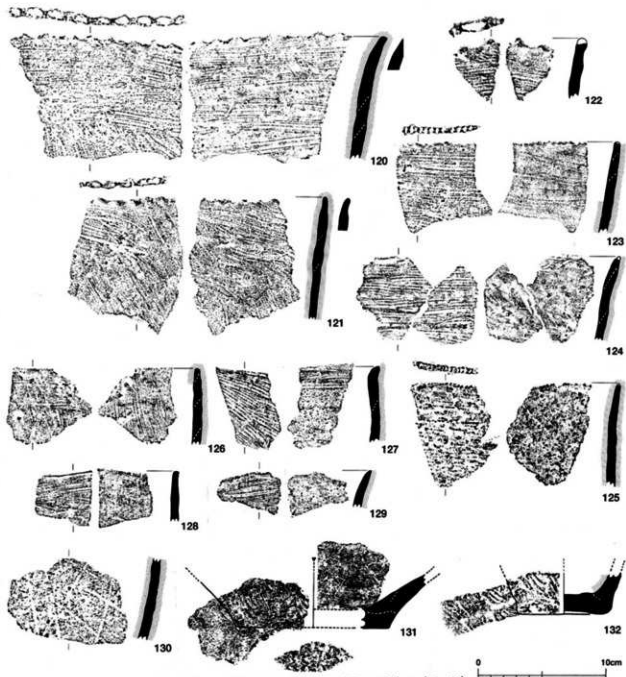
第15図 xv,xvi層出土土器(取り上り層:16層)7 (97~99: S=1/4, 92~96・100~108: S=1/3)



第16図 xv層出土土器 (取り上げ層:15層) (109: S=1/4, 110・111: S=1/3)



第17図 xiv層出土土器 (取り上げ層:14層) 1 (112~114・117: S=1/3, 115・116・118・119: S=1/4)



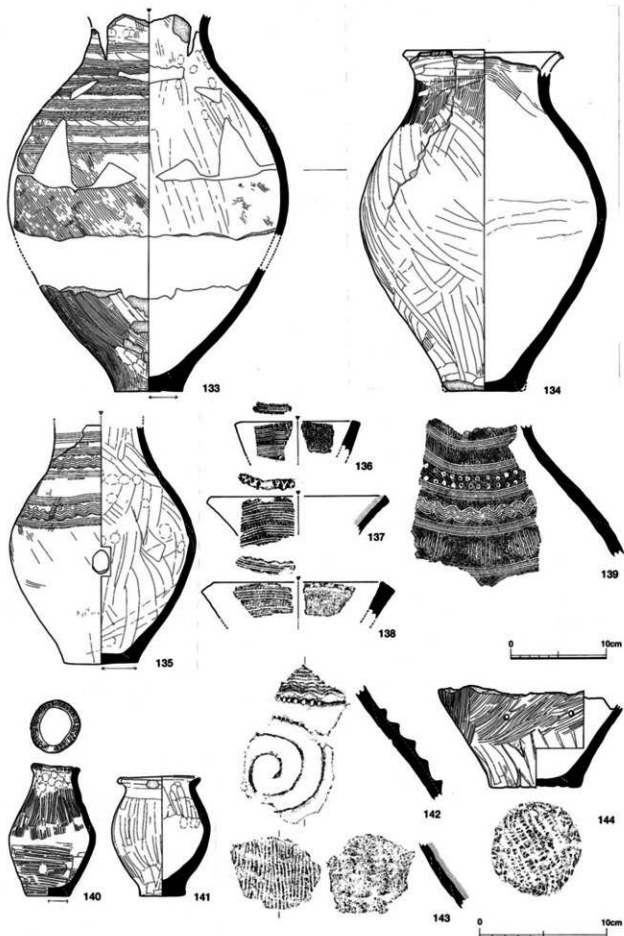
第18図 xiv層出土土器 (取り上げ層: 14層) 2 (S=1/3)

xv層出土土器 (109~111)

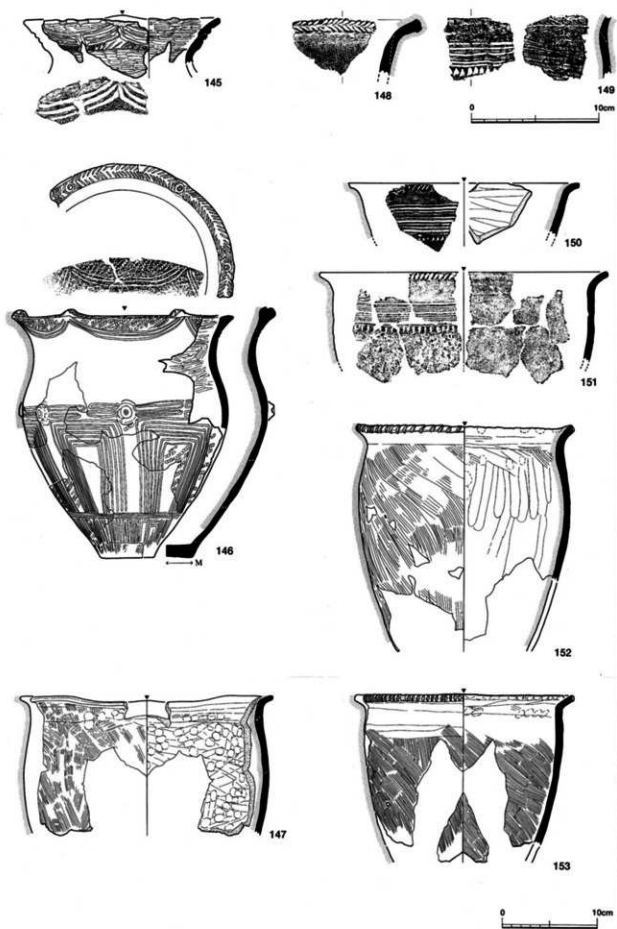
発掘層	出土位置	土器番号	形状	土器名	土質	口径	底径	高さ	最大径	重量	備考
109	109-2-215	xv	109-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
110	110-2-215	xv	110-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
111	111-2-215-1	xv	111-2-215-1	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断

xiv層出土土器 (112~132)

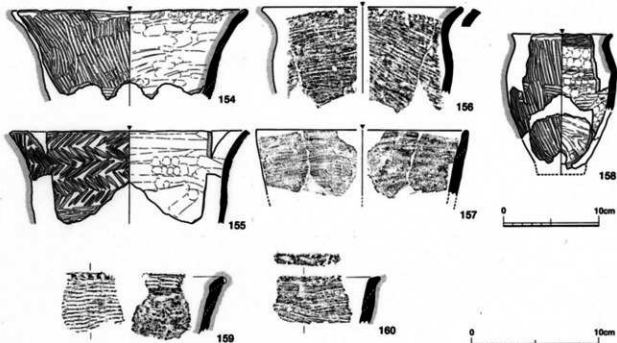
発掘層	出土位置	土器番号	形状	土器名	土質	口径	底径	高さ	最大径	重量	備考
112	112-2-215	xiv	112-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
113	113-2-215	xiv	113-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
114	114-2-215	xiv	114-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
115	115-2-215	xiv	115-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
116	116-2-215	xiv	116-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
117	117-2-215	xiv	117-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
118	118-2-215	xiv	118-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
119	119-2-215	xiv	119-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
120	120-2-215	xiv	120-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
121	121-2-215	xiv	121-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
122	122-2-215	xiv	122-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
123	123-2-215	xiv	123-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
124	124-2-215	xiv	124-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
125	125-2-215	xiv	125-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
126	126-2-215	xiv	126-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
127	127-2-215	xiv	127-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
128	128-2-215	xiv	128-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
129	129-2-215	xiv	129-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
130	130-2-215	xiv	130-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
131	131-2-215	xiv	131-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断
132	132-2-215	xiv	132-2-215	片断	灰土	12.0	10.0	1.0	1.0	1.0	片断



第19図 xiiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層:10層) 1 (133~141: S=1/4, 142~144: S=1/3)



第20図 xiiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層:10層) 2 (148・149:S=1/3, 145~147・150~153:S=1/4)



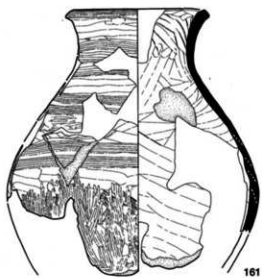
第21図 xiiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層:10層) 3 (154~158: S=1/4, 159・160: S=1/3)

xiiC層出土土器 (2~6Gr) (133~160)

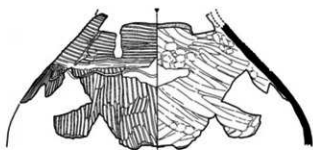
層	取	Gr	土器の種別	取上げ層	土器	品名	土質	径	高さ	口径	底径	口縁高	口縁厚	底厚	口縁の傾斜	底の傾斜	備考
133	20	5	10層	40C	埋藏品	No.2098	陶	100	25.0	7.5	41.0	12.0	1.4	1.4	1.4	1.4	内縁直下
134	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4399	陶	16.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
135	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4399	陶	16.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
136	20	5	10層	40C	埋藏品	No.4399	陶	11.2	30.0	7.0	30.0	7.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
137	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4399	陶	16.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
138	20	5	10層	40C	埋藏品	No.4399	陶	11.2	30.0	7.0	30.0	7.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
139	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4399	陶	16.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
140	20	5	10層	40C	埋藏品	No.8110	陶	4.0	8.0	4.0	12.0	10.0	0.8	0.8	0.8	0.8	内縁直下
141	20	5	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	4.0	8.0	4.0	12.0	10.0	0.8	0.8	0.8	0.8	内縁直下
142	20	5	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	4.0	8.0	4.0	12.0	10.0	0.8	0.8	0.8	0.8	内縁直下
143	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	4.0	8.0	4.0	12.0	10.0	0.8	0.8	0.8	0.8	内縁直下
144	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	4.0	8.0	4.0	12.0	10.0	0.8	0.8	0.8	0.8	内縁直下
145	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	4.0	8.0	4.0	12.0	10.0	0.8	0.8	0.8	0.8	内縁直下
146	20	5	10層	40C	埋藏品	No.3061	陶	20.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
147	20	2	10~2層	40C	埋藏品	No.4917	陶	25.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
148	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	25.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
149	20	5	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	25.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
150	20	6	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	25.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
151	20	6	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	25.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
152	20	4	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	25.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
153	20	5	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	22.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
154	20	6	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	24.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
155	20	6	10層	40C	埋藏品	No.8037	陶	22.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
156	20	6	10層	40C	埋藏品	No.8037	陶	22.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
157	20	6	10層	40C	埋藏品	No.8037	陶	21.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
158	20	6	10層	40C	埋藏品	No.8037	陶	21.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
159	20	6	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	21.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
160	20	6	10層	40C	埋藏品	No.4917	陶	21.0	30.0	10.0	30.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下

xiiC層出土土器 (7~10Gr) (161~182)

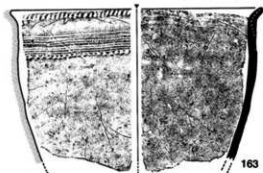
層	取	Gr	土器の種別	取上げ層	土器	品名	土質	径	高さ	口径	底径	口縁高	口縁厚	底厚	口縁の傾斜	底の傾斜	備考
161	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
162	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8099	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
163	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
164	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
165	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8055	陶	22.0	32.0	10.0	32.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
166	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
167	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8220	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
168	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
169	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
170	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
171	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
172	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
173	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
174	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
175	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
176	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
177	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
178	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8055	陶	22.0	32.0	10.0	32.0	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
179	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
180	20	8	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
181	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下
182	20	7	10層	40C	埋藏品	No.8419	陶	13.0	25.0	11.0	27.0	11.0	1.0	1.0	1.0	1.0	内縁直下



161



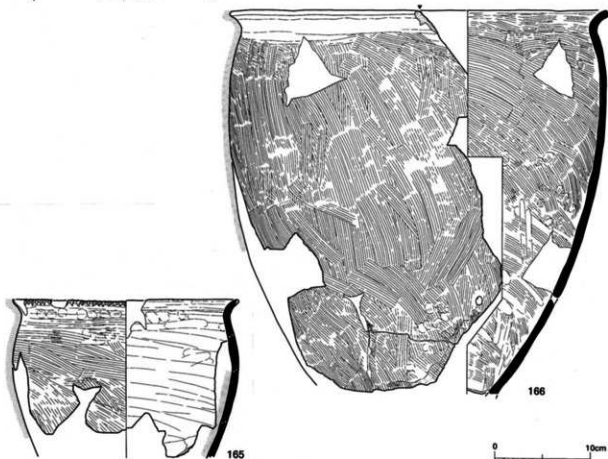
162



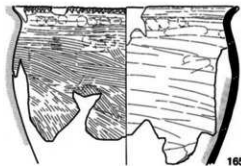
163



164



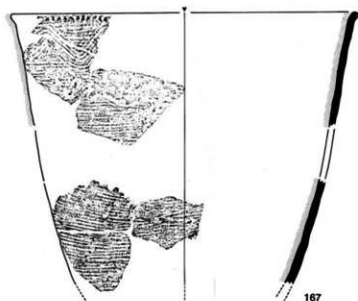
166



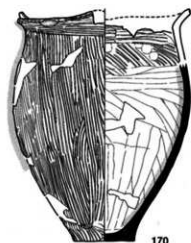
165



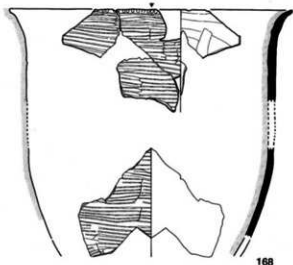
第22図 xiiC層出土土器 (7~10Gr 取り上げ層:10層) 4 (S=1/4)



167



170



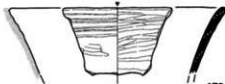
168



171



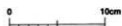
172



173



169



174



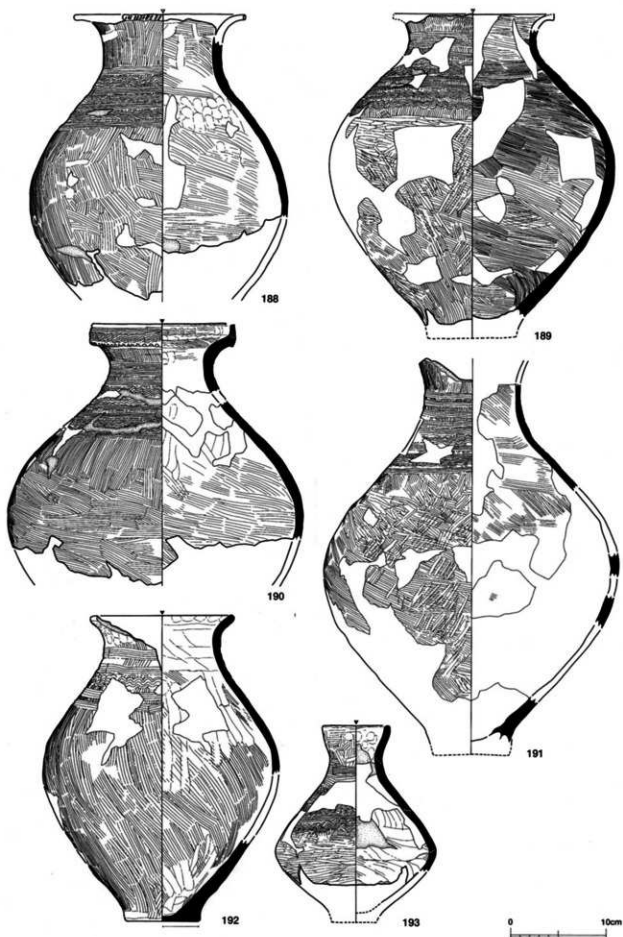
175



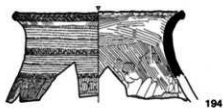
176



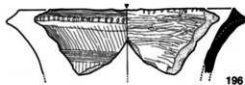
第23図 xiiC層出土土器 (7~10Gr 取り上げ層:10層) 5 (167~173 : S=1/4, 174~176 : S=1/3)



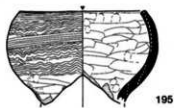
第26図 xiC層出土土器（2～6Gr 取り上げ層：9層）1（S=1/4）



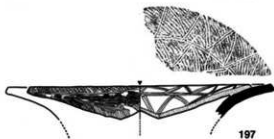
194



196



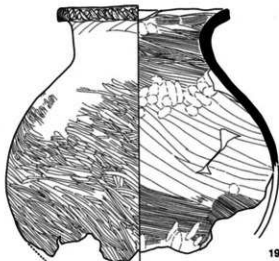
195



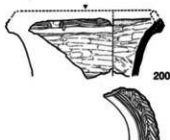
197



198



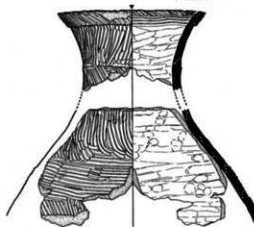
199



200



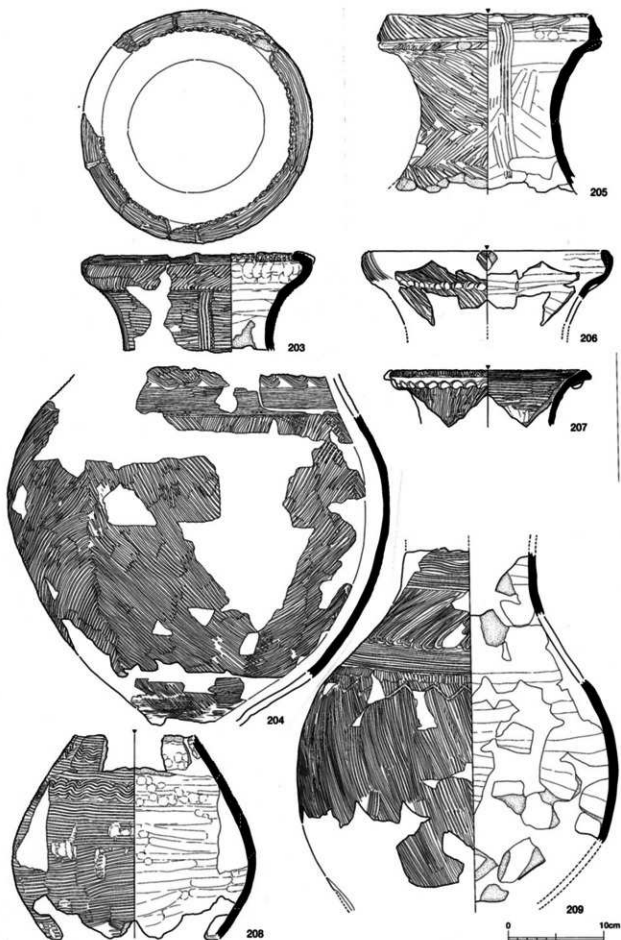
202



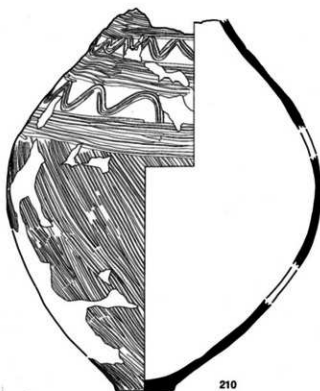
201



第27図 xiC層出土土器 (2~6 Gr 取り上層: 9層) 2 (S=1/4)



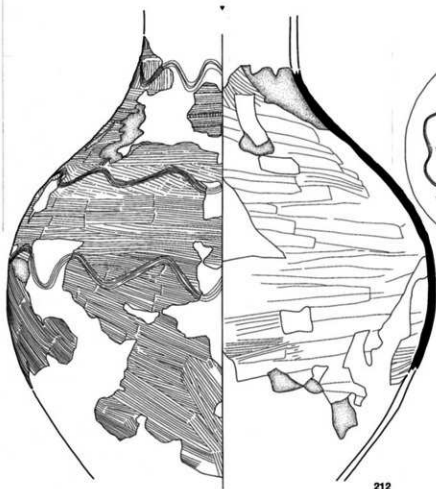
第28図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 9層) 3 (S=1/4)



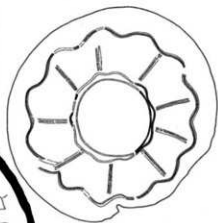
210



211

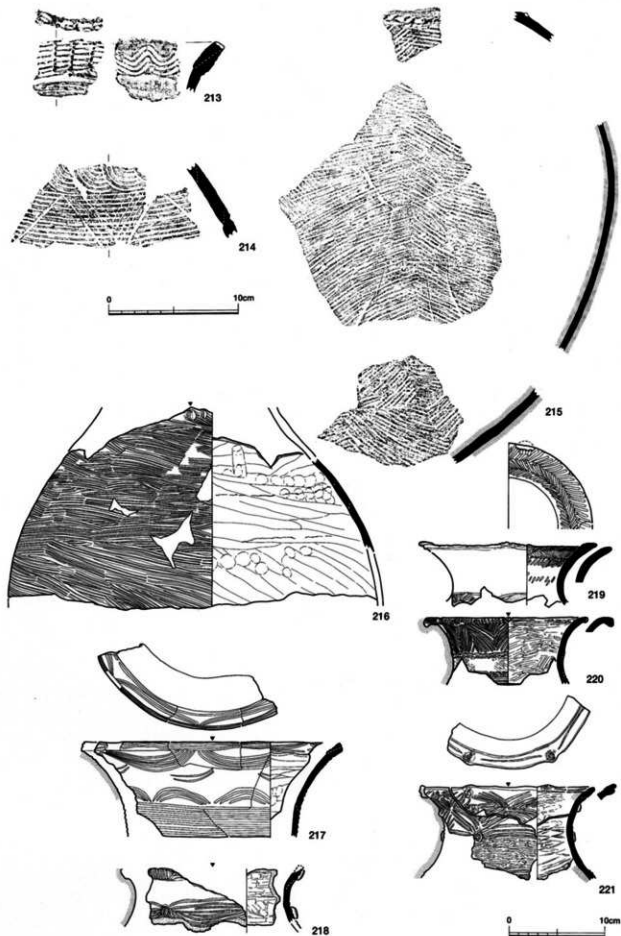


212

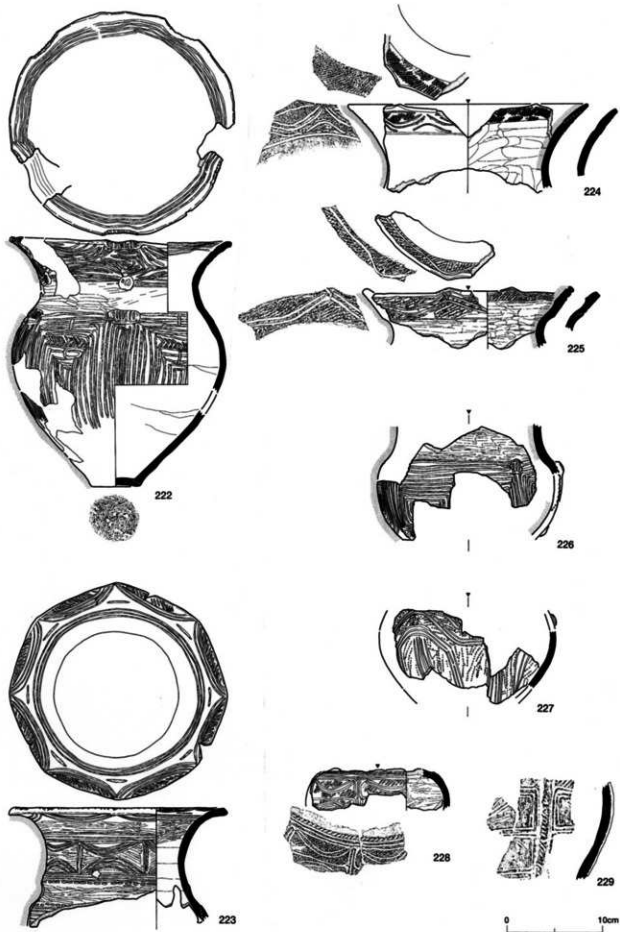


0 10cm

第29図 xiC層出土土器（2～6Gr 取り上げ層：9層）4（S=1/4）



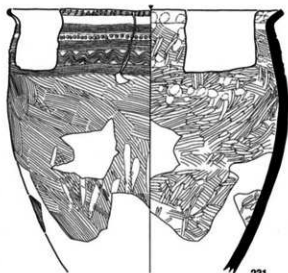
第30図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 9層) 5 (213・214: S=1/3, 215~221: S=1/4)



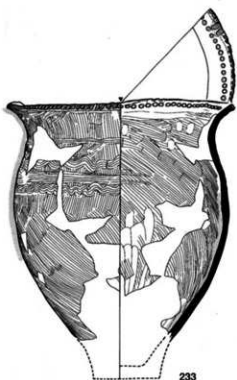
第31図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 9層) 6 (S=1/4)



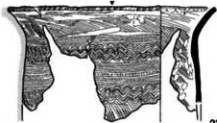
230



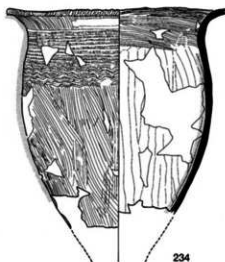
231



233



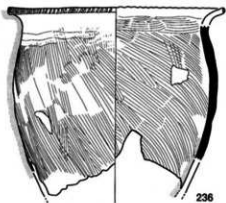
232



234



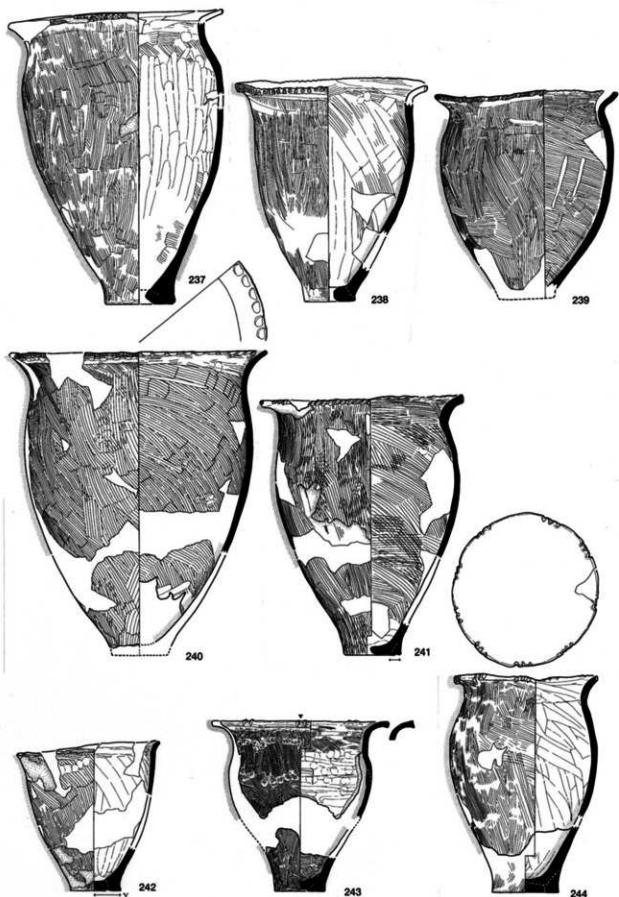
235



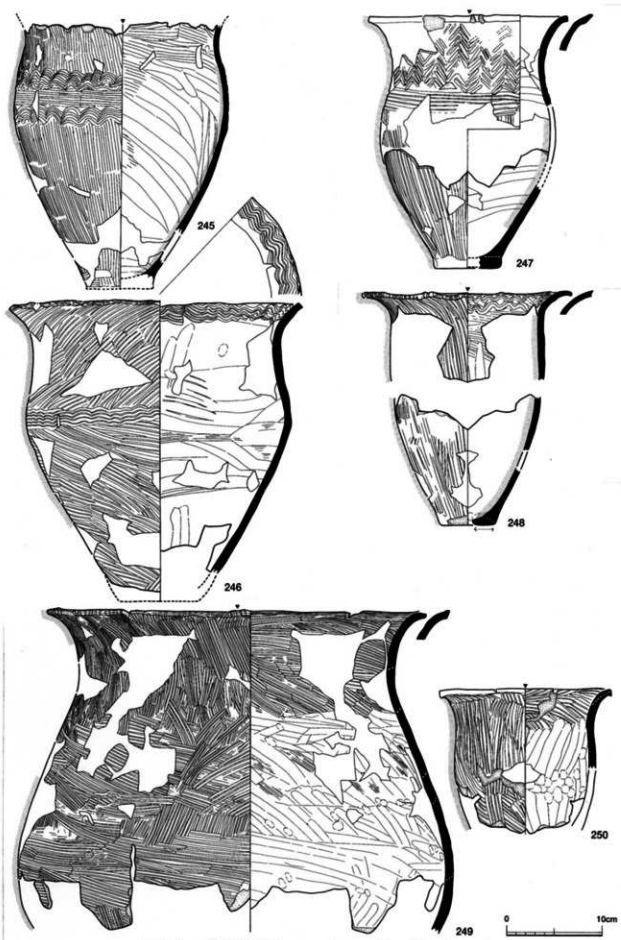
236



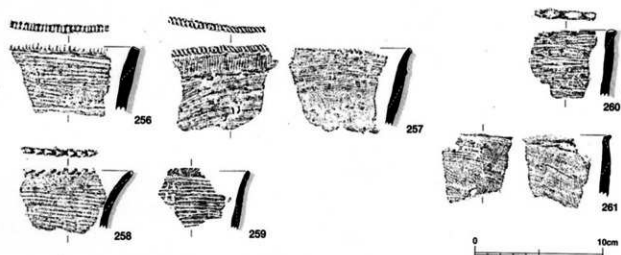
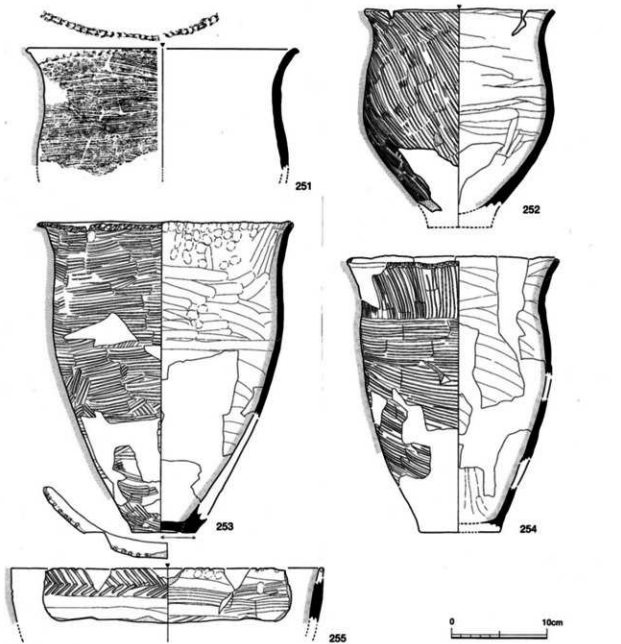
第32図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 9層) 7 (S=1/4)



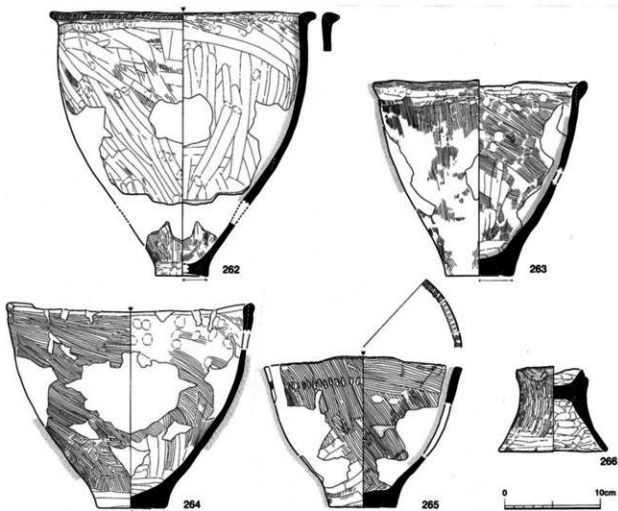
第33図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層:9層) 8 (S=1/4)



第34図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 9層) 9 (S=1/4)



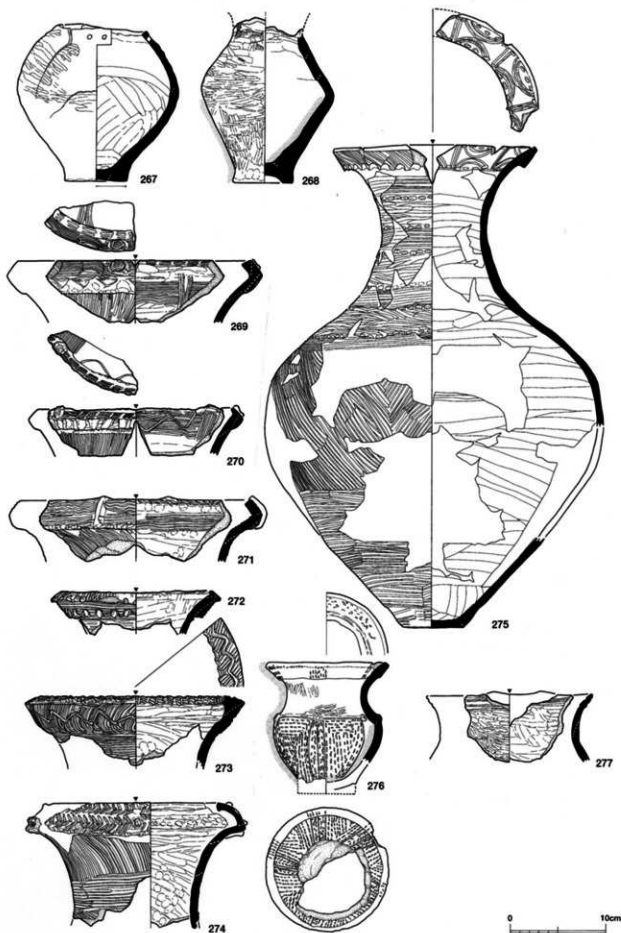
第35図 xiC層出土土器(2~6Gr 取り上げ層:9層) 10 (251~255: S=1/4, 256~261: S=1/3)



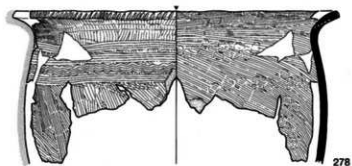
第36図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 9層) 11 (S=1/4)

xiC層出土土器 (188~222)

層	Gr	層	土器名	器種	形状	口径	底径	高さ	体積	容積	重量	内径	底径	高さ	体積	容積	重量	
188	20	G-5	9層	xiC	罐類土器	No.3190	胎	内 10YR5/7 黄褐色土	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
189	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3402	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
190	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3012	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
191	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3022	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
192	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3069	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
193	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3069	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
194	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
195	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
196	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
197	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
198	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
199	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
200	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
201	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
202	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
203	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
204	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
205	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
206	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
207	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
208	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.3446	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
209	20	F-6	9層	xiC	罐類土器	No.3137	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
210	20	F-3	9層	xiC	罐類土器	No.2350	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
211	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.4047	胎	内 2.5YR4/4 赤褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
212	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.2428	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
213	20	F-4	9層	xiC	罐類土器	No.2428	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
214	20	F-5	9層	xiC	罐類土器	No.2428	胎	内 10YR6/1 灰白色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
215	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
216	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
217	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
218	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
219	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
220	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
221	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
222	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
223	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎
224	20	F-2	9層	xiC	罐類土器	No.2314	胎	内 2.5Y5/2 黄褐色	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎	胎



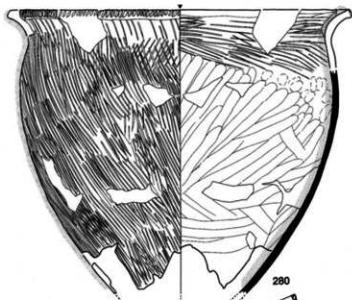
第37図 xiC層出土土器（7～10Gr 取り上げ層：9層）12（S=1/4）



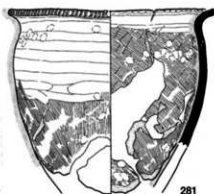
278



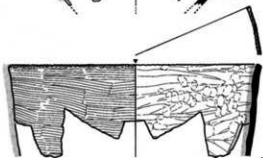
279



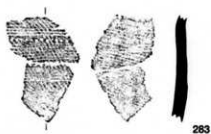
280



281



282



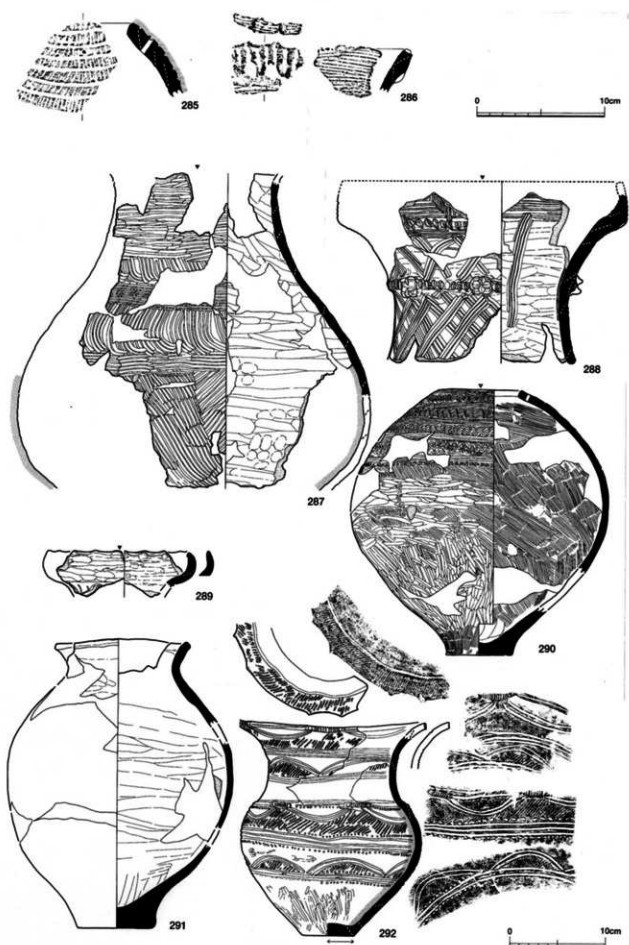
283



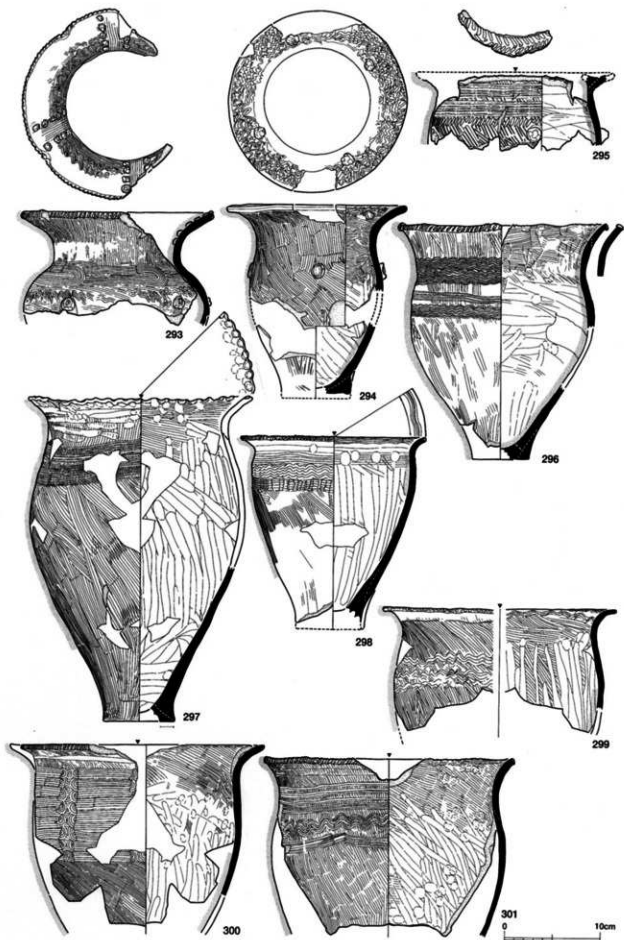
284



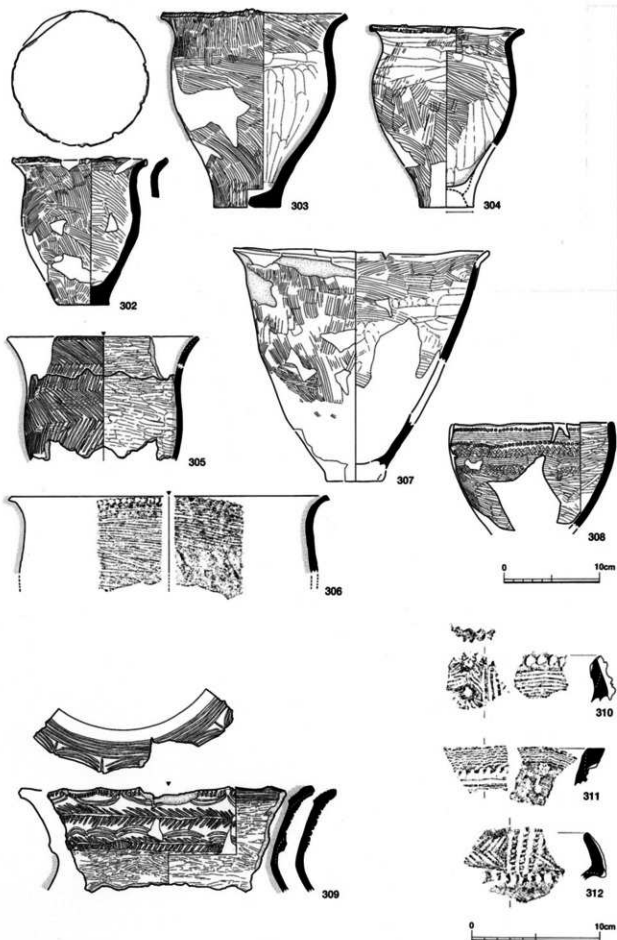
第38図 xiC層出土土器 (7~10Gr 取り上げ層:9層) 13 (278~282: S=1/4, 283・284: S=1/3)



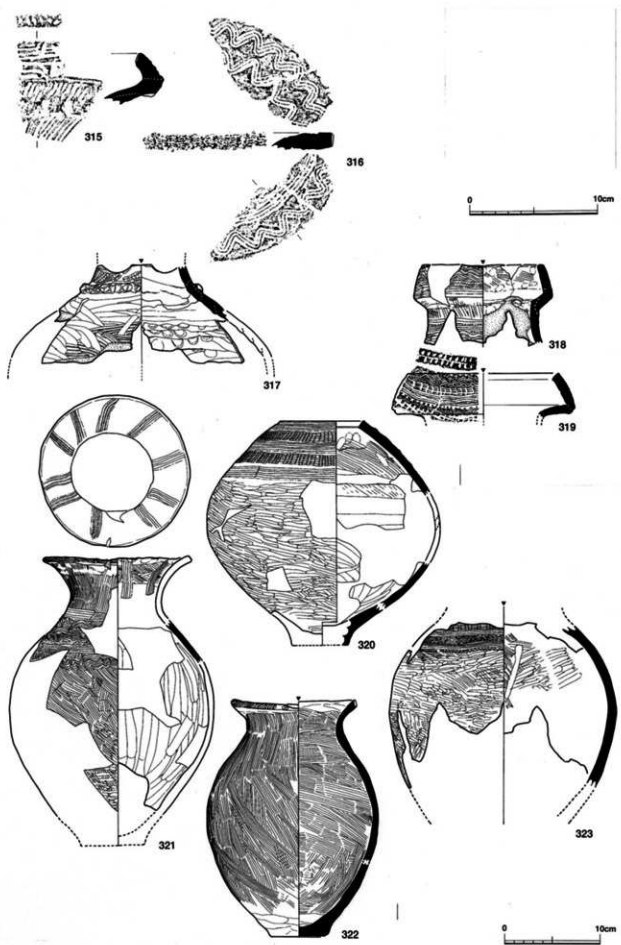
第39図 xiC層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 9層上面) 14 (285・286: S=1/3, 287~292: S=1/4)



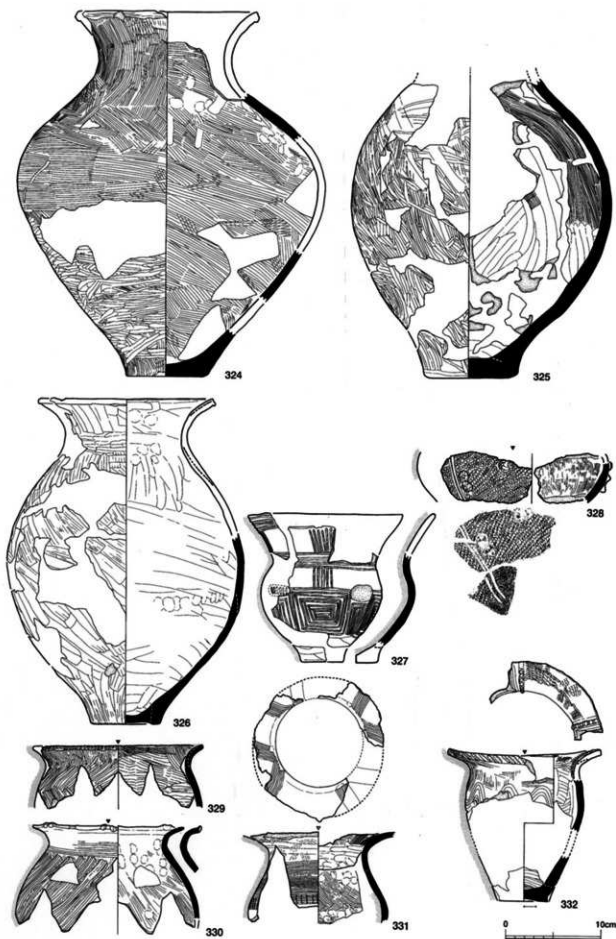
第40图 xiC层出土土器 (2~6Gr 取上層:9層上面) 15 (S=1/4)



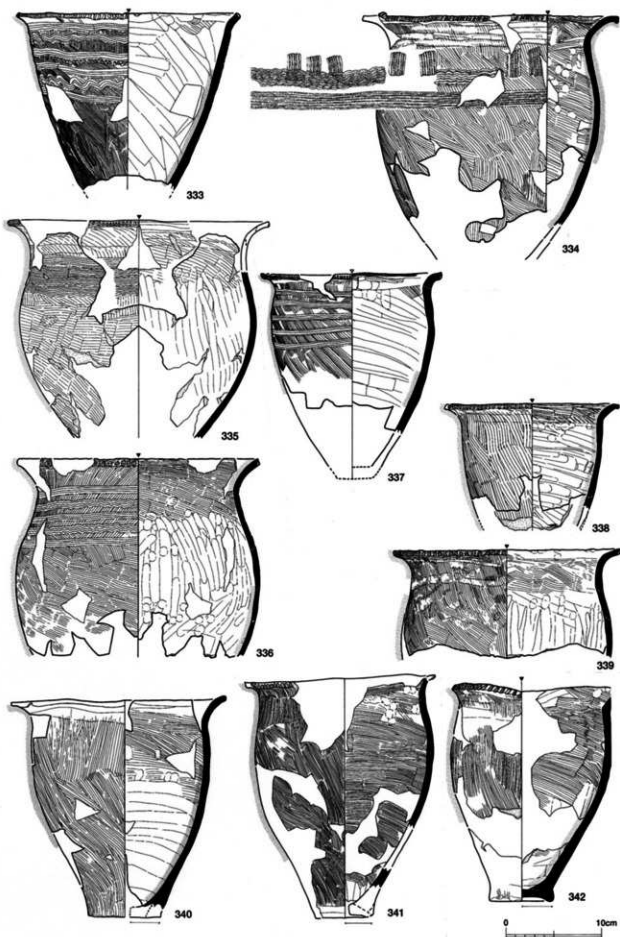
第41図 xIC層出土土器 (2~10Gr 取り上げ層: 9層上面) 16 (302~309: S=1/4, 310~312: S=1/3)



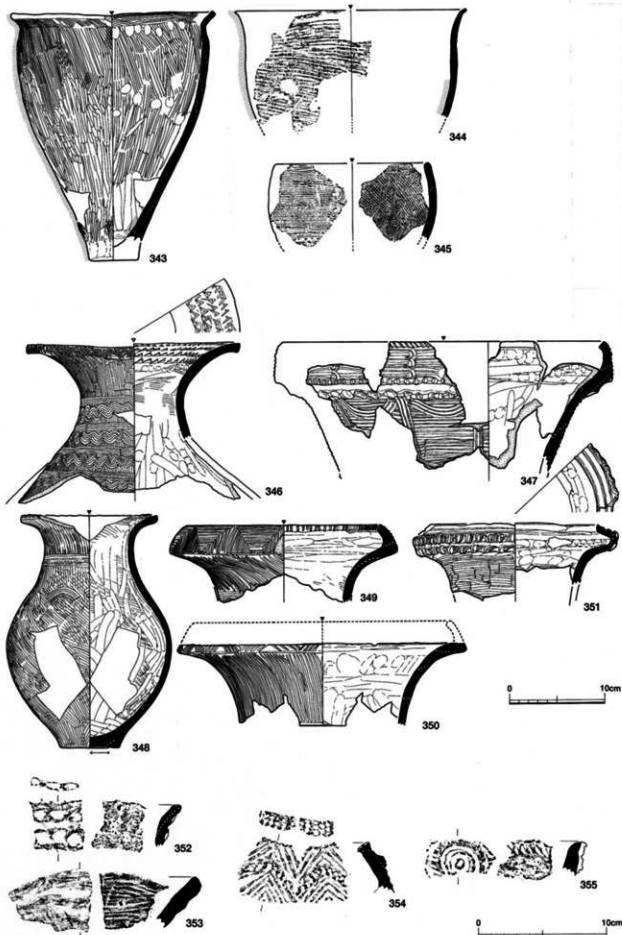
第43図 xA層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 8層黒褐色埴土) 1 (315・316: S=1/3, 317~323: S=1/4)



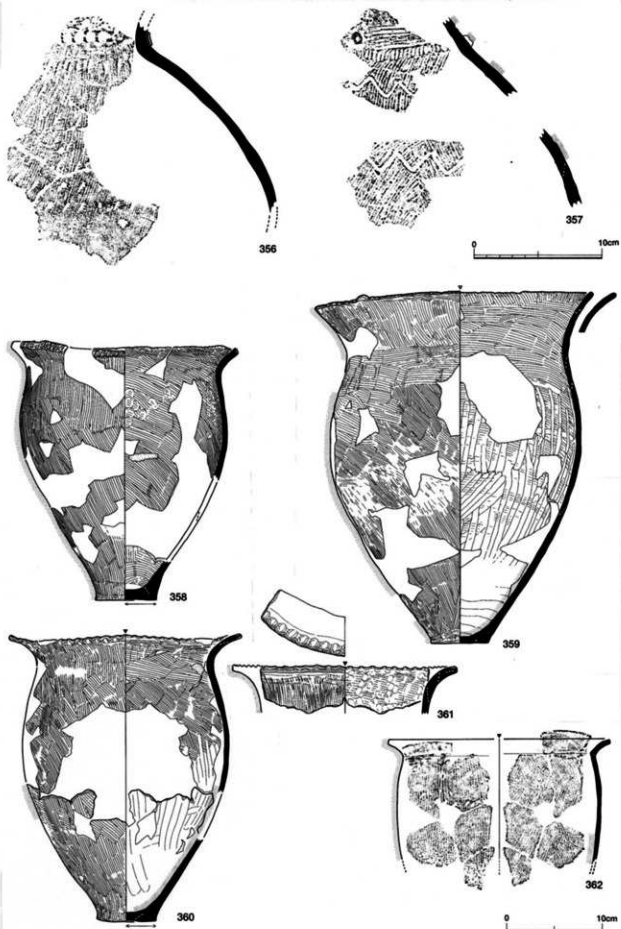
第44図 xA層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 8層黒褐色埴土) 2 (S=1/4)



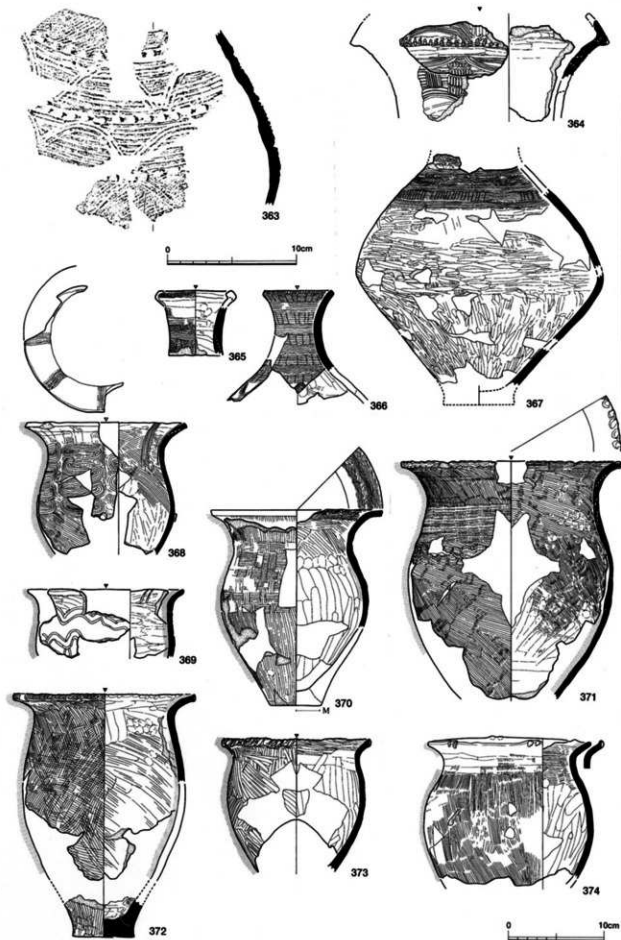
第45図 xA層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 8層黒褐色埴土) 3 (S=1/4)



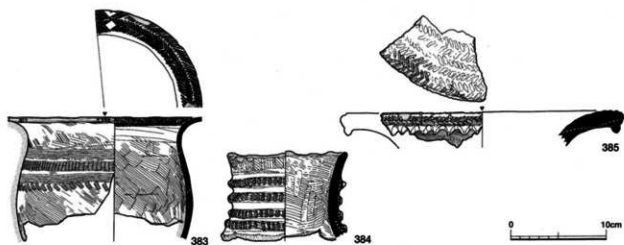
第46図 xA層出土土器 (2~10Gr 取り上げ層: 8層黒褐色埴土) 4 (343~351: S=1/4, 352~355: S=1/3)



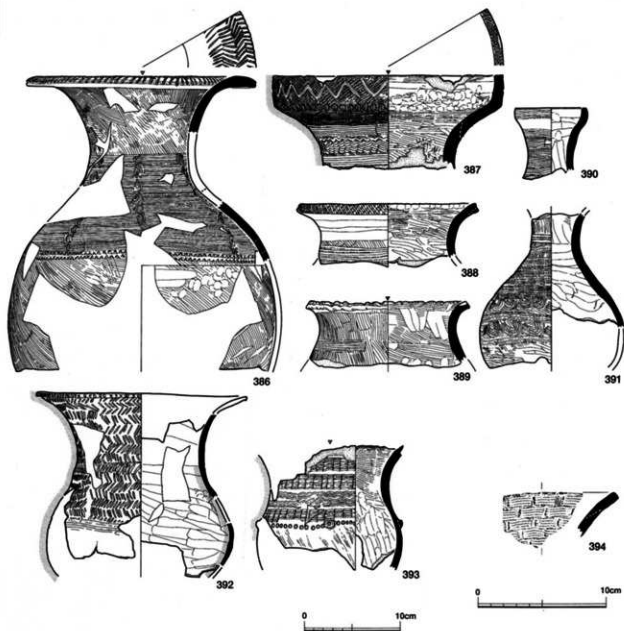
第47図 xA層出土土器 (7~10Gr 取り上げ層: 8層黒褐色埴土) 5 (356・357: S=1/3, 358~362: S=1/4)



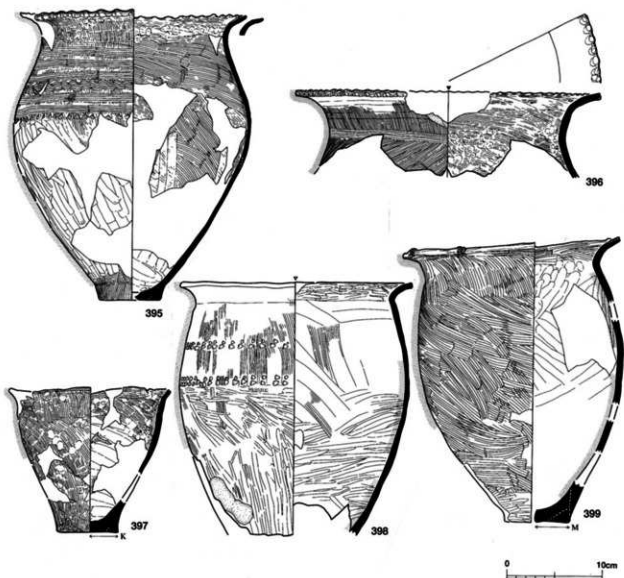
第48図 ix1A層出土土器 (2~7Gr 取り上げ層: 8層黒褐色砂~埴壇土層) 1 (363: S=1/3, 364~374: S=1/4)



第50図 viii1S層出土土器 (7~10Gr 取り上げ層: 8古層) (S=1/4)



第51図 viii~ix1A層出土土器 (2~6Gr 取り上げ層: 7層黒褐色砂壤土) 1 (386~393: S=1/4, 394: S=1/3)



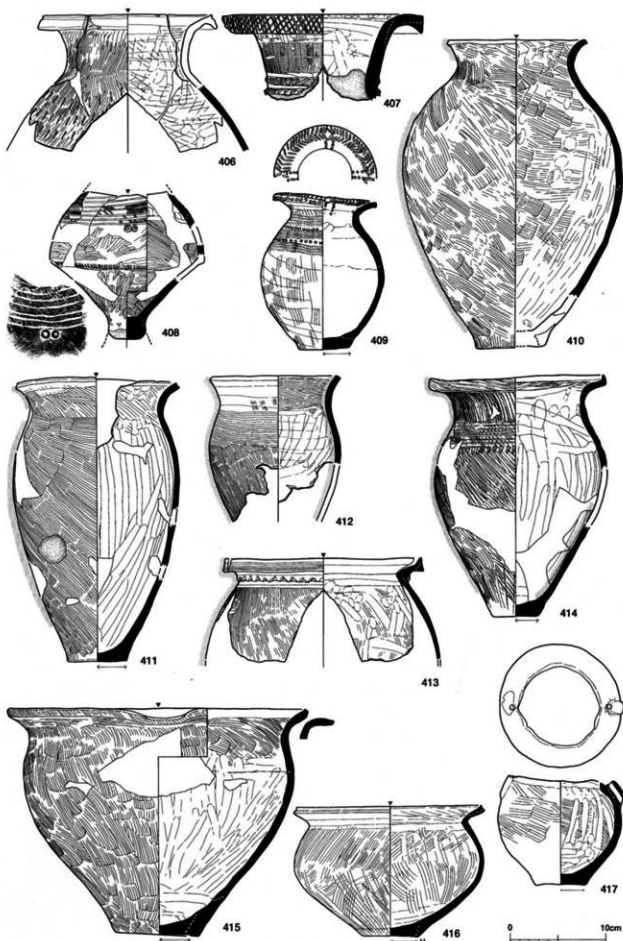
第52図 viii~ix1A層出土土器 (2~6Gr取り上げ層:7層黒褐色砂壤土) 2 (S=1/4)

viii15層出土土器 (383~385)

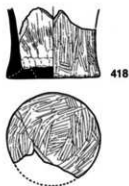
No.	区	Gr	取上げ層	群一番号	器種名	取上げ	材質	胎子径	口径	底径	高さ	口径/高さ	口径/底径	重量	出土地
383	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	19	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
384	26	5	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
385	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地

viii~ix1A層出土土器 (386~399)

No.	区	Gr	取上げ層	群一番号	器種名	取上げ	材質	胎子径	口径	底径	高さ	口径/高さ	口径/底径	重量	出土地
386	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	19	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
387	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	19	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
388	26	5	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
389	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
390	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
391	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
392	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
393	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
394	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
395	26	5	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
396	26	5	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
397	26	5	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
398	26	5	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地
399	26	4	7-2層	viia~ix1A	埴輪瓦葺	18	黄	12.5	13.2	11.3	11.0	1.17	1.17	17.3	在地



第54図 viA層出土土器（取り上げ層：黒色土層）1 (S=1/4)

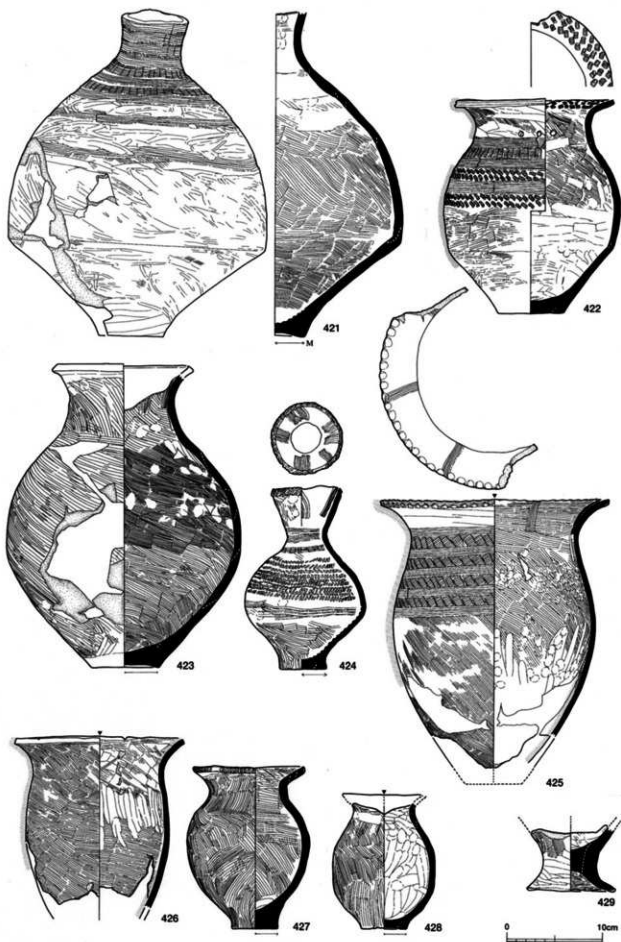


第55図 viA層出土土器(取り上げ層:黒色土層)2 (S=1/4)

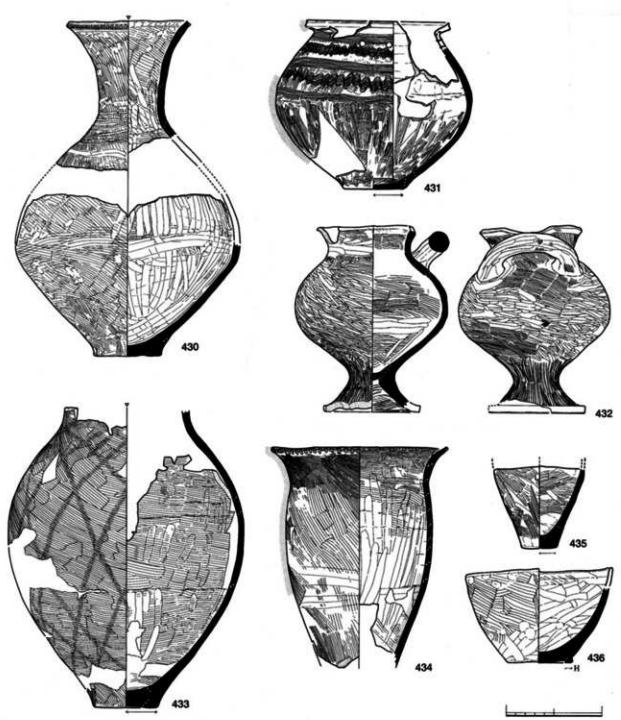
viA層出土土器 (406~420)

No.	区	Gr	取上げ層位	群一層位	発掘名	取上げ	経緯	色相	胎土	器底	口径	最大直径	高さ	体積(容積)	重量	出土層位	発掘の時期	備考	
406	26	5	黒色土	viA	埋藏土層			2.316/2.2黄褐色	粗製	良好	17.3		17.4					個人	
407	26		黒色土	viA	埋藏土層	No.856	西	1.979/2.1灰白色	粗製	良好	20.9								個人
408	26	東方穴	黒色土	viA	埋藏土層		西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好			13.8						埋藏法
409	26	西方穴	黒色土	viA	埋藏土層	No.128	東	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	10.5	12.7	5.9	7.0	18.2	0.86	1.1		埋藏法
410	26	7	黒色土	viA	埋藏土層	No.120	東	2.316/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	14.0	20.8	7.3	12.1	21.8	0.82	1.8		埋藏法
411	26	8	黒色土	viA	埋藏土層	No.179	西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	15.8	17.5	9.8-10	13.9	28.1	1.78			埋藏法
412	26	8	黒色土	viA	埋藏土層	No.815	西	1.979/2.2黄褐色	粗製	良好	13.8		11.5		13.0	0.51			埋藏法
413	26	10	黒色土	viA	埋藏土層	No.850	西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	20.2		17.9		31.0				埋藏法
414	26	8	黒色土	viA	埋藏土層	No.130	西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	16.8-18.1	17.8	8.8-10		24.5	1.29			埋藏法
415	26	8	黒色土	viA	埋藏土層	No.1068 110.114 111.116	西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	30.2	27.6	8.5	26.4	23.2	0.64			埋藏法
416	26	8	黒色土	viA	埋藏土層	No.116 108.123	西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	19.0	19.8	5.8	16.4	13.5	2.44	0.7		埋藏法
417	26	8	黒色土	viA	埋藏土層	No.880	西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	31-33	12.8	9.2-11		16.1	0.74	1.0		埋藏法
418	26	5	黒色土	viA	埋藏土層	No.330	西	1.979/2.2-2.3黄褐色	粗製	良好	8.8	9.4			17.2	1.1		埋藏法	
419	26	7	黒色土	viA	埋藏土層	No.174	西	2.316/2.2黄褐色	粗製	良好					6.5	11.2	1.1		埋藏法
420	26	13	黒色土	viA	埋藏土層	No.316	高体	1.979/2.1灰白色	粗製	良好					18.4	11.0	1.2		埋藏法

*重量除有



第56図 viii1C層出土土器 (取り上げ層: 灰色埴土Ⅲ2層) (S=1/4)



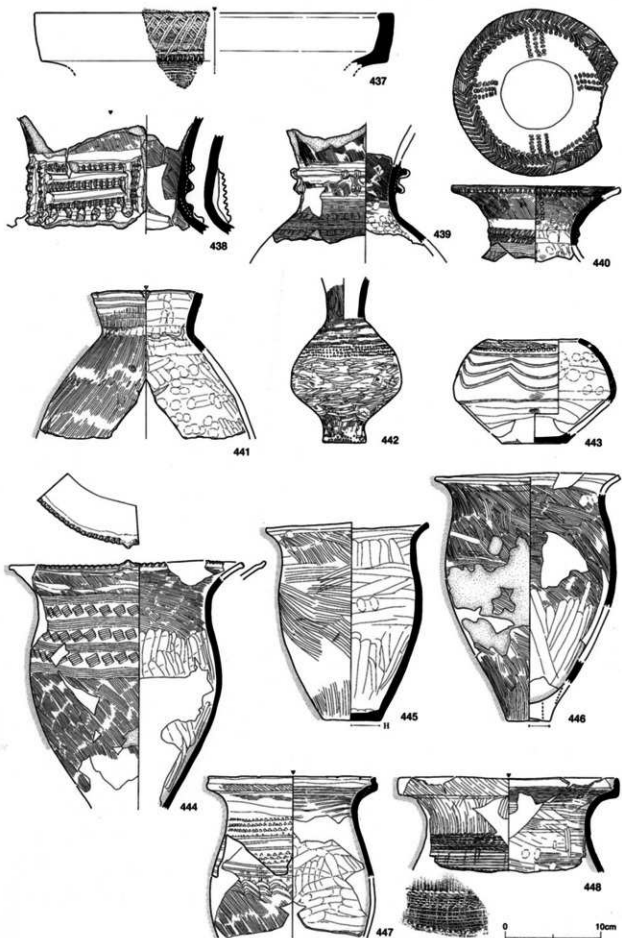
第57図 VII2C層出土土器 (取り上げ層: 灰色埴土Ⅲ層) (S=1/4)

VII1C層出土土器 (421~429)

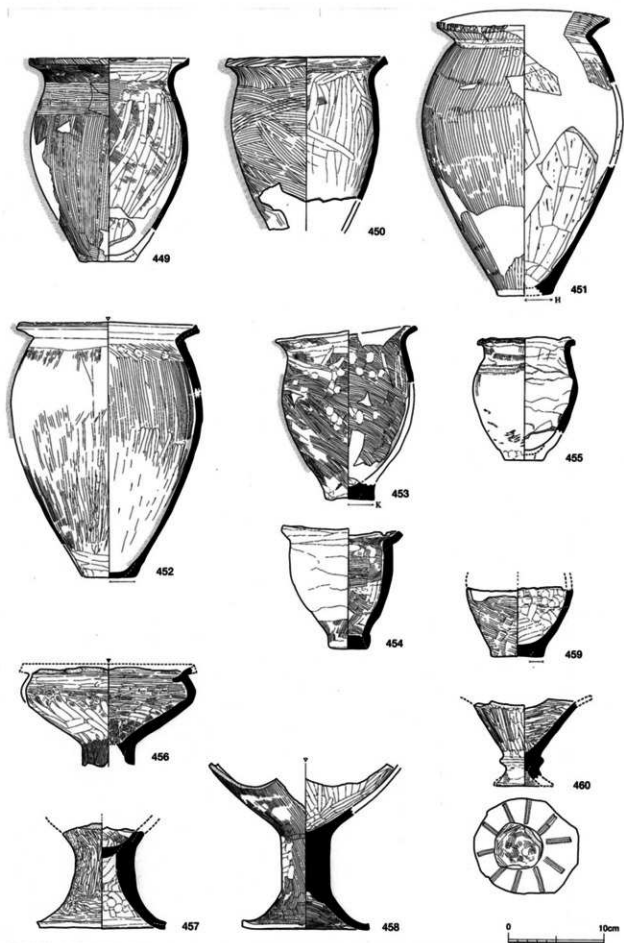
図番	層	形状	土質	色	高さ	口径	底径	体高	口径/体高	底径/体高	口径/口径	体高/口径	底径/口径	備考
421	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
422	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
423	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
424	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
425	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
426	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
427	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
428	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	
429	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	25.5	12.5	12.5	13.0	0.51	0.51	1.00	1.00	取上げ層	

VII2C層出土土器 (430~436)

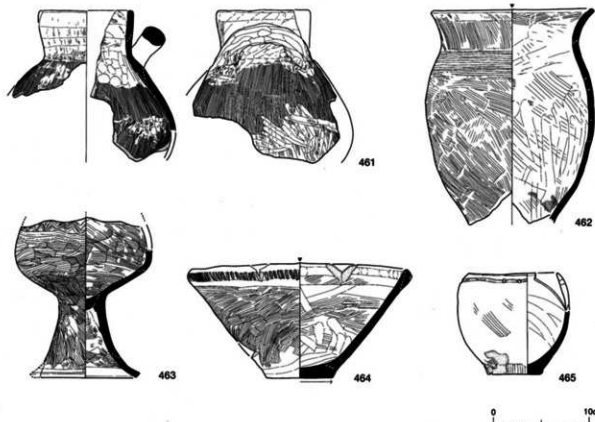
図番	層	形状	土質	色	高さ	口径	底径	体高	口径/体高	底径/体高	口径/口径	体高/口径	底径/口径	備考
430	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	45.0	25.0	25.0	45.0	0.56	0.56	1.00	1.00	取上げ層	
431	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	45.0	25.0	25.0	45.0	0.56	0.56	1.00	1.00	取上げ層	
432	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	45.0	25.0	25.0	45.0	0.56	0.56	1.00	1.00	取上げ層	
433	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	45.0	25.0	25.0	45.0	0.56	0.56	1.00	1.00	取上げ層	
434	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	45.0	25.0	25.0	45.0	0.56	0.56	1.00	1.00	取上げ層	
435	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	45.0	25.0	25.0	45.0	0.56	0.56	1.00	1.00	取上げ層	
436	149イン14層	丸底壺	ⅢC	赤褐色	45.0	25.0	25.0	45.0	0.56	0.56	1.00	1.00	取上げ層	



第58図 viC層出土土器（取り上げ層：灰色埴土Ⅱ層）1（S=1/4）



第59図 vC層出土土器（取り上げ層：灰色埴土Ⅱ層）2 (S=1/4)



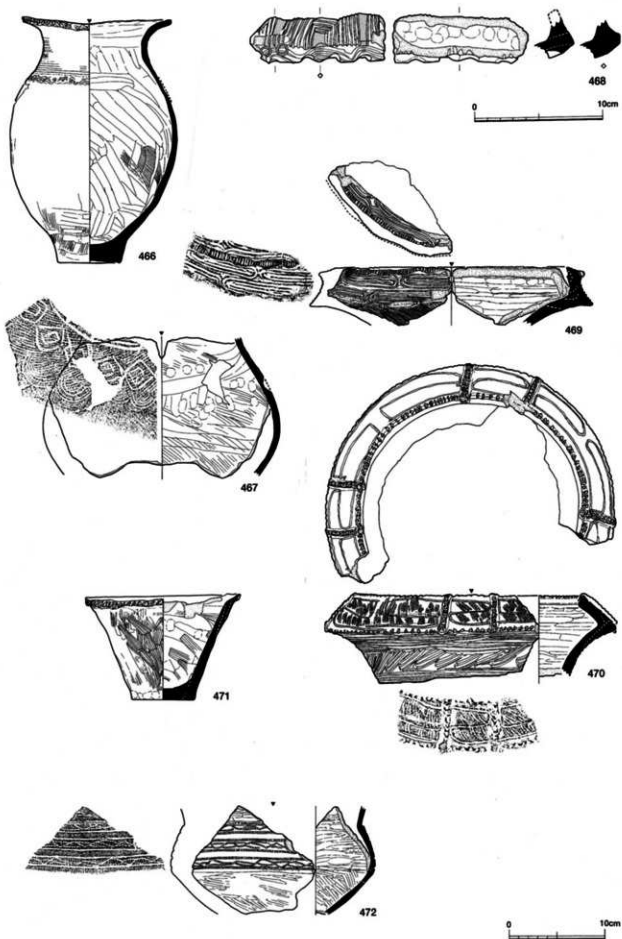
第60図 vC層出土土器 (取り上げ層: 灰色埴土I層) (S=1/4)

vC層出土土器 (437~460)

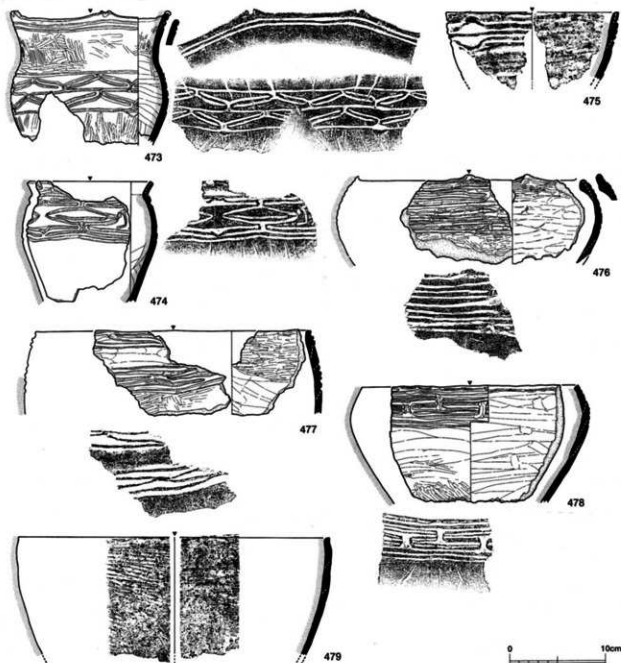
No.	図	CP	取り上げ層名	種別	用途名	取上げ層	形状	色相	胎土	口径	最大口径	底径	胴部時径	高さ	容量	取上げ時	取上げ場所	備考	
437	26	F-8	灰色埴土I層	vC	埴埴器	表	2SVR/2灰白色	褐色	良好	17.2								内蓋? 子取地	
438	26	F-11	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. C143	表	10V9B/3浅黄褐色	劣	良好		15.4						在地?	
439	26	F-8	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. C190	表	10V9B/3浅黄褐色	劣	良好			9.7					在地	
440	26	F-7	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 4722	表	10V9B/4浅黄褐色	劣	良好	17.2			9.0				在地	
441	26	F-7	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 4464	表	10V9B/3浅黄褐色	劣	良好	12.0			9.4				在地?	
442	26	F-11	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. A222	表	2SVR/2灰白色	褐色	良好		11.2	4.2	12.8				(17.6) (16.6) 1.9 在地	
443	26	F-8	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 3176	表	2SV9B/4浅黄褐色	劣 中程度	良好	9.5	16.8	6.2		10.7	1.38	0.5	内面磨面 磨入	
444	26	F-8	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 3478	表	10V9B/1~3灰白色	褐色	良好	24.2	19.6		17.7		25.3	5.321	在地	
445	26	F-14	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 5540	表	2SVR/2C/2灰白色	褐色	良好	14.2	14.7	5.8	13.9		20.2	2.12	0.7	内面磨面 在地
446	26	F-8	8中層 [灰色埴土I層]	vC	埴埴器	No. 705	表	2SVR/2灰白色	褐色	良好	18.1	17.6	[4.3]	19.8		25.2	3.58	1.4	灰埴法 磨入
447	26	F-7	8中層 [灰色埴土I層]	vC	埴埴器		表	10V9B/2浅黄褐色	劣	良好	17.3	[7.1]		12.4		16.6		磨入	
448	26	F-11	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 8390	表	10V9B/2浅黄褐色	劣 中程度	良好	[22.5]			[17.0]		[9.5]		磨入	
449	26	F-8	8中層 [灰色埴土I層]	vC	埴埴器	No. 7219B	表	10V9B/2浅黄褐色	劣	良好	16.7	16.2	5.4	12.9		21.0	2.52	0.7	灰埴法 在地?
450	26	F-8	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 2385	表	10V9B/4浅黄褐色	褐色	良好	18.0	15.2		14.0		22.0	2.301		在地
451	26	F-10	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 1123	表	10V9B/2C/2灰白色	劣	良好	18.0	20.9	5.7	14.2		25.2	3.32	0.8	灰埴法 在地?
452	26	F-11	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. C490	表	10V9B/3C/2灰白色	劣	良好	18.0	19.4	5.4	15.2		26.3	3.28	0.4	灰埴法 磨入?
453	26	F-7	8中層	vC	埴埴器		表	2SVR/4浅黄褐色	褐色	良好	14.1~14.2	13.6	A3~4H/2.2	12.9	1.30	1.2			
454	26	F-9	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 3378	表	10V9B/4C/2灰白色 内 2SV2/2灰白色	劣	良好	12.2	10.5	4.2	10.5		12.5	0.46	1.3	内面磨面 内面は磨面したまま 取上げられた。
455	26	F-11	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 3528	表	10V9B/4C/2灰白色	劣	良好	10.0	10.6	3.9	9.9		12.6	0.61	1.7	内面磨面
456	26	F-11	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. C2380	表	2SVR/2灰白色	劣	良好	17.8		16.2						在地?
457	26	F-14	7中層	vC	埴埴器		表	2SVR/2灰白色	褐色	良好				12.8	10.3	7.0		灰埴法 在地	
458	26	F-12	8~9層	vC	埴埴器		表	2SVR/2灰白色	褐色	良好				13.0	17.0				内面は磨面した 灰埴法 5.6 在地
459	26	F-13	10中層	vC/C	埴埴器		表	2SV2/4浅黄褐色	劣	良好	(10.8)	5.4				7.1	1.1		灰埴法
460	26	F-17	11~3-17-2層	vC/C	埴埴器		表	2SV2/2灰白色	劣	良好	19.2					16.0	18.71	1.2	灰埴法 磨入 3.3

vC層出土土器 (461~465)

No.	図	CP	取り上げ層名	種別	用途名	取上げ層	形状	色相	胎土	口径	最大口径	底径	胴部時径	高さ	容量	取上げ時	取上げ場所	備考	
461	26	F-11	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 5661	表	10V9B/3浅黄褐色	劣	良好	9.3	[18.4]		6.9		15.5			取り上げ時 内面は磨面した 在地?
462	26	F-10	灰色埴土I層	vC	埴埴器	No. 340	表	2SVR/4浅黄褐色	劣	良好	14.4	17.4		14.2		22.2	3.641		在地
463	26	F-10	8~9層	vC	埴埴器		表	2SVR/2灰白色	劣	良好	(4.0)					10.5	(6.4)	1.1	灰埴法
464	26	F-9	7中層(3中)	vC	埴埴器		表	10V9B/2浅黄褐色	褐色	良好	[23.1]					12.0	1.18	1.9	内面磨面
465	26	F-9	7中層(3中)	vC	埴埴器		表	10V9B/2浅黄褐色	褐色	良好	10.3	11.6	5.1			10.5	0.68		内面磨面



第61図 xS層出土土器（取り上げ層：8-2下，47層）1（468：S=1/3，その他S=1/4）

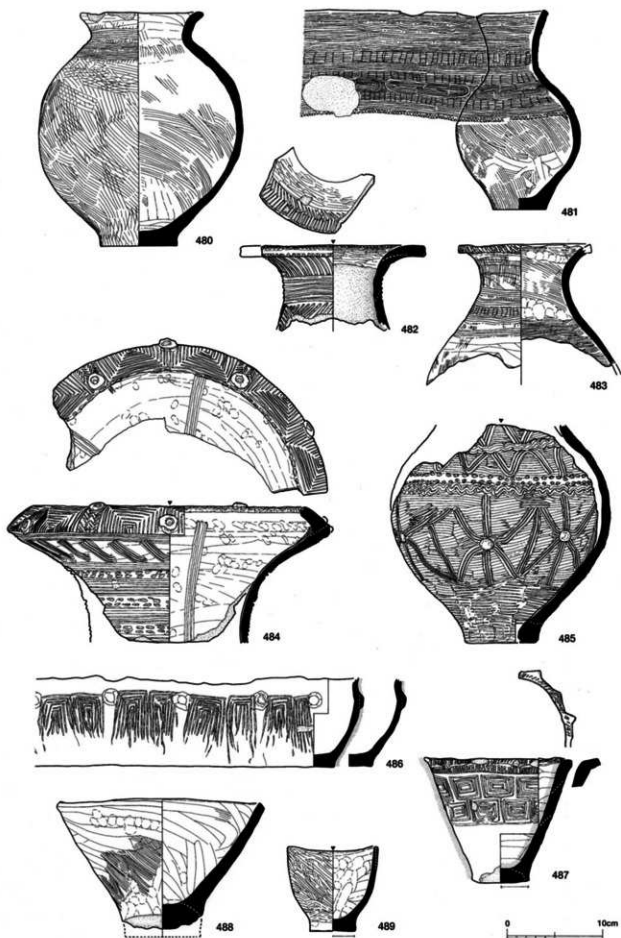


第62図 xS層出土土器 (取り上げ層: 8-2下, 47層) 2 (S=1/4)

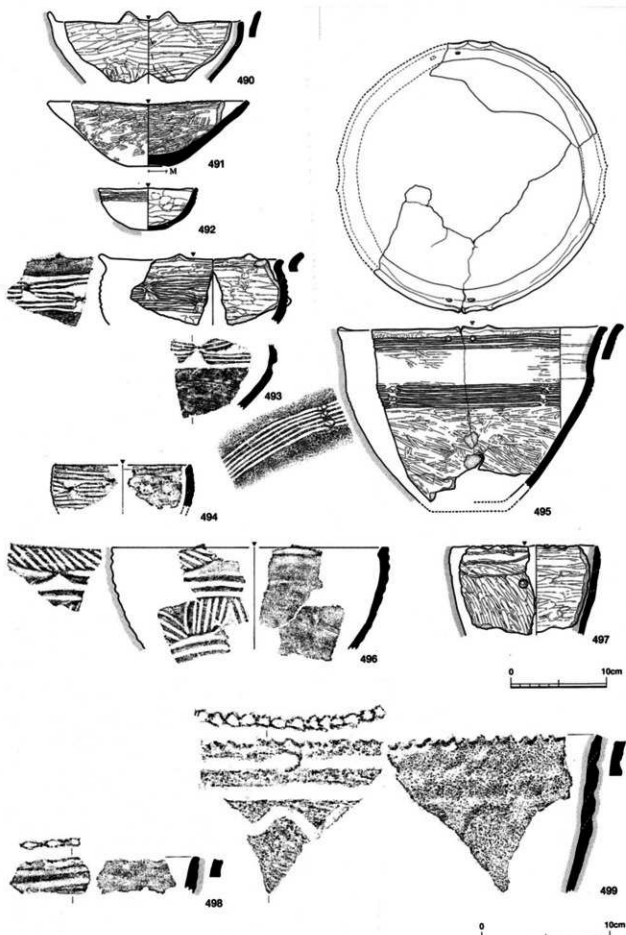
xS層出土土器 (466~479)

層	区	Gr	取り上げ層名	層名	土器名	取り上げ層	形状	色	出土	高さ	口径	最大口径	底径	厚さ	底の厚さ	底の傾斜	備考	
466	28	C-11	47層	xS	埴輪流注	No.D342	細	10YR8/2灰白色	輪	15.2	11.2	6.7	11.2	25.9	3.69	1.8	内唇裏面注	在池
467	28	C-10	8-2	xS	埴輪流注	No.D387	細	10YR8/2灰白色	輪	24.4				14.3				在池
468	28	F-12	8-2	xS	埴輪流注		細	2.5Y7/1灰白色	輪									在池
469	28	O-11	47層	xS	埴輪流注	No.A755	細	10YR5/1暗灰色	輪	27.5				6.0				在池
470	28	O-11	47層	xS	埴輪流注	No.D388	細	10YR7/2C-6C1黄褐色	輪	33.5				9.3				購入
471	28	肩部トレンプ	47層	xS	埴輪流注		細	10YR8/2灰白色	輪	33.9				10.6	0.65	1.1	穴通注	在池
472	28	C-11	47層	xS	埴輪流注	No.D489	細	2.5Y8/1灰白色	輪		21.2							購入
473	28	C-12	8-2, 47層	xS	埴輪流注		細	2.5Y7/3黄褐色	輪	15.9	16.1			14.0				在池
474	28	O-11	47層	xS	埴輪流注	No.D389	細	10YR3/1黒褐色	輪	12.3	13.7			11.8				在池
475	28	C-10	47層	xS	埴輪流注		細	10YR8/3黄褐色	輪	17.0				7.1				在池?
476	28	O-11	47層	xS	埴輪流注		細	2.5Y8/2灰白色	輪	24.0	27.6			9.2				在池
477	28	C-11	47層	xS	埴輪流注		細	2.5Y7/7~7.5黄褐色	輪	28.0	29.7			8.4				在池
478	28	O-10	47層	xS	埴輪流注		細	10YR8/2灰黄褐色	輪	22.5	24.9			12.0				在池
479	28	C-11	47層	xS	埴輪流注	No.D484	細	10YR7/2C-6C1黄褐色	輪	31.0				12.0				在池

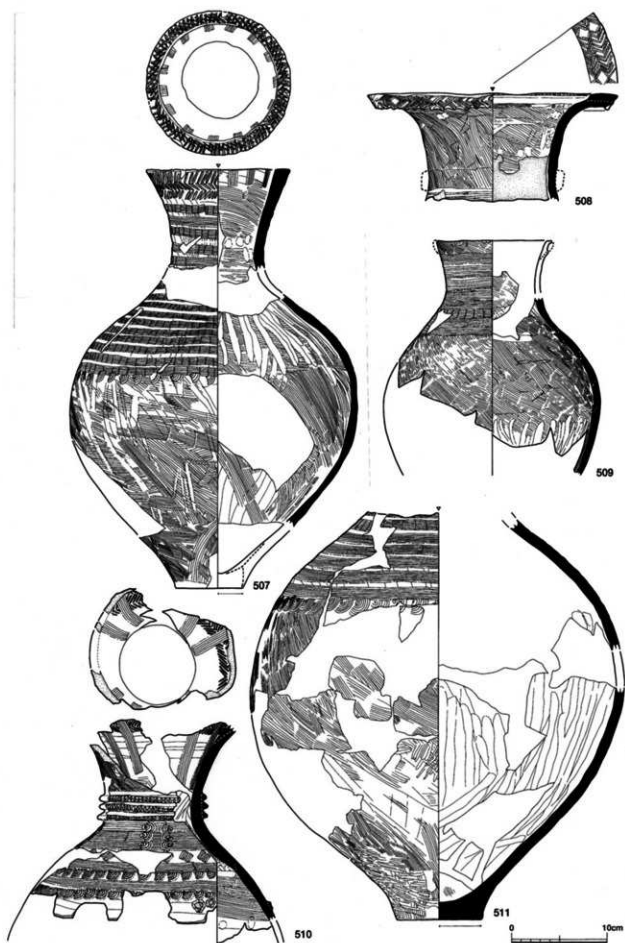
*シャーロット・海綿質対含有



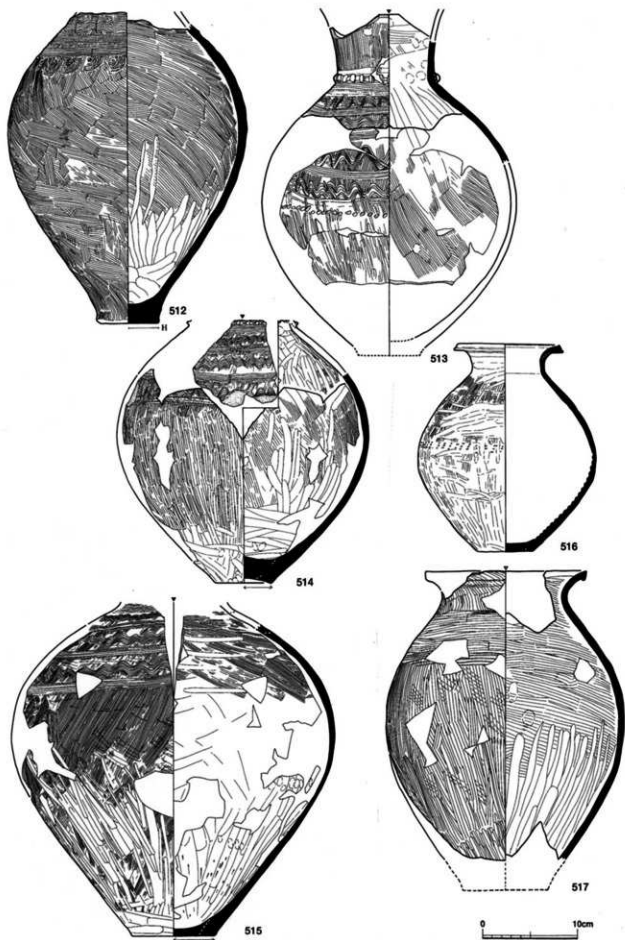
第63図 xS層出土土器 (取り上げ層: 95年度 下層) 1 (S=1/4)



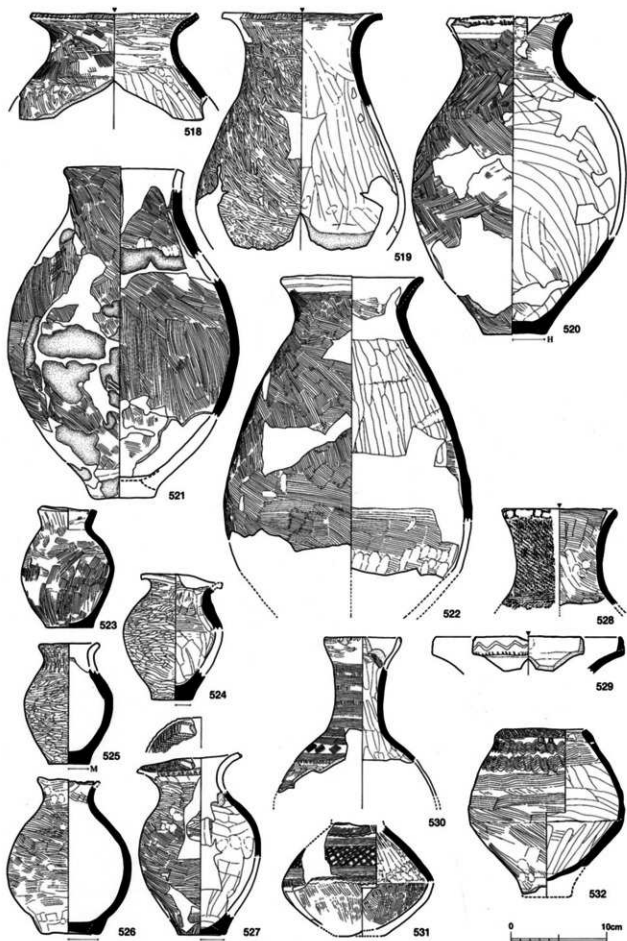
第64図 xS層出土土器(取り上げ層:95年度 下層) 2 (490~497: S=1/4, 498-499: S=1/3)



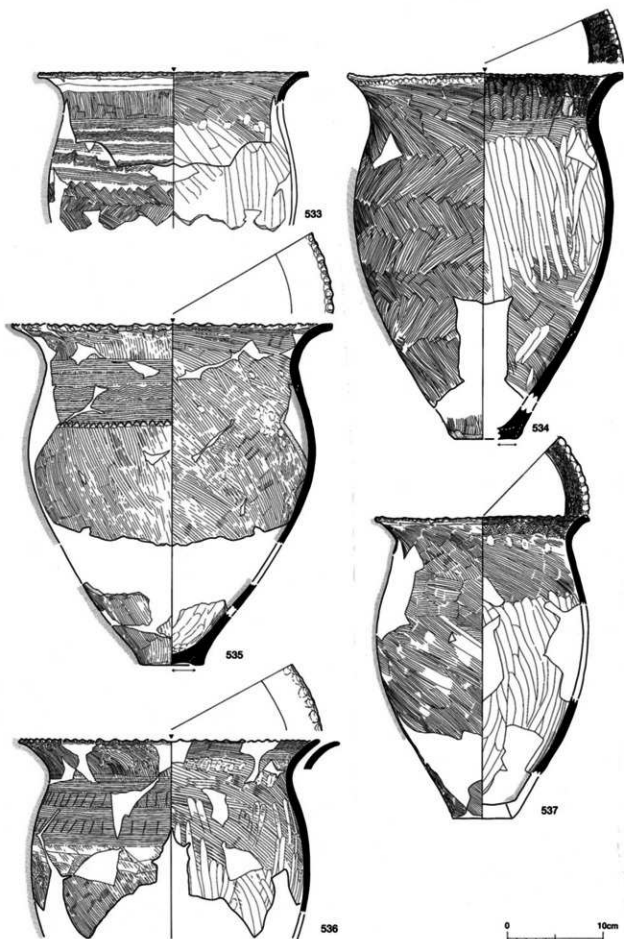
第66図 vC~ix層出土土器 (取り上げ層: 95年度 中層) 1 (S=1/4)



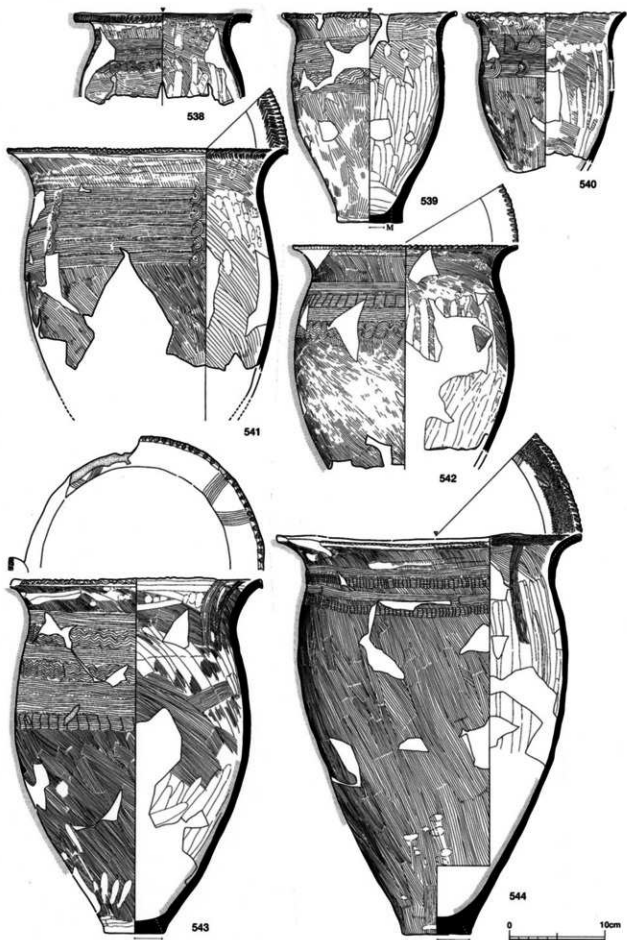
第67図 vC~ix層出土土器 (取り上層: 95年度 中層) 2 (S=1/4)



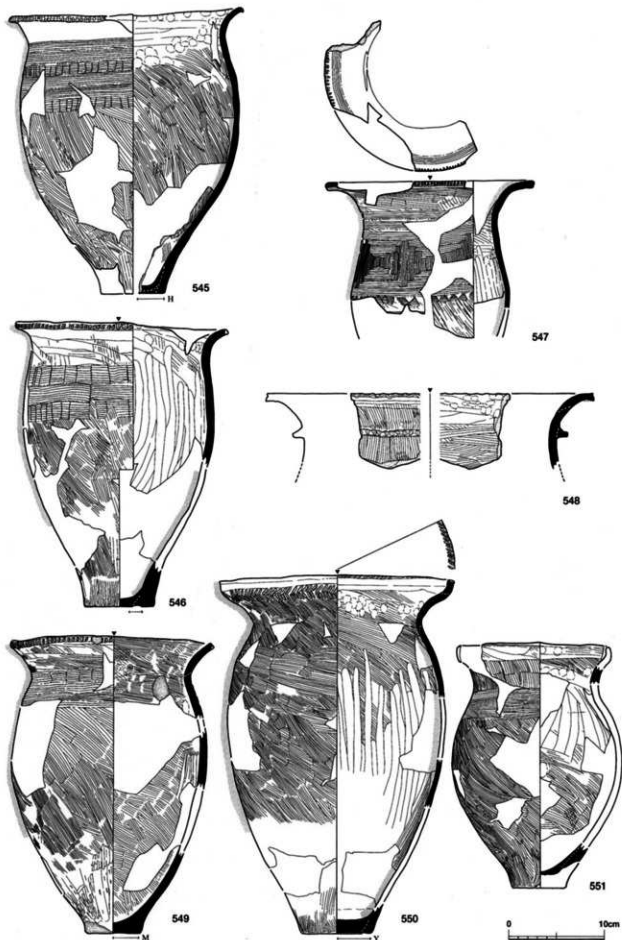
第68図 vC~ix層出土土器 (取り上げ層: 95年度 中層) 3 (S=1/4)



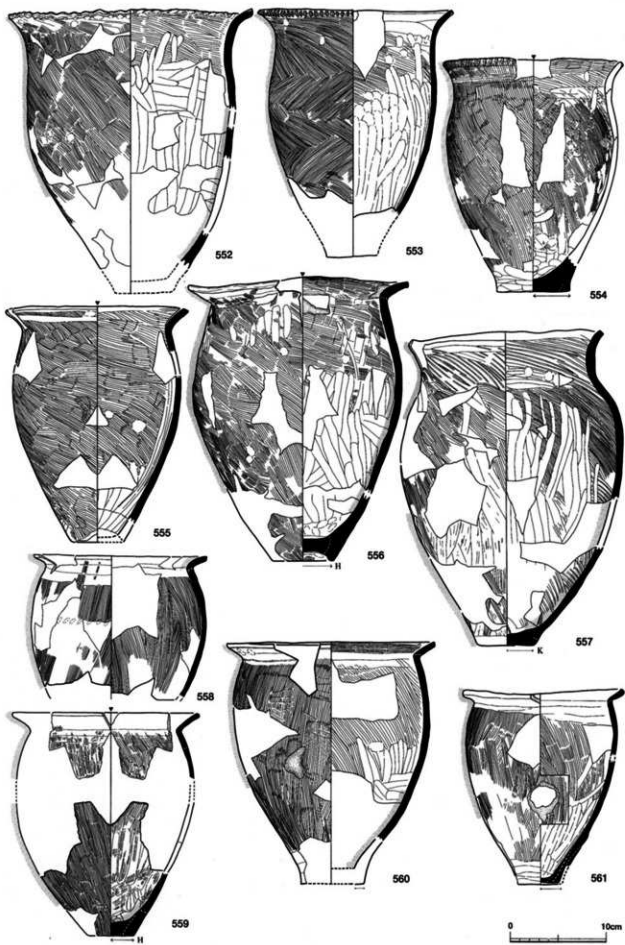
第69図 vC~ix層出土土器（取り上げ層：95年度 中層）4 (S=1/4)



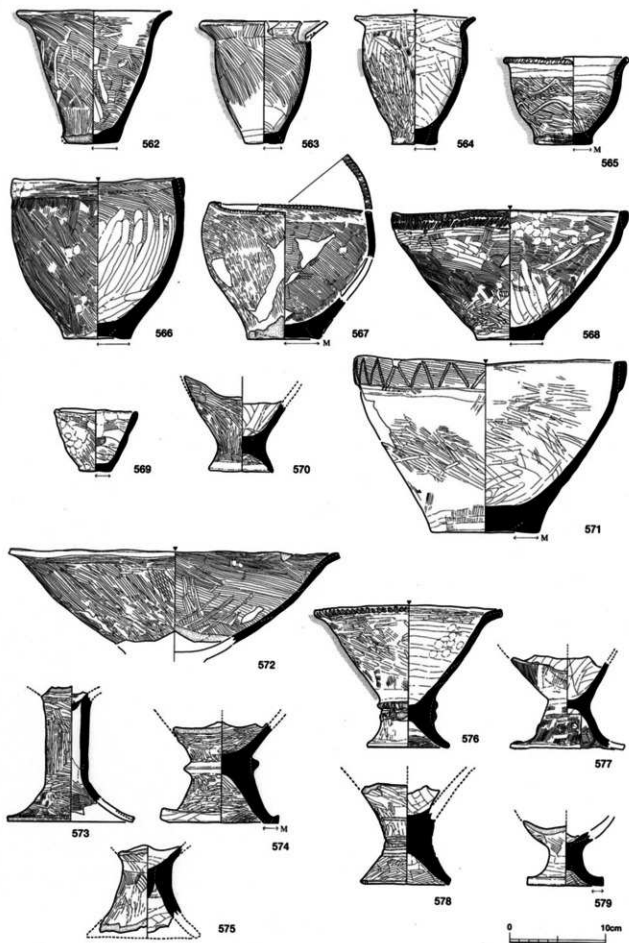
第70図 vC~ix層出土土器 (取り上げ層：95年度 中層) 5 (S=1/4)



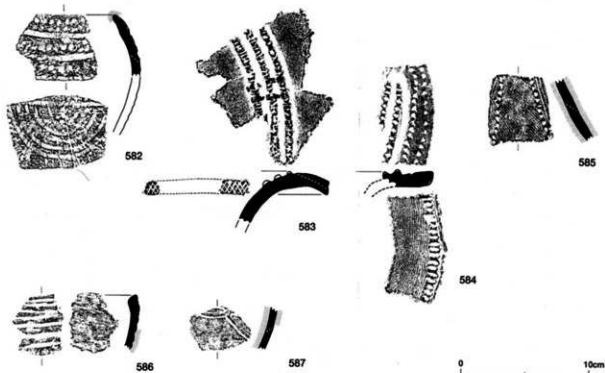
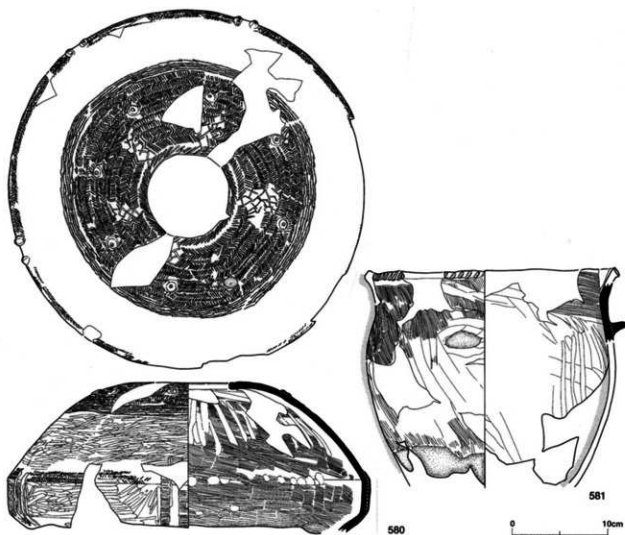
第71図 vC~ix層出土土器（取り上げ層：95年度 中層）6 (S=1/4)



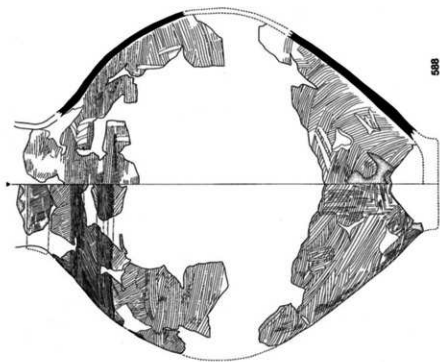
第72図 vC~ix層出土土器（取り上げ層：95年度 中層）7 (S=1/4)



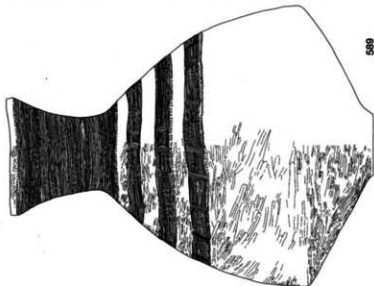
第73図 vC~ix層出土土器（取り上げ層：95年度 中層）8 (S=1/4)



第74図 vC~ix層出土土器 (取り上げ層: 95年度 中層) 9 (580・581: S=1/4, 582~587: S=1/3)



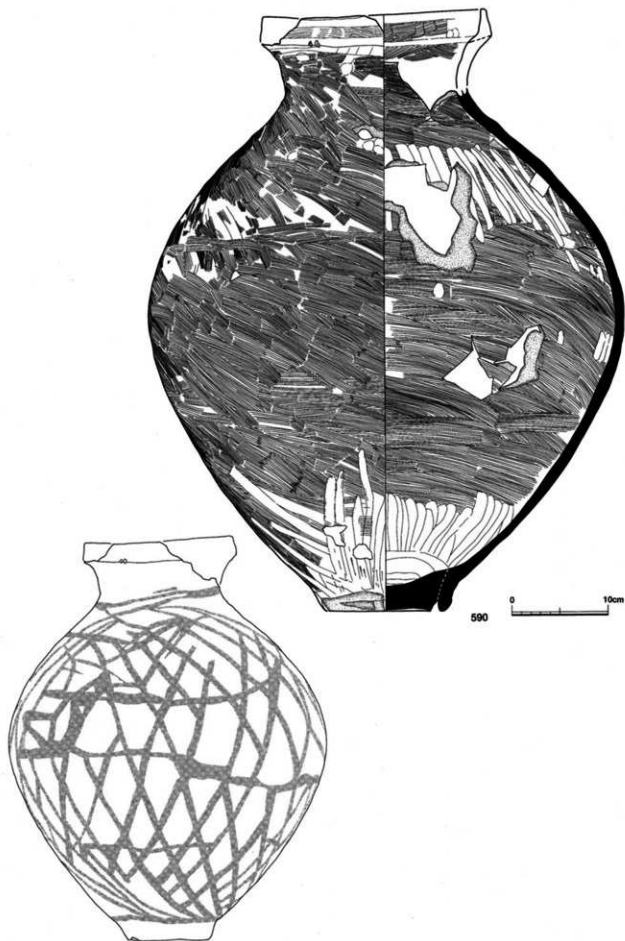
598



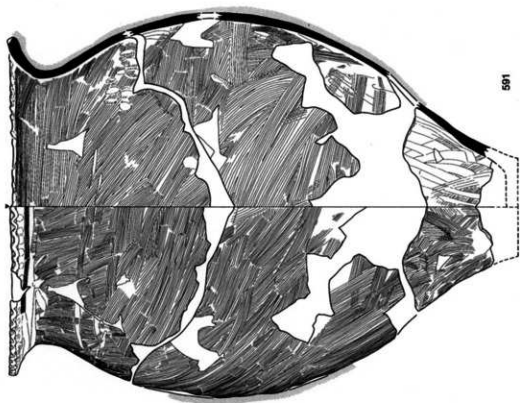
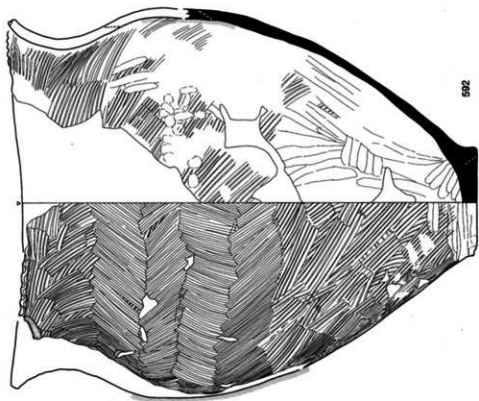
599



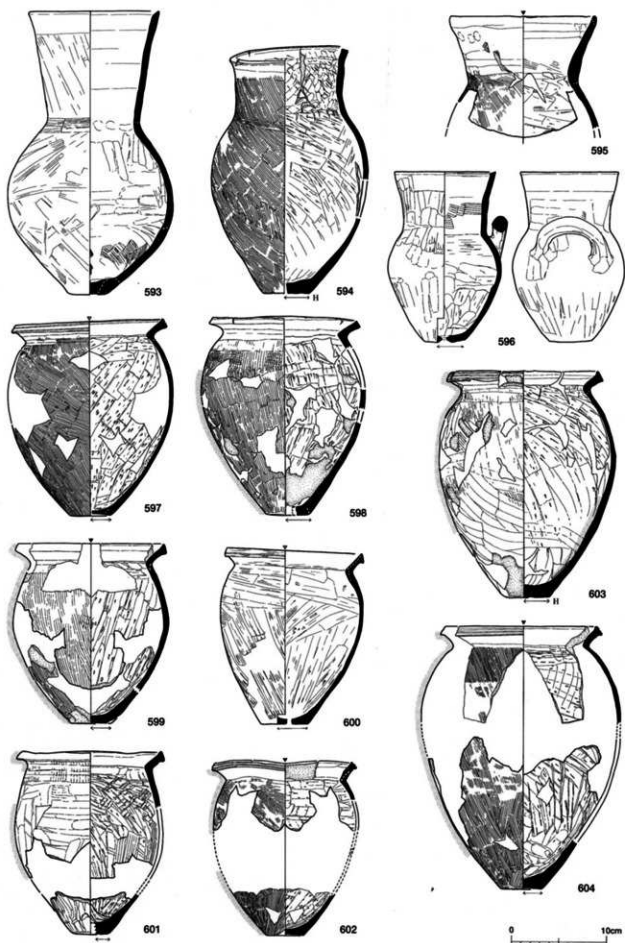
第75図 VC~IX層出土器 (取り上げ層: 95年度 中層) 10 (S=1/6)



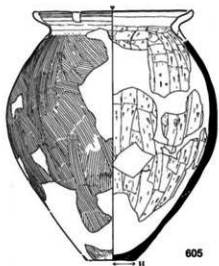
第76図 vC~ix層出土土器(取り上げ層:95年度 中層) 11 (S=1/4)



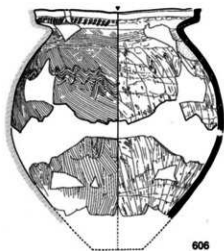
第77図 vC~ix層出土土器 (取り上げ層: 95年度 中層) 12 (S=1/4)



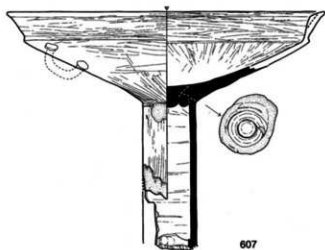
第78図 iv層出土土器（取り上げ層：5層黒褐色土層）1（S=1/4）



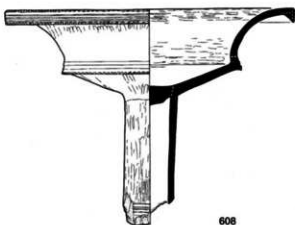
605



606



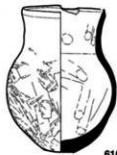
607



608



609



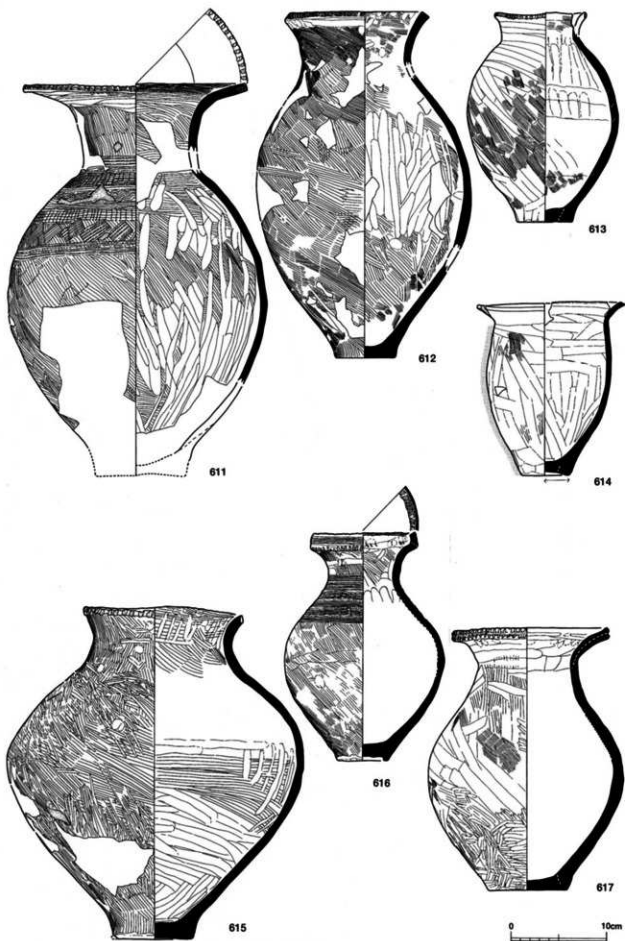
610



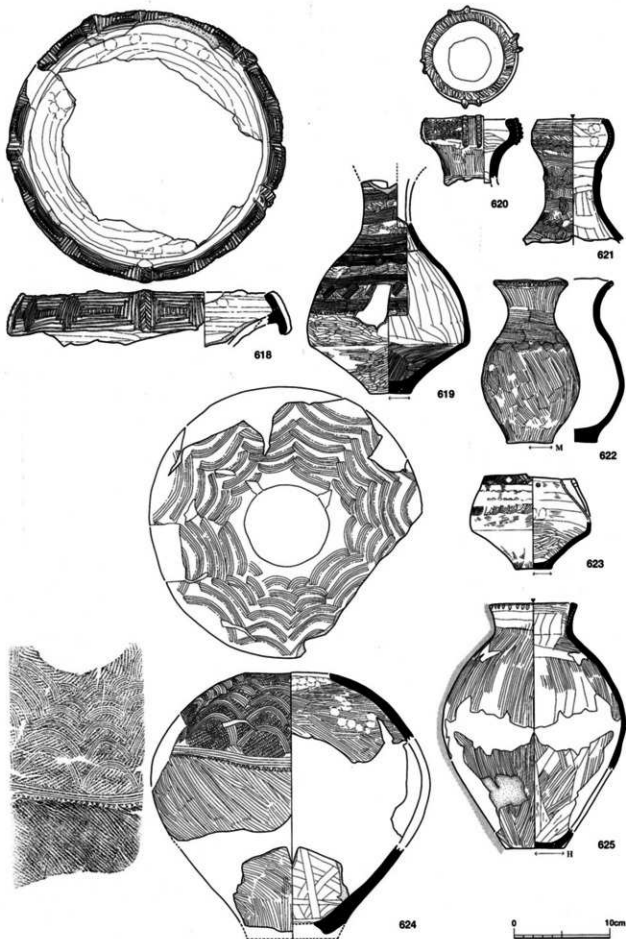
第79図 iv層出土土器(取り上げ層:5層黒褐色埴土層)2 (S=1/4)

iv層出土土器 (593~610)

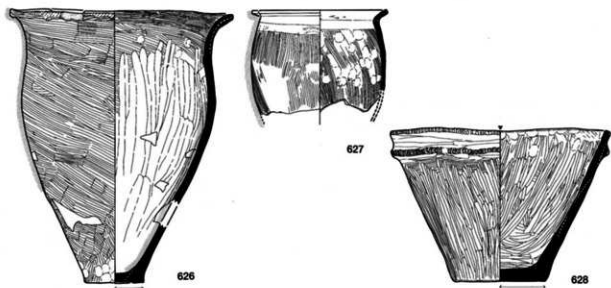
No.	図	器名	形状	土質	口径	高さ	底径	底厚	重量	出土層	出土位置	備考		
593	23-14	iv	横線黒塗	No.73	黒	10V72/21	11.0	4.1	15	10.7	10.0	底面の厚みあり		
594	23-14	iv	横線黒塗	No.A567	黒	10V72/21	11.0	4.8	15	25.5	19.77	11	底面の厚みあり	
595	28-14	iv	横線黒塗		黒	10V70/1-2/2	15.0			11.31	12.75		底面	
596	28-14	iv	横線黒塗	No.A576	黒	10V71/1-10V70/1	10.5	11.9	4.5	8.8	12.4	10.0	0.5	底面の厚みあり
597	28-14	iv	横線黒塗	No.80	黒	2SV71-2/2	15.0	18.0	4.1	13.2	20.25	22.82	0.25	底面
598	28-14	iv	横線黒塗	No.79	黒	2SV72/2	14.8	16.8	4.8	12.8	20.1	22.1	0.9	底面
599	28-14	iv	横線黒塗	No.80	黒	10V70/2	14.3	15.8	4.0		18.51	21.07		底面
600	28-14	iv	横線黒塗	No.79	黒	2SV72/2	14.0	11.1	4.1-5.0	13.7	18.0	20.5		底面
601	28-14	iv	横線黒塗	No.79	黒	10V70/2	14.7	15.1	4.0	13.8	18.7	22.0	1.1	底面
602	28-14	iv	横線黒塗	No.80	黒	10V70/2	14.2	15.0	4.0	12.4	18.0	22.0	0.5	底面
603	28-14	iv	横線黒塗	No.79	黒	10V70/2	15.2	18.2	4.2	13.3	23.35	18.4	1.1	底面
604	28-14	iv	横線黒塗	No.79	黒	10V70/2	15.7	20.7	4.2	14.4	26.7	15.43	1.0	底面
605	28-14	iv	横線黒塗	No.77	黒	2SV72/2	14.3	17.1	5.0	15.3	25.4	15.95	0.4	底面
606	28-14	iv	横線黒塗	No.83	黒	10V70/2	17.2	22.2		13.8	24.7	15.31		底面
607	28-14	iv	横線黒塗	No.A572	黒	2SV72/2	19.4				24.7	12.02		底面
608	28-14	iv	横線黒塗	No.53	黒	10V70/2	20.9				22.2	1.94		底面
609	28-14	iv	横線黒塗	No.75	黒	10V70/2	24.7				11.9	18.1	0.6	底面
610	28-10	iv	横線黒塗		黒	10V70/2	14.0	11.3	3.0	8.0	15.0	10.72		底面



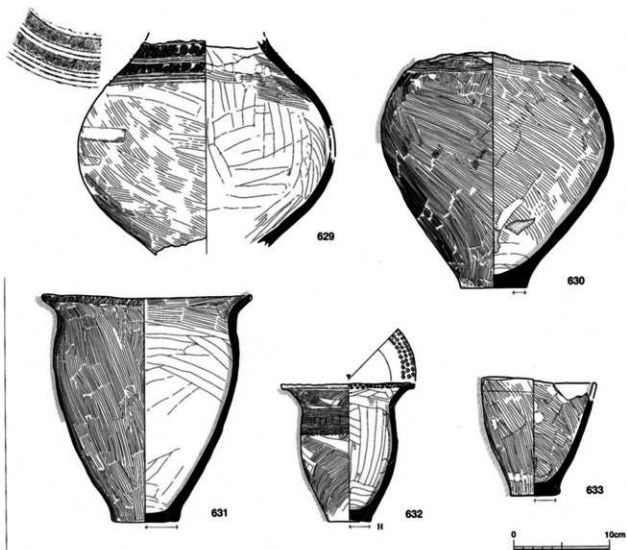
第80图 12·13地区出土土器 1 (S=1/4)



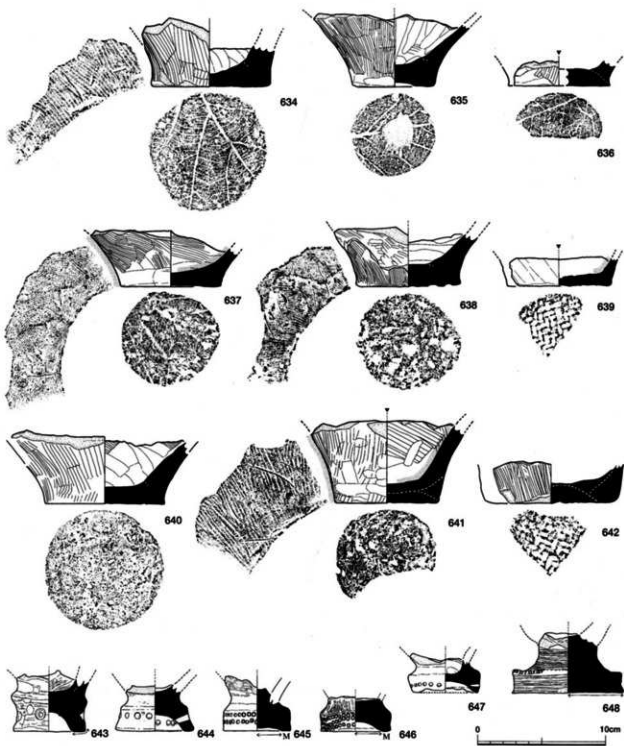
第81图 12·13地区出土土器 2 (S=1/4)



第82图 13地区出土土器 (S=1/4)



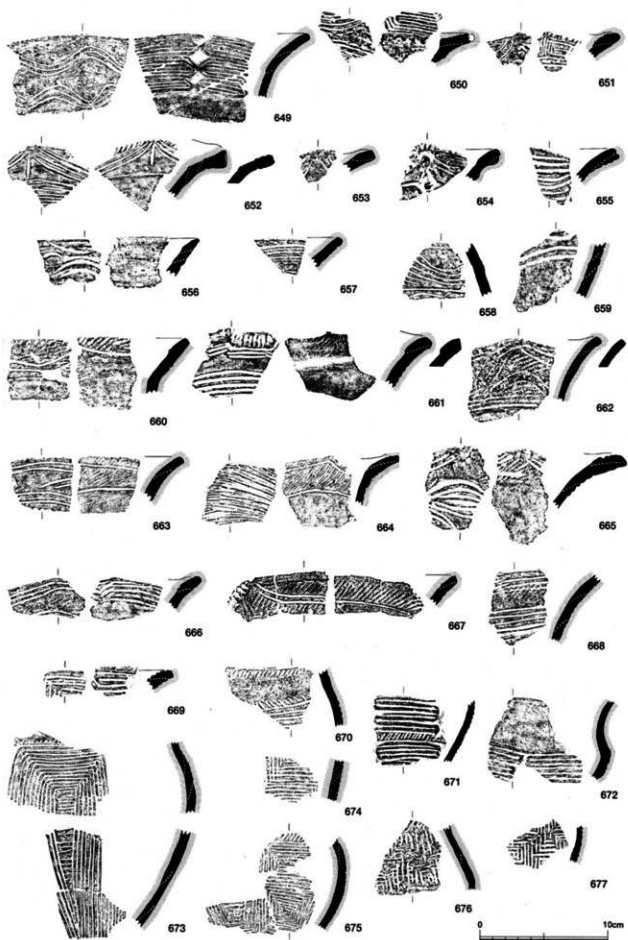
第83图 27地区出土土器 (S=1/4)



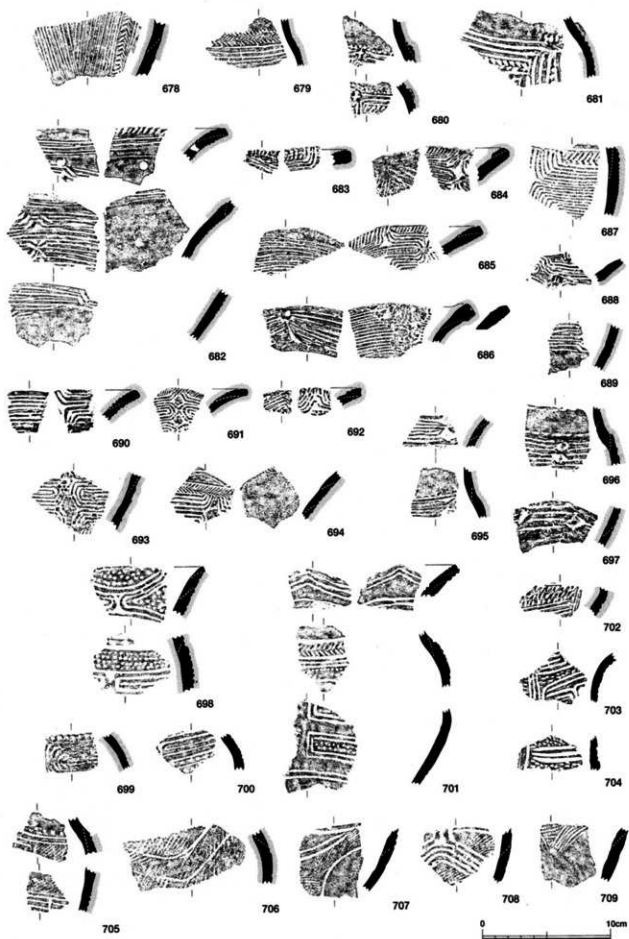
第84図 底部及び脚部 (S=1/3)

底部及び脚部 (634~648)

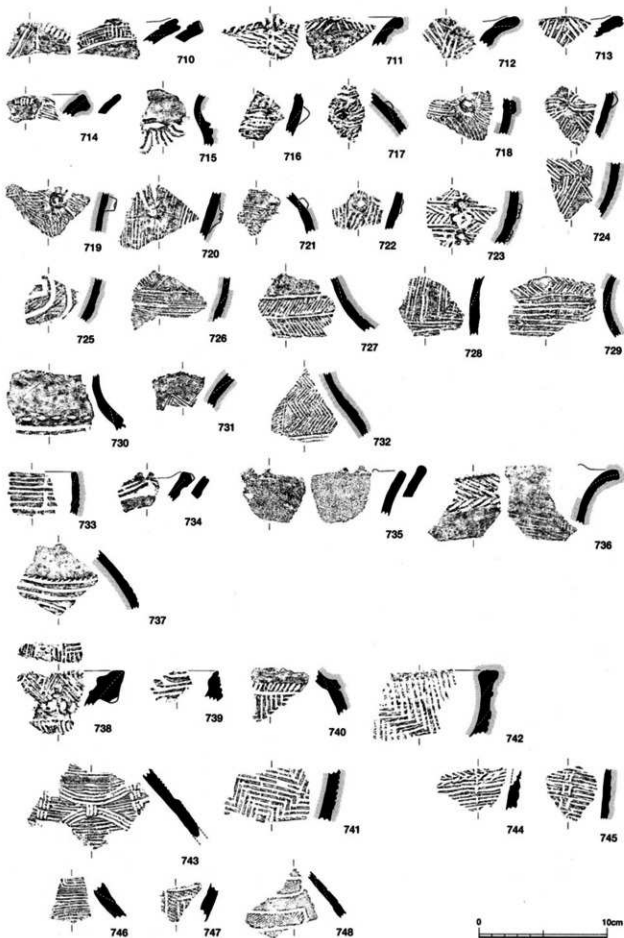
図号	品名	出土位置	出土層	出土年	出土地	品名	出土位置	出土層	出土年	出土地	品名	出土位置	出土層	出土年	出土地	品名	出土位置	出土層	出土年	出土地
634	23-2	23	III	1938.8.10	No.8482	10Y98.23-2	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
635	23-4	23	III	1938.8.10	No.8503	10Y98.23-4	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
636	23-5	23	III	1938.8.10	No.2981	10Y98.23-5	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
637	23-2	23	III	1938.8.10	No.8492	10Y98.23-2	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
638	23-3	23	III	1938.8.10	No.8510	10Y98.23-3	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
639	23-2	23	III	1938.8.10	No.8510	10Y98.23-2	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
640	23-4	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-4	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
641	23-7	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-7	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
642	23-5	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-5	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
643	23-10	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-10	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
644	23-10	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-10	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
645	23-10	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-10	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
646	23-10	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-10	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
647	23-10	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-10	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
648	23-10	23	III	1938.8.10	No.8740	10Y98.23-10	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底



第85図 その他の沈線文系・条痕文系土器 I (S=1/3)



第86図 その他の沈線文系・条痕文系土器 2 (S=1/3)



第87図 その他の沈線文系・条痕文系土器 3 (S=1/3)

第Ⅱ章 その他の土器・土製品

凡例

1. 本章の報告は原則として埋積浅谷出土の報告であるが、遺構資料で特筆すべき遺物等に関しては掲載する。
2. すべて肉眼観察で行い、観察の結果は層毎で観察表に明記する。

(1) 観察事項と記載方法

【番号】：遺物掲載番号を示す。

【地区、出土地点、層位】：調査区、グリッド、遺構名を明記し、図上で取上を行ったものに関しては、取り上げ番号を記載している。出土層位は統一層名を記載している。

【胎土・色調・焼成】弥生土器と同様である。

【法量】計測値はcm・g・ μ である。また、完存せず数値が計測できないもので、復元できる数値には〔 〕で、残存値に対しては（ ）で記載している。

【底部の種類】弥生土器と同様である。

第1節 土製加工円盤 (第88図～第93図)

土器を加工して円盤状にするものを一括し掲載した。これらは、側面を研磨するもの、打ち欠いただけのもの、孔が貫通するもの、しないものとさまざまである。これらを下記の分類に区分し観察表に記載した。

形態の分類

(形態素1)

I・・孔が貫通するもの。

II・・孔が未貫通のもの。 II 1 両側に穿った痕跡がみられるもの。

II 2 片側に穿った痕跡がみられるもの。

III・・孔がないもの。

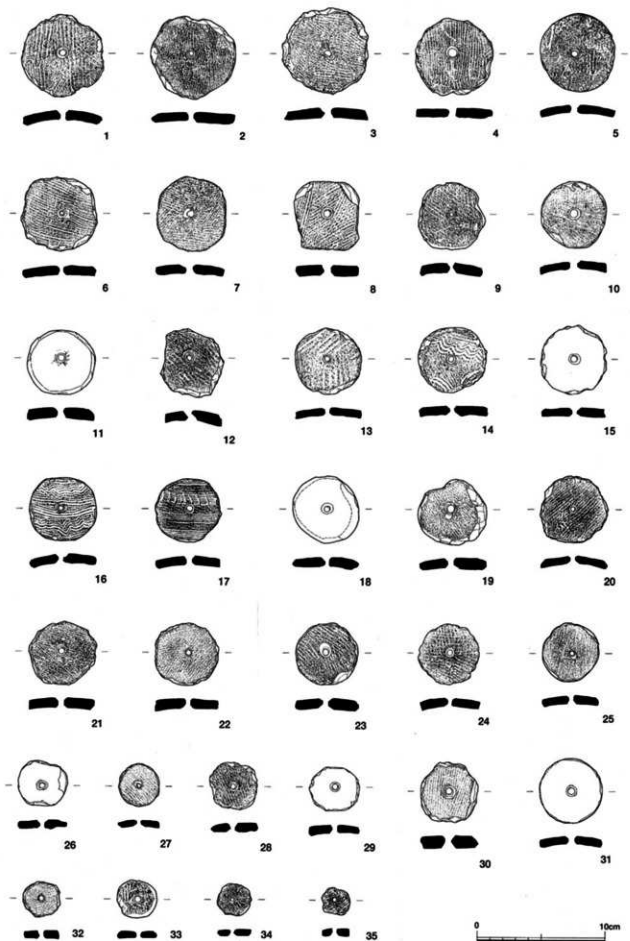
(形態素2)

a・・側面に研磨がみられるもの(基本的に円形とする)。

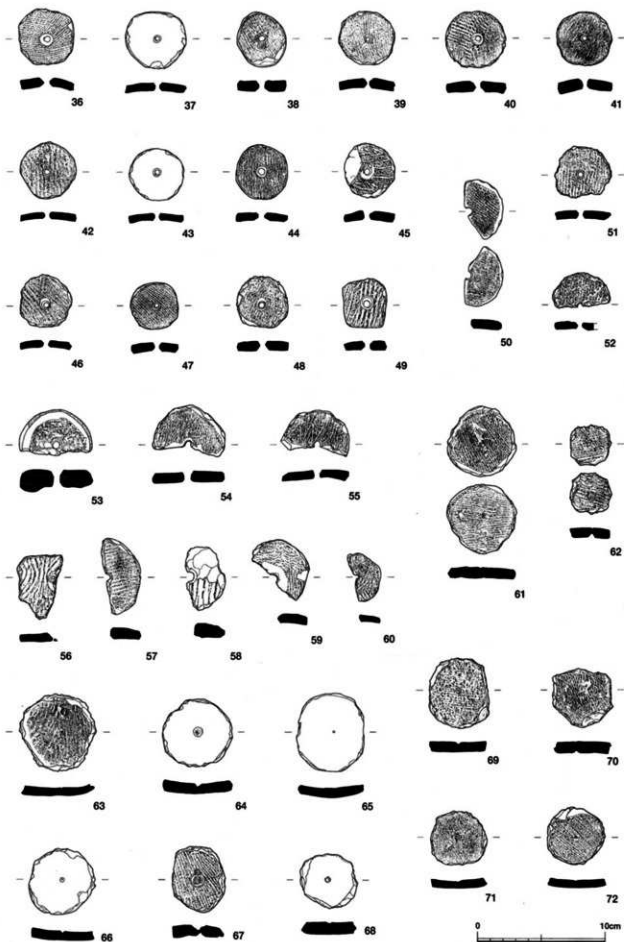
b・・側面に研磨がみられないもの。

c・・形が円形ではなく、四角を呈するもの。

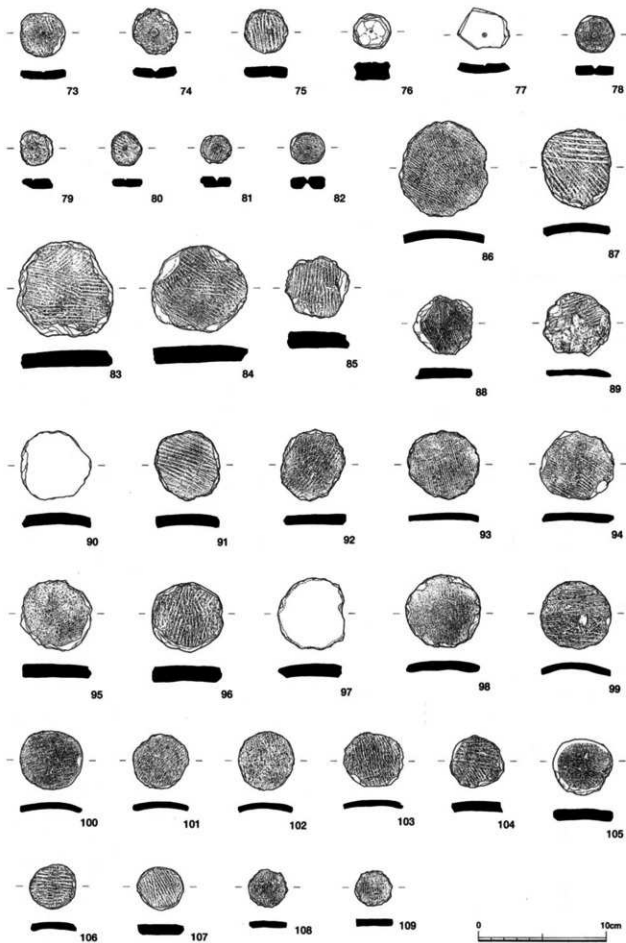
出土層位はx～xi層がもっとも古く、v層までみられる。時期に置き換えてみると6期から10期にかけて出土している。大きさは2cm程度のものから6cmを越えるものがあることや、重量は2g程度のものから、40gを越えるものと格差がみられる。また研磨されているものは、貫通しているものだけでなく、未貫通のものにもみえることや、貫通したものに研磨されていないものが半数以上あることから考えると、破片から打ち欠いてある程度の大きさにし、土器片が研磨される行為を二次的に行った後、三次的に孔をあけて別の用途として使われたと推測できる。



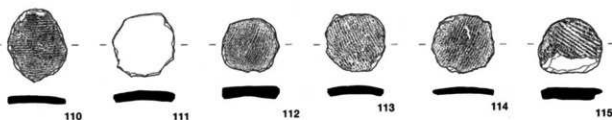
第88図 土製加工円盤1 (S=1/3)



第89圖 土製加工円盤 2 (S=1/3)



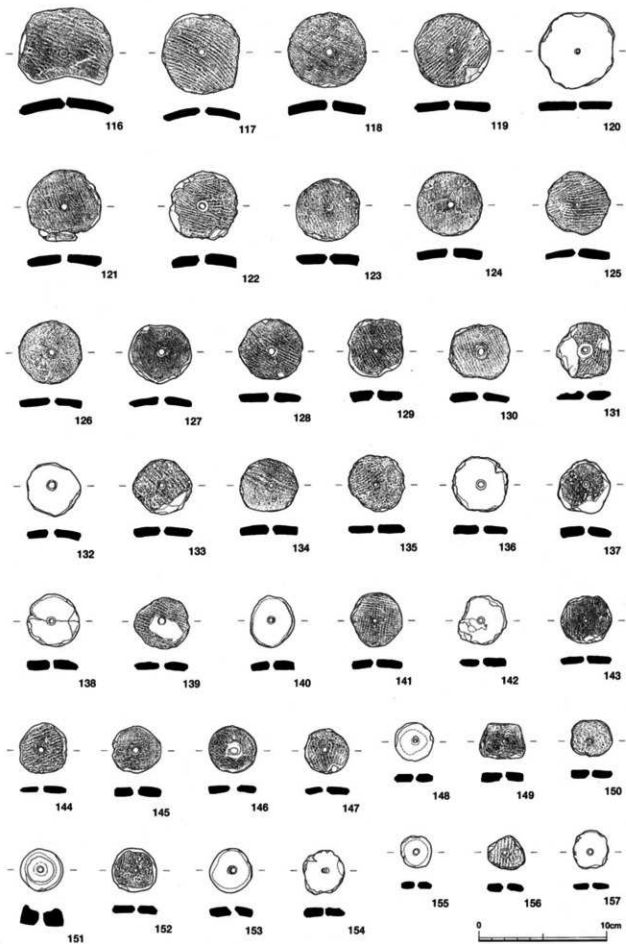
第90圖 土製加工円盤3 (S=1/3)



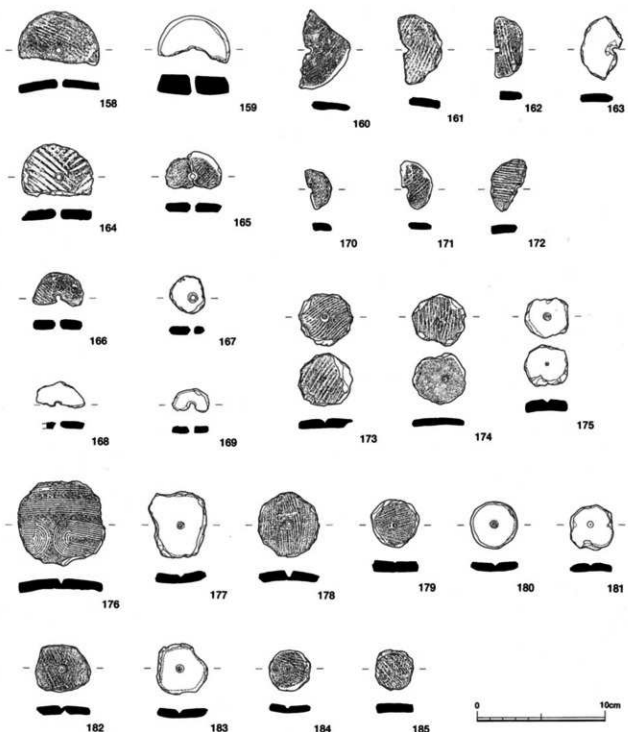
第91図 土製加工円盤4 (S=1/3)

土製加工円盤 (1~75)

No.	器名	器種	加工部	形状	加工方法	加工方向	加工回数	加工時間	加工速度	加工位置	加工内容	加工後径	加工後厚	加工後重	加工後寸法	加工後重量	加工後寸法	加工後重量
1	26-C-10-11B	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	1098B/2反白				6.5	6.0	0.7	0.8	40.00	0.4		
2	26-E-2	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	1098B/2反白				6.5	6.2	0.7	0.8	40.00	0.4		
3	26-B-C-10	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤 No.D112	1→b	内 5987/3に少し黄褐色 外 5986/1反白				6.6	6.6	0.6	0.8	40.42	0.45		
4	26-D-3	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/1反白				6.0	5.8	0.5	0.7	26.16	0.6		
5	26-C-12	vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白				5.9	5.7	0.5	0.6	21.30	0.5		
6	26-C-10	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤 No.D68	1→b	1098B/2反白				5.8	5.6	0.6	0.75	35.55	0.5		
7	27-F-11A	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白				5.7	5.5	0.4	0.6	18.90	0.5		
8	26-F-14	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→c	2598/2反白				5.9	4.9	0.75	0.8	26.42	0.5		
9	13-F-2	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白					5.1	4.9	0.5	0.6	25.22	0.5		
10	13-G-3	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/1反白					5.1	5.0	0.4	0.7	22.90	0.6		
11	26-C-10-10	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/1反白				5.2	4.9	0.8	0.8	30.20	0.5		
12	26-D-9	v	修理後	円	土製加工円盤	1→b	内 1098B/3に少し黄褐色 (部分) 外 1098B/1反白				5.0	4.3	0.6	0.9	23.43	0.3		
13	26-C-4	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a (部分)	2598/2反白				5.2	5.1	0.5	0.6	18.227	0.3		
14	13-F-2	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白					6.0	5.2	0.5	0.7	22.21	0.4		
15	13-F-2	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白					5.2	4.2	0.4	0.6	18.90	0.5		
16	26-C-2	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/1反白				5.1	4.8	0.6	0.7	23.82	0.35		
17	26-C-10-1E	vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/1反白				5.0	4.9	0.6	0.7	21.73	0.5		
18	13-F-11	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/1反白					5.1	5.1	0.5	0.8	20.86	0.4		
19	13-F-2	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/1反白					5.3	4.9	0.6	0.8	24.74	0.5		
20	27-25-96	v	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				5.2	5.0	0.5	0.6	16.68	0.4		
21	26-C-10	vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2-7反白				5.0	4.8	0.6	0.8	19.4	0.4		
22	26-F-13	vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/1反白				4.8	4.7	0.6	0.8	21.38	0.4		
23	26-F-3	vi-vii	修理後	円	土製加工円盤 No.205	1→a	2598/1反白				4.8	4.6	0.6	0.7	21.45	0.4		
24	26-C-5	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.7	4.6	0.5	0.7	19.79	0.3		
25	26-E-4	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	内 1098B/2反白 外 1098B/2反白黄褐色				4.5	4.4	0.5	0.6	15.44	0.35		
26	26-F-15	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→c	2598/2反白				3.7	3.4	0.4	0.6	10.44	0.35		
27	26-F-2	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白				3.5	3.1	0.4	0.5	6.46	0.25		
28	26-F-4	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				3.8	3.5	0.3	0.7	9.95	0.35		
29	13-C-5	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→c	2598/2反白				4.5	4.4	0.2	0.7	11.18	0.3		
30	13-C-5	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→c	2598/2反白				4.5	4.4	0.2	0.9	23.41	0.5		
31	26-E-8	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	1098B/2反白				4.9	4.8	0.6	0.6	15.68	0.5		
32	26-D-10	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2-7反白				4.8	4.2	0.4	0.5	16.81	0.4		
33	26-F-1	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	1098B/2反白				4.8	4.2	0.4	0.5	16.81	0.4		
34	26-F-6	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	1098B/4-7反白黄褐色				2.6	2.4	0.3	0.5	1.86	0.3		
35	13-F-4	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	1098B/2反白				2.2	2.0	0.3	0.6	2.85	0.4		
36	26-G-3	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	1098B/2反白				4.5	4.1	0.4	0.7	16.83	0.4		
37	27-F-11A	vi-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白				4.7	4.4	0.5	0.6	16.33	0.3		
38	26-F-4	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	1098B/6-7反白				4.4	3.8	0.2	0.8	14.17	0.3		
39	26-G-5	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.5	4.0	0.6	0.8	17.16	0.4		
40	26-E-11	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/1反白				4.6	4.4	0.8	0.8	18.97	0.35		
41	26-E-11	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/1反白				4.3	4.1	0.2	0.85	17.90	0.3		
42	26-C-14	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.4	4.4	0.5	0.7	11.94	0.35		
43	26-B-4	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	598/1反白				4.3	4.0	0.4	0.5	10.60	0.35		
44	26-B-5	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a	(内部分) 2598/2反白				4.1	3.8	0.3	0.6	10.65	0.5		
45	13-F-4	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白				4.2	3.9	0.3	0.7	4.94	0.4		
46	27-25-95	v	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.0	3.9	0.5	0.7	10.96	0.4		
47	26-F-12	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	1098B/2反白				3.5	3.2	0.4	0.65	10.15	0.35		
48	26-F-12	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.0	3.8	0.4	0.6	10.54	0.4		
49	26-F-12	vi-ii	修理後	円	土製加工円盤	1→c	2598/2反白				3.7	3.2	0.5	0.7	11.36	0.5		
50	27-25-96	v	修理後	円	土製加工円盤	1→a	1098B/2反白				4.4	(2.4)	0.6	0.85	(11.73)	0.4		
51	26-E-2	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				3.8	(3.4)	(0.5)	(0.6)	(7.56)	0.4		
52	26-E-2	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.5	(4.1)	0.4	0.7	(12.53)	0.5		
53	13-F-9	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2反白				5.6	(2.5)	0.3	0.8	(26.11)	0.4		
54	13-F-9	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	1098B/2反白				5.1	(2.4)	0.5	0.6	(11.81)	0.4		
55	26-C-10-1A	vi-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	1098B/2に少し黄褐色				(3.5)	(2.7)	(0.5)	(0.7)	(12.53)	0.2		
56	13-G-5	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a (部分)	2598/1反白				(2.4)	(1.7)	0.4	0.5	(4.6)	0.3		
57	26-E-9	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				3.5	(2.4)	(1.1)	1.9	(11.66)	0.4		
58	26-C-3	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a (部分)	1098B/2に少し黄褐色				(2.2)	(2.2)	(0.4)	(0.7)	(11.96)	0.4		
59	26-C-3	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→a (部分)	1098B/2に少し黄褐色				(2.2)	(2.2)	(0.4)	(0.7)	(11.96)	0.4		
60	13-F-6	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				5.3	5.3	0.7	0.8	28.40	0.4			
61	13-F-6	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				5.9	5.1	0.4	0.65	16.66	0.4			
62	13-D-8	vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2-5反白黄褐色				5.4	5.1	0.3	0.9	29.83	0.3		
63	13-C-11	v-vii	修理後	円	土製加工円盤 No.285	1→b	2598/2反白				6.0	5.1	0.5	0.7	25.74	0.4		
64	26-D-9	v	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.9	4.4	0.5	0.7	19.25	0.3		
65	26-C-6	vi-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→c	2598/2反白				4.9	4.9	0.5	0.7	17.64	0.4		
66	26-C-3	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	1098B/2-7反白				4.3	4.1	0.8	0.9	21.48	0.4		
67	26-C-3	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.3	4.1	0.8	0.9	21.48	0.4		
68	26-E-2	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	1098B/3に少し黄褐色				4.5	4.2	0.8	0.8	22.05	0.4		
69	26-F-2	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.3	3.9	0.5	0.6	13.76	0.4		
70	26-F-2	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				4.3	3.9	0.5	0.6	13.76	0.4		
71	26-F-2	vi	修理後	円	土製加工円盤	1→a	2598/2-7反白				3.4	3.3	0.5	0.6	8.09	0.3		
72	26-G-7	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b	2598/2反白				3.4	3.3	0.6	0.7	8.30	0.3		
73	26-F-5	v-vii	修理後	円	土製加工円盤	1→b												



第92図 土製加工円盤5 (S=1/3)



第93図 土製加工円盤 6 (S=1/3)

土製加工円盤 (76~85)

No.	図	GH	統一番号	器種名	加工方法	表面処理	形状	分類	色澤	加工	縦径	横径	厚さ	重量	穴径	備考
76	26 F-12	vi		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V47(裏面)-2.5V17(裏面)	紺	2.6	2.6	1.3	10.84			
77	26 F-10	vi		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V77(裏面)	紺	4.0	2.9	0.6	0.85	9.34		
78	26 F-9	vi-vii		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V67(裏面)	紺	3.6	2.8	0.6	0.7	7.53		
79	26 E-2	vii		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	内 2.5V67(裏面) 外 2.5V77(裏面)	紺	2.6	2.4	0.7		5.36		
80	26 G-10	vi		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V77(裏面) 外 2.5V67(裏面)	紺	2.6	2.3	0.5		3.94		
81	26 F-12	viiZ		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	内 2.5V67(裏面) 外 2.5V57(裏面)	紺	2.4	2.1	0.7	0.8	4.61		
82	26 D-3	v-vii		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V87(裏面)	紺	2.6	2.3	0.8	0.9	6.79		
83	26 A-11B	vi		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V67(裏面)	紺	7.1	7.0	1.1	1.2	82.80		
84	26 F-6	vii		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V87(裏面)	紺	7.3	6.6	1.1	1.3	68.29		
85	26 F-6	vi		埴輪浅鉢		土製加工内面	円	2.5V87(裏面)	紺	4.8	4.4	1.1	1.2	32.76		85E用

第2節 土錘・土玉等 (第94図～第97図)

土錘もしくは土玉等と考えられるものを一括し掲載した。これらを下記の区分に分類し、観察表に掲載した。なお、下記の分類に該当しないものは空欄とし、その他として説明を行う。

形態の分類

I・・焼成前に片側穿孔され、器高がほぼ3～4cm内に入り、20～50gのもの。ほぼ円形状を呈するもの。青谷上寺地遺跡で穿孔土玉として報告されるものに該当すると考えられるもの。

II・・焼成前に片側穿孔され、器高が3cm以下のもので20g以下のもの。

a 円形状を呈するもの。

b 長方形形状を呈するもの。

III・・器高が4cm以上のもの。

IV・・部分的に指押さえをして、くびれをもち、片側はへこみ、片側は丸底である。

その他・・穿孔がみられないもの、穿孔途中のもの。焼成後の穿孔過程がみえるもの。

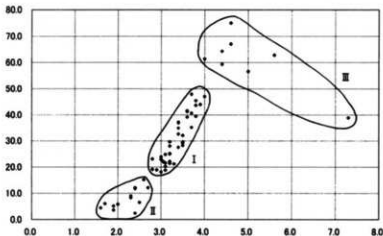
Iは1～35・69・72～79が該当する。孔側は滑り、逆は粘土が飛び出すため、棒状工具の刺し方向が確認できる。その中で飛び出し、尖った箇所を指押さえしているものがみられる(10・19・22・25・27)。孔径は0.5cmを平均値とし、まれに0.9cmのものもみられる(21・24・73)。殆どのものは文様をもたず円形であるが、中には爪で横方向に連続して刺突が施され、装飾的にみえるもの(79)、稜をもつもの(26・33～35)がみられる。また、1は孔内に枝が残存しており、その枝には螺旋状に樹皮が巻かれている。ともに樹種は未同定である。出土層位はiv層からviii層の中に入り、時期に置き換えると8～10期に該当する。なお、iv層出土のものも古い層の混入遺物と考えられる。43・44は同じtypeであるが、法量に格差がみられ、同様の使用法かは不明である。

IIは装身具と考えられ、II-aは46～54・82・83・85 II-bは55が該当する。孔径は0.3cm以下である。器高は1.6～2.7cmに収まる。中には85のように板状工具で羽状刺突文が施される例もある。

IIIは土錘で、36～46・66～71が該当する。出土層位はxii～vi層までみられ、5期～10期まで広範囲にみられる。

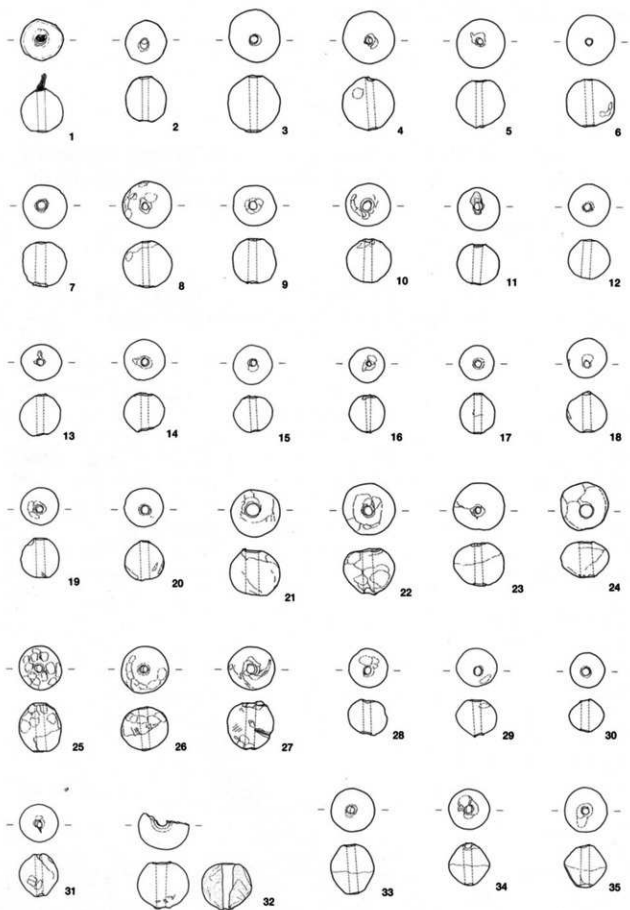
IVは用途不明であり、56～61・86～88が該当する。63は穿孔はないが、同様のものであろうか。また62のように両側から焼成後に穿孔途中のもの(62)、穿孔がみられないもの(64・65・90)、焼成前に貫通しないもの(89)がみられる。

なお、80・81は弥生時代ではない可能性が高い。

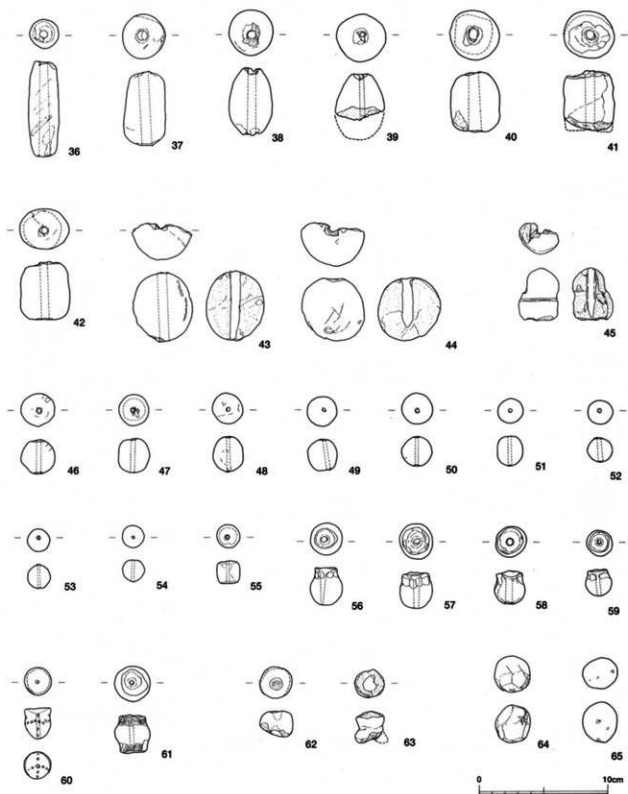


●欠損するもの、80・81は除く

第94図 土錘・土玉等の散布



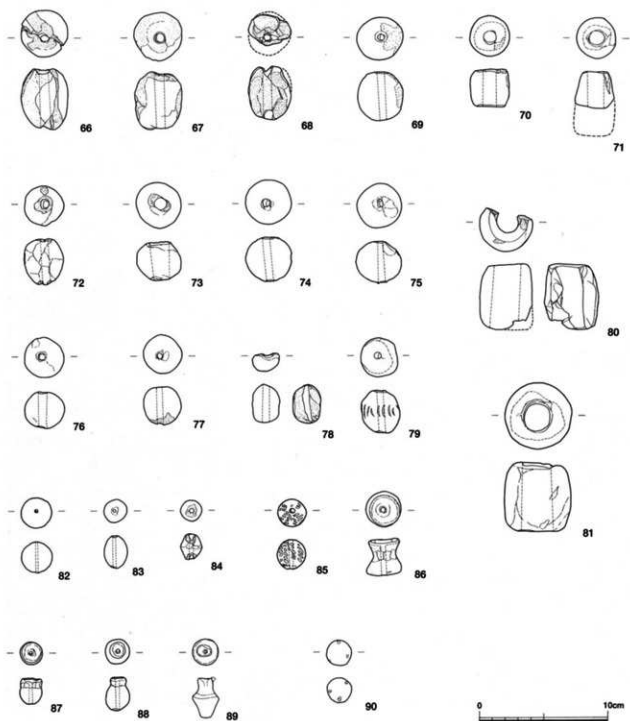
第95図 土罐・土玉等1 (S=1/3)



第96図 土器・土玉等 2 (S=1/3)

土器・土玉等 (1~6)

No	区	GR	群一層名	遺物名	原上IF	図種	分類	色澤	胎土	形状	口径	高さ	重量	穴径	備考
1	26	G-12	vi	埴輪片		2.3	1-a	2.5Y7/2灰白色	埴	扁形	3.5	3.2	32.31	0.6	
2	26	G-12	vi	埴輪片		2.3	1-a	2.5Y7/2灰白色	埴	扁形	3.5	3.1	32.13	0.55	
3	26	G-12	iv	埴輪片		2.3	1-a	2.5Y8/1灰白色	埴	扁形	4.4	3.9	64.29	0.5	
4	26	G-12	vi	埴輪片		2.3	1-a	10YR4/1褐色	埴	扁形	4.0	4.0	61.37	0.5	
5	26	東平上IF	iv	埴輪片		2.3	1-a	2.5Y7/3淡灰色	埴	中央不具	3.7	3.7	47.56	0.4	
6	26	E-4	iv-viii	埴輪片		2.3	1-a	10YR7/3に赤い黄褐色	埴	扁形	3.7	3.6	47.95	0.4	



第97図 土器・土玉等 3 (S=1/3)

土器・土玉等 (7~18)

No.	図	GH	統一番号	遺跡名	出土層	層位	分類	胎土	技法	器高	幅	重量	穴径	備考
7	26 F-15	iv	埴輪残片		2-3	1-a	10197/2に於く黄褐色	埴	中平土質	3.4	3.3	34.92	0.5	
8	26 G-11	vi	埴輪残片		2-3	1-a	2-577/3-5/1灰白色	埴	中平土質	3.8	3.6	45.52	0.4	
9	26 F-7	vi	埴輪残片		2-3	1-a	2-576/2灰白色	埴	良好	3.4	3.3	37.23	0.55	
10	26 F-10	vi	埴輪残片	No.364	2-3	1-a	2-577/2灰白色	埴	良好	3.4	3.4	37.00	0.6	
11	26 F-14	v	埴輪残片		2-3	1-a	2-578/2灰白色	埴	良好	3.2	3.0	29.62	0.6	
12	26 H-12	iv	器蓋		2-3	1-a	10197/2に於く黄褐色	埴	良好	3.2	3.0	28.00	0.5	
13	26 B-14	v	埴輪残片	No.6147	2-3	1-a	2-577/2	埴	良好	3.2	3.1	22.17	0.4	
14	26 F-14	vi-vii	埴輪残片		2-3	1-a	2-577/2灰白色	埴	良好	3.1	2.9	24.83	0.4	
15	26 G-10	viH2	埴輪残片	No.C861	2-3	1-a	10196/3に於く黄褐色	埴	中平土質	3.0	2.7	18.18	0.5	
16	26 F-15	vii1	埴輪残片		2-3	1-a	577/1灰白色	埴	良好	2.8	2.7	19.17	0.2	
17	26 F-12	v	埴輪残片		2-3	1-a	2-577/2灰白色	埴	中平土質	3.1	2.7	18.86	0.5	
18	26 F-9	vi	埴輪残片	No.8818	2-3	1-a	7-576/4に於く褐色	埴	良好	3.1	3.1	21.58	0.45	

土鐘・土玉等 (19~90)

No.	区	町	種一書名	遺構名	原上付	形状	分類	地質	出土	経緯	層	数量	寸法	備考	
19	26	G-11	vR2	埋壊済	土	1-a	10YR7/3に多い黄褐色	泥	良好	3.0	2.5	28.93	0.5		
20	26	F-5	v-vIII	埋壊済	土	1-a	10YR7/3に多い黄褐色	泥	やや不良	3.0	3.0	23.92	0.6		
21	26	G-15	IV	埋壊済	土	1-a	2.5YR2/2灰白色	泥	良好	3.8	3.4	43.74	0.9		
22	26	G-10	VI	埋壊済	土	1-a	2.5YR2/2灰白色	泥	やや不良	4.0	3.4	47.07	0.6		
23	26	H-12	VI-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/3黄褐色	泥	良好	3.9	3.0	41.37	0.4		
24	26	F-6	VI-vIII	埋壊済	土	1-a	10YR7/3に多い黄褐色	粘質	良好	3.5	2.5	29.55	0.9		
25	26	本へルトID	V	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2黄褐色	泥	良好	3.7	3.3	40.75	0.6		
26	13	F-8	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/1黄褐色	泥	やや不良	3.6	3.3	41.64	0.5			
27	26	本へルトI	惣古書	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/3黄褐色	泥	良好	3.7	3.0	43.77	0.6		
28	13	E-8	埋壊済	土	1-a	7.5YR6/6褐色	泥	良好	2.9	2.5	18.94	0.5			
29	26		埋壊済	No.3052	土	1-a	5YR6/3褐色	泥	良好	3.1	2.7	20.24	0.5		
30	26	C-5	v-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/3黄褐色	海淵砂質含有	良好	2.8	2.5	13.00	0.5		
31	26	F-5	VI-vIII	埋壊済	土	1-a	7.5YR7/4褐色	泥	良好	3.7	3.0	41.83	0.4		
32	13	D-3	v-vIII	埋壊済	土	1-a	10YR4/2灰黄褐色	泥	やや不良	3.9	3.5	(25.16)			
33	26	本へルトII	VI	埋壊済	土	1-a	10YR6/4に多い黄褐色	泥	やや不良	3.7	3.3	35.22	0.55		
34	26	F-13	vR2	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/3黄褐色	泥	やや不良	3.2	3.1	25.18	0.5		
35	26	F-4	VI	埋壊済	土	1-a	10YR8/2灰白色	粘質	やや不良	3.2	3.2	25.00	0.5		
36	26	C-12	VI	埋壊済	No.412	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	粘質	良好	7.3	2.2	59.93	0.5	
37	26	C-7	X	埋壊済	土	1-a	2.5YR3/3黄褐色	泥	良好	5.6	3.2	62.80	0.6		
38	12	26-62	埋壊済	土	1-a	2.5YR3/3黄褐色	粘質	良好	5.0	3.4	56.69	0.6			
39	26	G-6	VI	埋壊済	土	1-a	10YR5/4褐色	泥	不良	3.8	3.5	44.31	0.4		
40	13	D-4	v-vIII	埋壊済	土	1-a	10YR7/4に多い黄褐色	粘質	やや不良	4.6	3.8	67.07	0.5		
41	26	G-5	VI	埋壊済	土	1-a	10YR7/4に多い黄褐色	泥	やや不良	4.4	3.9	75.00	0.5		
42	26	C-5	XR	埋壊済	土	1-a	10YR7/3に多い黄褐色	粘質	やや不良	4.6	3.8	59.37	0.5		
43	26	F-12	vR2	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	粘質	良好	5.4	4.6	(52.00)			
44	26	F-13	vR2	埋壊済	土	1-a	10YR4/1褐色	粘質	不良	4.1	4.8	(61.06)			
45	17	H-3	ミソ	埋壊済	土	1-a	10YR8/2灰白色	粘質	不良	4.0	3.5	(17.45)			
46	26	F-7	VI	埋壊済	No.D355	土	1-a	10YR7/3に多い黄褐色土	粘質	やや不良	2.6	2.6	15.26	0.3	
47	26	B-11	X・XI	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	泥	良好	2.6	2.6	15.27	0.3		
48	26	E-13	III	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	泥	良好	2.7	2.5	12.08	0.2		
49	26	E-3	v-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5YR2/2~7/2灰白色	泥	良好	2.4	2.2	12.43	0.2		
50	26	G-6	VI-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	泥	やや不良	2.4	2.3	11.75	0.2		
51	26	F-6	VI-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5Y3/1黄褐色	泥	不良	2.3	1.9	8.36	0.2		
52	26	C-7	VI	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/3黄褐色	泥	良好	2.0	1.8	5.86	0.3		
53	26	H-11	vR2	埋壊済	土	1-a	2.5Y5/1黄褐色	泥	やや不良	1.9	1.7	5.17	0.2		
54	26	G-13	vR2	埋壊済	土	1-a	10YR6/4に多い黄褐色	泥	やや不良	1.6	1.6	4.47	0.15		
55	26	H-8	VI-vIII	埋壊済	土	1-b	10YR7/4に多い黄褐色	泥	良好	1.7	1.7	6.11	0.2		
56	26	E-3	v-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5YR3/3黄褐色	泥	良好	2.9	2.4	18.16	0.5		
57	26	G-5	VI-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5YR1/1灰白色	粘質	やや不良	2.8	2.5	19.41	0.3		
58	26	F-13	VI	埋壊済	土	1-a	2.5YR4/4黄褐色	粘質	良好	2.5	2.3	10.75	0.45		
59	26	F-5	v-vIII	埋壊済	土	1-a	10YR6/3に多い黄褐色	粘質	やや不良	2.0	2.0	7.36	0.2		
60	26	本へルト1A	VI	埋壊済	土	1-a	10YR7/3に多い黄褐色	粘質	良好	2.5	2.1	10.53	0.2		
61	13	F-3	VI	埋壊済	土	1-a	7.5YR7/4に多い褐色	粘質	良好	3.0	2.7	20.76	0.2		
62	26	F-4	vIII-XI	埋壊済	No.2811	土	1-a	10YR6/2灰黄褐色	粘質	やや不良	2.5	1.8	8.77		横成陸西側穿孔
63	26	F-8	X	埋壊済	土	1-a	2.5YR2/2灰白色	粘質	良好	2.3	2.15				
64	26	G-6	VI	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	粘質	良好	2.9	2.7	21.58			
65	26	C-5	v-vIII	埋壊済	土	1-a	2.5YR2/2灰白色	泥	良好	3.05	2.7	23.0			
66	12	30-58	ミソ	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/3黄褐色	粘質	良好	(4.5)	(3.6)	(52.41)	(0.5)		
67	17	H-4	ミソ	埋壊済	土	1-a	2.5YR4/4黄褐色	粘質	良好	4.2	3.6	(51.48)	(0.7)		
68	15		ミソ	埋壊済	土	1-a	10YR6/3に多い黄褐色	粘質	不良	4.1	3.3	(21.06)	(0.5)		
69	17	D-2	埋壊済	土	1-a	10YR8/2灰白色	粘質	良好	3.8	3.6	39.55	0.5			
70	18	B-17	惣古書	埋壊済	土	1-b	7.5YR4/4に多い褐色土	粘質	良好	3.05	2.9	22.09	1.0		
71	13	J-4	埋壊済	土	1-b	10YR8/3黄褐色	粘質赤土含有	良好	3.0	2.8	(16.39)	1.0			
72	11	J-2	埋壊済	土	1-a	2.5YR3/3黄褐色	泥	良好	3.5	3.0	28.26	0.5			
73		水堀	惣古書	埋壊済	土	1-a	10YR8/2~8/4黄褐色	粘質	良好	3.4	2.9	27.50	0.9		
74	12		ミソ	埋壊済	土	1-a	2.5YR3/3黄褐色	粘質	良好	3.6	3.4	39.19	0.5		
75	1	B-6	惣古書	埋壊済	土	1-a	2.5YR3/3黄褐色	粘質赤土含有	良好	3.4	3.2	32.64	0.3		
76	11	D-8	土坑	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/1~5/2緑灰黄色	泥	不良	3.0	2.7	23.02	0.5		
77	17	F-13	方形瓦溝	埋壊済	土	1-a	10YR7/3に多い黄褐色	粘質	良好	2.8	2.9	23.08	0.4		
78	1	B-3	惣古書	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	粘質	良好	3.0	2.1	(6.28)			
79	6	F-03	ミソ	埋壊済	土	1-a	7.5Y7/6褐色	泥	良好	3.3	2.8	21.25	0.45		
80	21		土坑	埋壊済	土	1-a	7.5YR8/4黄褐色	泥	良好	5.0	4.0	(38.92)		焼土?	
81	6	C-05	ミソ	埋壊済	土	1-a	2.5YR2/2灰白色	粘質	良好	5.3	5.1	75.71	1.6	焼土?	
82	26	H-5	惣古書	埋壊済	土	1-a	2.5Y7/2灰白色	泥	やや不良	2.4	2.3	12.10	0.2		
83	13		SK	No.127	土	1-a	10YR6/3に多い黄褐色	泥	やや不良	2.5	1.7	6.55	0.2		
84	26	H-4	土坑	No.242	土	1-a	10YR6/2灰黄褐色	泥	やや不良	1.9	1.6	3.63	0.3		
85	13		SK	No.133	土	1-a	2.5YR1/1灰白色	泥	良好	2.3	2.1	8.97	0.25		
86	26		土坑	?	土	1-a	10YR8/2灰白色	粘質	良好	2.7	2.7	17.59	0.4		
87	26		土坑	No.126	土	1-a	10YR7/2に多い黄褐色	粘質	やや不良	2.0	1.7	5.89	0.2		
88	11	B-2	ミソ	?	土	1-a	7.5YR8/2灰黄褐色	粘質	良好	2.55	1.9	7.99	0.2		
89	11	F-7	ミソ	?	土	1-a	2.5YR2/2灰白色	粘質	良好	3.1	2.9	6.41			
90	13		SK	No.95	土	1-a	2.5YR3/3黄褐色	粘質	良好	1.9	1.9	7.24			

第3節 その他の土製品 (第98図～第103図)

1～13は分銅型土製品である。現在確認しているものは14点あり、その中の13点を掲載した。この中の11点は26地区出土で、そのうち10点は埋積浅谷からである。その他は包含層ないしは溝状遺構からの出土である。

1は当遺跡の中でもっとも大きなものである。出土地点は3～6Grにわたり15mも離れて分散して出土している。表面はハケ調整が施され、内面は剥離が激しいが、ナデられたことが確認できる。上半部の突出部両側には、端面上から下へ貫通する孔が2つずつみられる。表面の文様はハケ調整を残したまま、2本一組の管状具で縁に一周させ、指で2つの弧状を描いた後、それに沿うようにくびれ部に三列施されている。なお、この土器は焼成時に破損したものと考えられる。

2は上半部のみ残存する。表裏面とも丁寧なナデ調整が施され、突出部には端面から裏面に貫通する孔が端面に平行して2つ、端面上から下へ貫通する孔が直行する形で2つみられ、突出部には合計4つずつ孔が施されている。表面の文様は、2本一組の管状具で、縁に一周させ、その中にくびれ部に沿う形で2つの弧状が施されている。

3は上半部のみ残存する。表裏面とも丁寧なナデ調整が施され、表面のくびれ部及び側面には指圧痕が残る。突出部両側には表面から3つずつ孔を穿つが、右側は真ん中のみ、左側は突出部に近いもののみ貫通する。表面の文様は2本一組の管状具で刺突を六列施している。なお、刺突は管がつぶれた状態で施されている。

4は上半部のみ残存し、突出部が両側とも少し欠損する。表裏面とも丁寧なナデ調整が施され、突出部には欠損するもの端面上から下へ貫通する孔が2つ確認できる。表面の文様は、1本の管状具で左側の突出部から右側の突出部へ刺突を施し、くびれ部境は三列確認でき、その間には二列をセットに肩の表現を描いている。また端面にも一列刺突が施されている。

5は上半部のみ残存する。表裏面とも丁寧なナデ調整が施され、突出部には端面から裏面に貫通する孔が端面に平行して2つ、端面上から下へ貫通する孔が1つみられ、突出部には合計3つずつ孔が施されている。表面の文様は2本一組の管状具で縁に一周し、くびれ部間のみ、3点刺突が施されている。

6は上半部の掲載になっているが、下半部の可能性が高く、突出部片側のみ欠損する。表裏面丁寧なナデ調整が施され、突出部に穿孔はみられない。表面の文様は3本一組の管状具で縁に一周し、くびれ部に一列、刺突が確認できる。なお、表面に板目であろうか、L字のすじが残る。

7は上半部のみ残存する。内外面ナデ調整が施され、突出部に端面から裏面に貫通する孔が一つずつ確認できる。なお、右側のみ孔の上に刺突がみられるが、貫通していない。なお、文様は施されず無文である。

8は上半部のみ残存する。表裏面丁寧なナデ調整が施され、突出部には穿孔はみられない。表面の文様は、3本一組の管状具で施される刺突が縁に一周する。

9は上半と下半の突出部が片側ずつ欠損するのみである。突出部には穿孔はみられない。表裏面ハケ調整を行い、その後くびれ部の成形を行っており、表面は縁のみナデて、形を整えた跡がみられる。表面の文様は1本の棒状具で刺突を行い、縁を除いたくびれ部のみ、刺突が三列づつ両側に施され、上半部のみ、左側は一列、右側は二列、くびれ部に沿って刺突が施されている。

10は上半部突出部のみ一部欠損する。表裏面丁寧なナデ調整が施され、突出部両側には欠損するもの端面上から下へ貫通する孔が2つずつと、表面から裏面へ貫通する孔が2つずつ確認できる。

表面の文様は主だったものはないのだが、1本の管状具による不規則な刺突がみられる。

11は上半部の突出部が一部欠損するのみである。表裏面ナデ調整を施すが、裏面は雑である。突出部には表面から裏面へ貫通する孔が3つ施されている。表面の文様は、3本一組の管状具を面に対して斜めにあて、上から下へ、下方向から二列施す。その後、上半部は右側から左側へ一列と、右側のみ、二列の刺突と直行する形で2つ、下半部右側は縁に沿って3つと、下半部左側には二列施されたものに直行する形で4つ施されている。

12、13は上半部のみ残存する。表裏面はナデ調整で、12は両面ともに指圧痕が残る。突出部の穿孔はみられない。文様は表裏面に施され、1本の管状具による刺突が、12は縁に表面には三列、裏面には二列施されている。13は表面に二列と裏面に三列、端面に二列施されている。

出土層位はx～iii層にわたってみられるが、x層の遺物は、取上の際の誤認である可能性が高い。iii層は下層の混入である。時期に置き換えてみると、9～10期のものと考えられ、5・10は8期にあがるものと考えられる。また2はiv層出土であるが、5と類似しており、古く位置付けられる可能性がある。顔の表現は1・4が明瞭なもので、2・9も1・4の簡略型になるのであろうか。それ以外は装飾のみで終わっている。また分銅型土製品は当遺跡で作っており、定型化したものであったと考えられる。

14・15は人面付土器である。2点とも埋積浅谷からの出土である。

14はx層からの出土で、6期に該当するものである。上半部のみ残存し、頭部東側突出部は欠損する。器形は細頸壺と考えられ、東海系の器形を思わせる。また顔面とはやや右寄りにずれた箇所焼成前の穴がみられ、縁はやや張り出している。内面はハケ調整が施され、体部上半には縦方向のナデや明瞭な指押さえがみられる。頭部はぎゅっとしぼった感があり、粘土にしわが寄る。外面は顔面及び、突出部が作られる。顔面は三角形を呈し、縁はやや張り出す。中央突出した部分をつくり鼻にみため、その上方両側に棒状工具で横方向に沈線を施し、目にみため。さらに目から下に直行する垂線がみられ、入れ墨をしめているのであろうか。鼻の下には棒状工具で刺突し、ややナデ広げて口にみためている。次に頭部はT字形の突出と顔面に直行する形で付帯がみられる。付帯は後ろ側に剥離痕がみられるため、後ろまでぐるりと施されていたものと考えられる。T字形に張り出した部分には5本一組の櫛状工具で付帯を挟んで正面には横方向に二条ずつ施され、後ろ側三条施され、顔面側付帯の側面にも一条施されている。頭部から体部にかけては復帯構成でほぼ隙間なく、頭部と同一工具で描かれている。文様は上から下へ順に施し、直線文二条、籐状文と波状文が交互に二段施される。その下には直線文二条施し、その上に二条を1単位として七方向に垂線が施されている。

15はxi層上面で5～6期に該当するものと考えられる。条痕文系の受け口を呈する壺の口縁部分と考えられる。内面は横方向に丁寧にナデられ、外面には粘土を貼り付けて顔面を作り出している。頭部は欠損するが突出する感があり、顔面周囲は張り出し、またT字に張り出しをつくり、横方向は棒状工具による刻みを施し眉を、縦方向は鼻にみためている。その中に棒状工具でコ字が向かい合うように描き、その中に刺突が施され、眼と眼球にみためている。鼻の下には棒状工具で円形を描き、口をみためている。側面の張り出しには耳になるのであろうか。顔面から張り出し部にかけて貫通する孔が両側にみられる。また顔面の周囲、口まわり、目まわり、鼻と内面の受け口状の部分には赤彩がみられる。なお、内面の受け口状になる箇所には焼成前の穴が2つみられる。

これら二点は、14は櫛描文系であり、15は条痕文系を窺わしている土器であり、対照的であるのに比例するように、14は西日本系のすっきりした、面長の表現であるのに対し、15が縄文時代ないしは東日本でみられる顔の表現であることは興味深い。

16は土偶である。xii S層出土であるが、下層の混入遺物と考えられる。上半のみ残存し、頭部、腕は欠損し、表裏面丁寧にナデられている。胴部には2つ貫通する孔がみえ、胸部の表現を、その中央には1本の垂線がみられ、妊娠線を表現しているものと考えられる。

17は人形土製品と報告しているものである(橋1997)。方形周溝墓から出土しており、時期は9～10期と考えられる。頭部、腕、足は欠損している。表裏面丁寧にナデられ、胴部にはややくびれを持つ。下腹部にはやや突出部があるが、意図的であるかは不明である。胸には管状具で鹿が描かれている。鹿はまず横方向に短線を描き、そこから逆し字状に描き、角1本と頭部から背面への表現がされ、背面の下に弧状に線を足し腹部を描く。その後、足を4本描き、角1本と尾の表現が施されている。

18～22は土製の勾玉である。現在確認しているものは5点のみである。18、20は埋積浅谷からの出土であり、8～9期に該当する。すべて焼成前に孔は施されており、両側穿孔である。全体がナデで作られている。18、19は他の3つと比べ、やや大きく、19は扁平である。20～22は球状の断面を呈し、20は先端尖り、整った形をしている。

23は用途不明である。埋積浅谷からの出土であり、v～viii層に位置付けられ、8～10期に該当するものと考えられる。表裏面ハケ調整が施され、部分的にナデている。両側の突出部は折り曲げて垂下し、その縁には板状工具による刺突が施されている。残存状況だけではどちらが正面であるかは不明である。

24は不明土製品として報告され(橋本1968)、今日的に銅鐸形土製品と解されているものである。鱗の部分と考えられる部分は身に貼り付けられ、接合痕が明瞭に残る。また貼り付けた後、指でつまみながらのぼしたものと考えられ、指圧痕が表裏面に明瞭に残り、縁にはヘラ工具による刻みが施されている。なお、焼成前に、鈕の表現であろうか、8～9mm程度の孔が表から裏へ施される。またこの孔に貫通するように内側から、孔が施されている。

25～27は銅鐸形土製品である。

25は鈕部分欠損する。同じ大きさの粘土を板状にしたものを二枚横方向に1cm程度ずらし合わせて作られていると考えられる。鈕の表現であろうか。上から1cm程度の所には接合痕が残り、貼り足していることが窺われる。外面は横方向に施した後、一方は縦方向に全面にハケ調整を施し、もう一方は右側は鱗の部分を、左側は鱗との境のみと一部身の部分を縦方向にハケ調整を施している。

26は埋積浅谷出土であるが、タチワリからの出土であるため、層位は不明であるが、9期以降のものと考えられる。片側のみ残存し、下端部はいきており、鈕部分は欠損するが、それほど器高は延びないものと考えられる。一部焼成前の穿孔がみられ、型持ちの孔を表現しているのであろうか。外面には、細く先端尖った工具で二本横方向に区画し、上段の線状には小さい山形を描き、その上に孔側は斜めに線を、反対側には縦方向の山形を描いているようにみえる。下段には縦羽状が施されている。

27は周溝状の遺構から出土しており、9期以降のものと考えられる。残りが悪いが、三片出土しており、接点がないため、残存状況が良いものを選択し図化した。25・26とくらべて薄い作りで、器高も大きくなるものと考えられる。また側面の突出の表現や、外面の線刻は26にくらべとても丁寧に作られている。内面は斜めから横方向にハケ調整が施されており、外面は丁寧にナデられている。外面の文様は、かなり鋭利な工具で、残存している部分だけで1cm間隔で4本横方向に描き区画しており、その中を斜め方向に一段毎向きを換え、横羽状にみせている。

28・29は円盤状の土製品である。28は周縁はやや薄くなり、内外面丁寧にナデられている。残存

する箇所から直径 10 cm 程度と推測する。29 は均一な厚みを持ち、両面ともナデられ、片側のみ部分的にミガキが施され、丁寧に面が作られている。なおミガキが施されない側は黒斑が残り、表裏面を意識したものと考えられる。用途不明である。

30 は蓋であろうか、5 cm 程度の円形であり、平らな面とやや盛り上がる面があり、盛り上がる面は丁寧にナデられているため、こちら側が表面と考えられる。最大径からややずれたところに 3 mm 程度の焼成前の穴が二つ施されている。

31 は木製容器の模造品であろうか。一部しか残存しないが、砲弾状を窺わせる。埋積浅谷からの出土であり、6～8 期に該当するものと考えられる。内面は丁寧にナデられ、外面は縦方向のハケ調整が施された後、2 本横方向の区画線がめぐり、その中に板状工具による羽状刺突文が施されている。なお、外面には赤彩が施されている。

32～38 は鳥形土器である。

32 は xi C 層出土であり、5 期に該当するものと考えられる。頸から上が欠損するのみである。内外面ハケ調整が施され、外面体部は横方向に丁寧に、底面は部分的にミガキが施されている。頸部にはハケ調整を残したまま、3 本一組の櫛状工具で時計回りに上から下へ順に直線文一条、波状文一条、直線文二条、波状文一条、直線文二条が施されている。ただし、一条目の直線文の下にはかすかに波状文がみえ、直線文に書き直したものと考えられる。その後、体部には正面やずれたところに 2 つ、側面に 2 つずつ小さな瘤状突起が、背面に大きな瘤状突起が 1 つ施されている。

33～38 は 9 期以降にみられるものと考えられ、32 とは違い無文である。

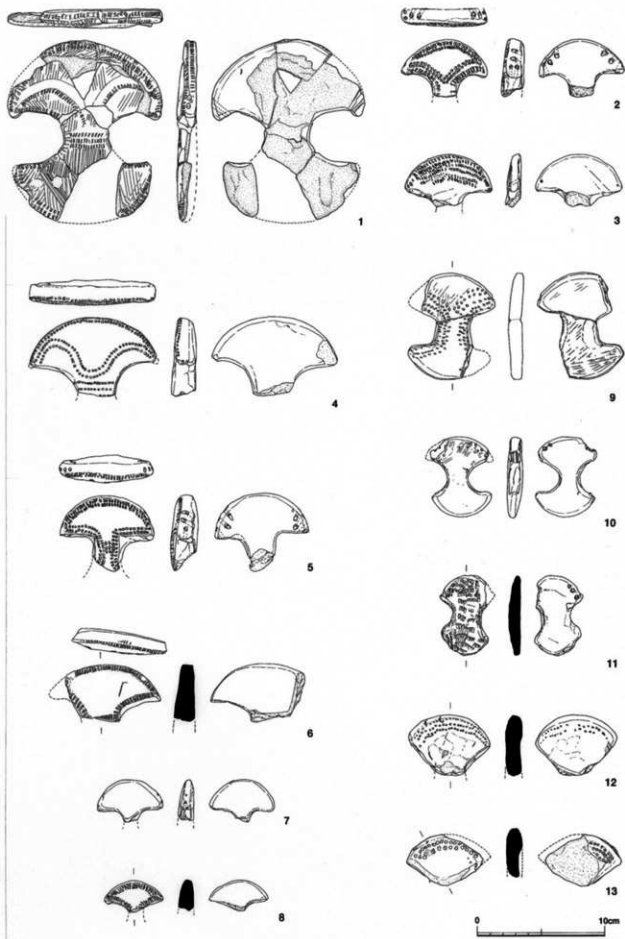
33 はこの中では大型であり、体部上半は欠損する。内外面ハケ調整を行い、内面底部と頭部側になる側面は指で縦方向にナデている。外面底面から胴部にかけて全面ミガキ調整が施されている。

34 は口が一部欠けるのみで、ほぼ完形である。丁寧に作りであり、内外面丁寧にナデられている。土器と同様に輪積み成形した後、側面をつなぎ合わせて作っていることが、背面の接合痕より窺われる。尾に孔はなく、丁寧につまみ、作り出されている。口はやや下に下げるように拡張している。

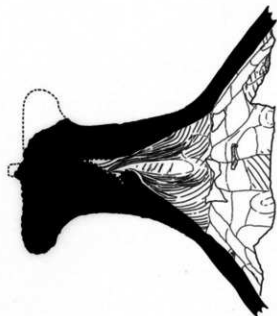
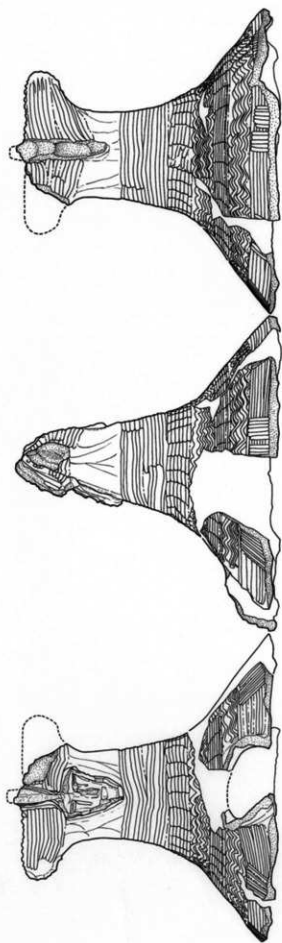
35 は頭部側が欠損する。34 に比べ雑な作りである。内外面ハケ調整を行い、内面は底部のみナデ、胴部は接合痕が残り、輪積みであったことが伺える。また背面接合部は明瞭に残る。外面はナデ消されているが、背面の接合部はミガキ消す跡が残っているが、接合痕は消しきれていない。胴部には部分的に爪痕が残り、きれいな器面とはいえない。尾はつなぎ合わせたままの状態です。

37 は 35・36 とはやや形が異なり器高が低く作られている。口が一部欠損するのみである。内面下半と、外面底部は縦方向に、胴部は横方向にハケ調整が施される。底部は平底であるが、やや全体的にへこんでいる。背面は接合部分がちょうど中央にあたり、そのまま尖らせた形になっている。尾はつなぎ合わせたままの状態です。

36・38 は背面から尾にかけての箇所と考えられる。36 は内外面荒いハケ調整で施されており、背面の内面接合部はつぶされないうま残っている。38 は内面は荒いハケ調整で、外面は細かいハケ調整が施されている。34・35・37 とは背面の接合の仕方が違い、側面をつなぎ合わせるのではなく、一枚粘土板を貼り足していると考えられる。



第98図 その他の土製品 1 (S=1/3)



14

第99圖 其他の土製品 2 (S=1/2)



15



16



17



18



19



20



21



22



23



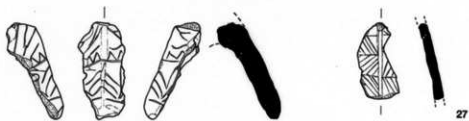
24



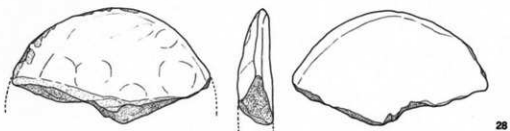
第100図 その他の土製品 3 (S=1/2)



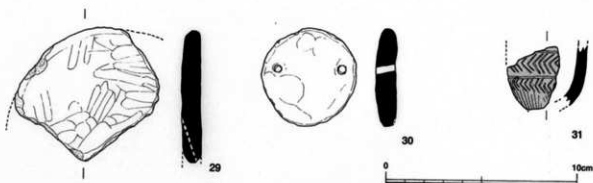
25



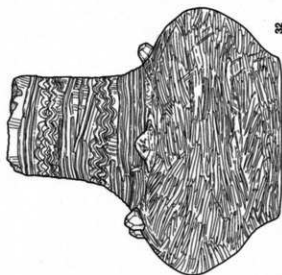
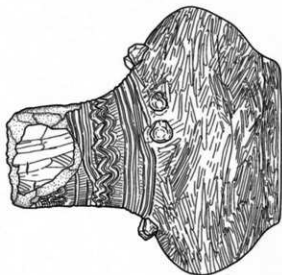
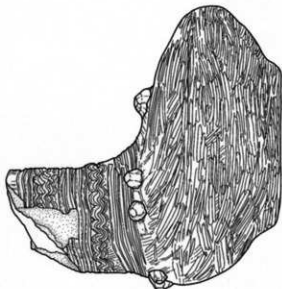
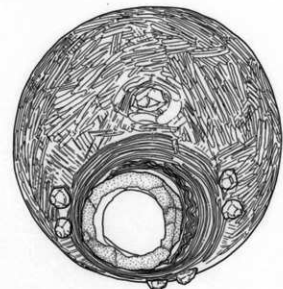
27



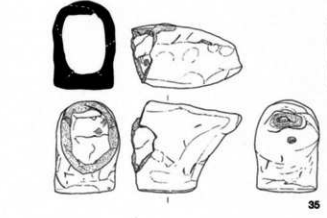
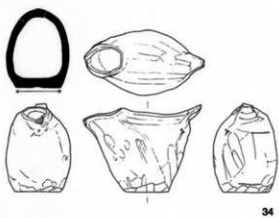
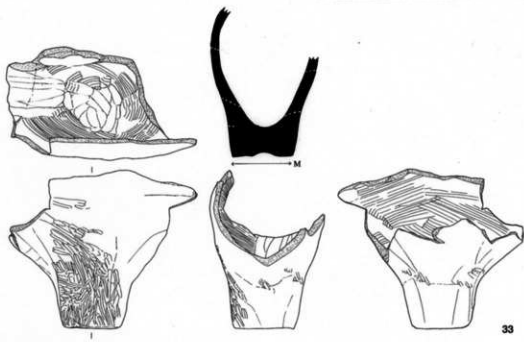
28



第101図 その他の土製品 4 (S=1/2)



第102図 その他の土製品 5 (S=1/2)



第103図 その他の土製品 6 (S=1/3)

その他の土製品 (分銅形土製品) (1~13)

No	区	GR	統一番号	通称名	取上げ	部種	色調	胎土	焼成	全高	全径(上)	全径(下)	最大厚	備考
1	26	F-6	vi	埋焼流石		分銅型	2.5Y4/1黄褐色	密	良好	(14.3)	12.0	(10.6)	1.6	在池
2	26	F-11	vi	埋焼流石		分銅型	10YR7/1~6/1褐色	密	良好	(4.5)	6.7		(1.7)	購入?
3	26	F-12	vi	埋焼流石		分銅型	2.5Y8/2灰白色	粗密	良好	(3.85)	6.6		(1.2)	在池
4	26	G-12	vi	埋焼流石	No.87	分銅型	10YR6/4に多い黄褐色	密	良好	(6.0)	9.9		(2.0)	在池
5	26	C-11	x	埋焼流石		分銅型	2.5Y4/1~3/1黄褐色	粗密	良好	(5.8)	7.3		(2.1)	購入?
6	26	F-3	v-vii	埋焼流石		分銅型	2.5Y4/1黄褐色	密	良好	(4.3)		(7.2)	(1.6)	全径測定6.9在池?
7	26	B-4	ii	埋焼流石		分銅型	2.5Y8/3黄褐色	粗密	良好	(3.3)	5.0		1.2	在池
8	26	D-6a	v-vii	埋焼流石		分銅型	10YR6/3に多い黄褐色	密	良好	(2.5)	4.6		(1.2)	在池
9	26	G-9	vi-vii	埋焼流石		分銅型	2.5Y8/2~7/2灰黄色	粗密	良好	8.4	(5.5)		1.1	在池
10	26	B-11	x	埋焼流石		分銅型	2.5Y8/3黄褐色	粗密	良好	6.2	(4.5)	4.6	(1.25)	在池
11	26	H-7	si	埋焼流石		分銅型	10YR4/1褐色	粗密	不良	5.1	3.65		0.91	在池
12	12	30-57		ミソ	No.1046	分銅型	2.5Y8/3黄褐色	密	やや不良	(4.7)	6.4		(1.35)	在池
13	11	K-8		ミソ?		分銅型	2.5Y8/2灰白色	密	良好	5.9	(6.0)		1.2	全径測定6.8在池

その他の土製品 (14~31)

No	区	GR	統一番号	通称名	取上げ	部種	色調	胎土	焼成	全高	全径	最大厚	穴径	備考
14	26	F-6	x	埋焼流石	No.81B2	人形付土器	10YR7/4に多い黄褐色	密	良好	(13.6)				在池
15	26	F-6-G-7	vi	埋焼流石	No.815B	人形付土器	10YR8/1灰白色	密	良好	(5.1)	(7.4)			在池
16	26	G-7	vii	埋焼流石		土器	2.5Y8/1灰白色	密	やや不良	(6.8)	(6.2)	3.3		在池
17	11	H-9		ミソ		人形土製品	10YR8/2灰白色	粗密	良好	(5.4)	(3.5)			在池
18	26	E-1	vii2	埋焼流石		知玉土製品	2.5Y7/1灰白色	密	良好	4.5	2.8	1.6	0.25	両側穿孔 在池
19	11	E-2		ミソ		知玉土製品	2.5Y8/2灰白色	粗密	良好	5.5	3.2	2.3	0.38	両側穿孔 在池
20	26	G-15	vii1	埋焼流石		知玉土製品	2.5Y4/1黄褐色	密	やや不良	3.1	1.85	1.4	0.45	両側穿孔 在池
21	17	G-9		ミソ		知玉土製品	2.5Y8/3黄褐色	密	良好	3.6	2.25	1.3	0.3	両側穿孔 在池
22	26	H-5		ミソ		知玉土製品	2.5Y4/1黄褐色	密	やや不良	3.3	2.05	1.5	0.4	両側穿孔 在池
23	26	D-3	vii-x	埋焼流石		用途不明	2.5Y8/2灰白色	粗密	良好	(4.3)	(6.8)			在池
24		I				用途不明	2.5Y8/1灰白色	やや粗質	やや不良	(5.2)	(6.4)		0.6	明治大学が出土 三方より穴を穿つ 在池?
25	13	G-5		土柱	No.1	銅形土製品	10YR8/2灰白色	粗密	良好	(5.3)	7.6			在池
26	27	24-97		埋焼流石		銅形土製品	2.5Y8/3黄褐色	密	良好	(4.9)	(5.1)			在池
27	11	L-6		ミソ		銅形土製品	10YR7/1に多い黄褐色	密	良好	(4.0)				在池?
28	11			ミソ		用途不明	10YR7/2~7/3に多い黄褐色	粗密	良好	(5.9)	(10.1)			円形のものに測定し直径11mmと考えられる 内外面が調整 在池
29	11			方形用蓋		用途不明	10YR7/1灰白色	粗密	良好	(6.8)	(7.3)			円形のものに測定し直径10mmと考えられる 内外面が調整 在池
30	16					用途不明	10YR8/1灰白色	粗密	良好	5.0	4.8			内外面が調整 在池
31	26	E-4	vii-x	埋焼流石		用途不明	10YR8/1灰白色	粗密	良好	(3.2)				在池

その他の土製品 (鳥形土器) (32~38)

No	区	GR	統一番号	通称名	取上げ	部種	色調	胎土	焼成	全高(鳥)	全径(頸)	全径(腹)	底の厚さ	底径の種類	備考	
32	26	F-4	si	埋焼流石	No.3420	鳥形土器	10YR8/2灰白色	粗	良好	14.3	13.6	8.2	(14.3)	1.4	円形調整法	頸部径5.3 在池
33	26	G-13	vii2	埋焼流石		鳥形土器	10YR8/2灰白色	粗密	良好	(14.5)	4.7	4.7	(12.2)	1.9	円形調整法?	在池
34	26	F-14	vii2	埋焼流石		鳥形土器	2.5Y7/2黄褐色	密	良好	9.2	5	3.4	6.8	0.7		在池
35	26			埋焼流石		鳥形土器	10YR8/2灰白色	密	良好	(8.5)	4.8	4.5	7.0	1.2	円形調整法	在池
36	26	H-12	vi	埋焼流石		鳥形土器	10YR8/3黄褐色	粗密	良好	(6.5)	6.1					在池
37	12	27-63.2	vi	埋焼流石		鳥形土器	10YR8/2灰白色	粗密	良好	11.6	5.5	5.0	5.0	0.7	円形調整法	在池
38	26	E-2	v-vii	埋焼流石		鳥形土器	2.5Y6/3に多い黄色	粗密	良好	(4.4)	(4.1)					在池

第4節 ミニチュア土器 (第104図～第106図)

1～87が埋積浅谷出土であり、88～112が遺構出土である。出土層位はxi～v層までみられる。器種は壺・甕・鉢・高坏・器台がみられる。観察表に記してあるため参照されたい。高坏・器台はvi～vii層出土で時期に置き換えると、9期以降からみられる。ミニチュア土器が多く出土するのはv～viii層にかけてであり、集落Ⅲ期からである。

基本的に輪積み成形であるが、中には12・26・83・90・93・112のような小型のものなどは、粘土の固まりを指や棒状工具で窪ませて作られたものと考えられる。使用方法は不明であるが、使用痕跡として内外面に煤の付着がみられるもの(13)や外面にみられるもの(11・15・16・24・60)がある。なお、35や96のように蓋穴をもつものや1・7・36・44・77は作りが丁寧であり、ミニチュア土器でなく、土器掲載で良かったかもしれない。

輪積み成形のものはハケ調整で仕上げるもの(5・9・10・11・13・14・21・24・27～30・36・41・43・44・47・49・52・55・56・58・59・62・69・70・71・73・74・77・82・85・87～89・95～97・99・100・105・107・111)、ハケ調整の後ナデ消すものやナデ調整で作られるもの(8・15・17・18～20・22・32・35・38・42・48・50・53・57・61・64・66・68・72・86・101・104・108・110)、指押さえが残るもの(4・23・25・34・37・40・45・46・51・54・63・65・67・78～81・91・98・103・106・109)、ハケもしくはナデ調整の後ミガキ調整が施されるもの(1～3・6・7・39・84・92・94)、ケズられるもの(31・33)がある。また作りが雑で接合痕が明瞭に残るものもある(16・75)。

また外面に文様もしくは口縁に刻みが施されるものはいくつかある。基本的には壺、甕、鉢の模倣と考えられるものにつく。

2はミガキ調整の後、ヘラ工具で上から下へ直線文、波状文、直線文四条、山形文、直線文三条、連弧文三条が施されている。

3は1本以外はすじ状のような痕跡であるが、櫛状工具と考えられるもので、直線文三条と下端に波状文が一条施されている。

6は2本一組の櫛状工具で不連続な直線文を一条と、一周する直線文が一条施されている。

16、20は口縁が一部しか残存しないが、ヘラ工具による刻みが施されている。

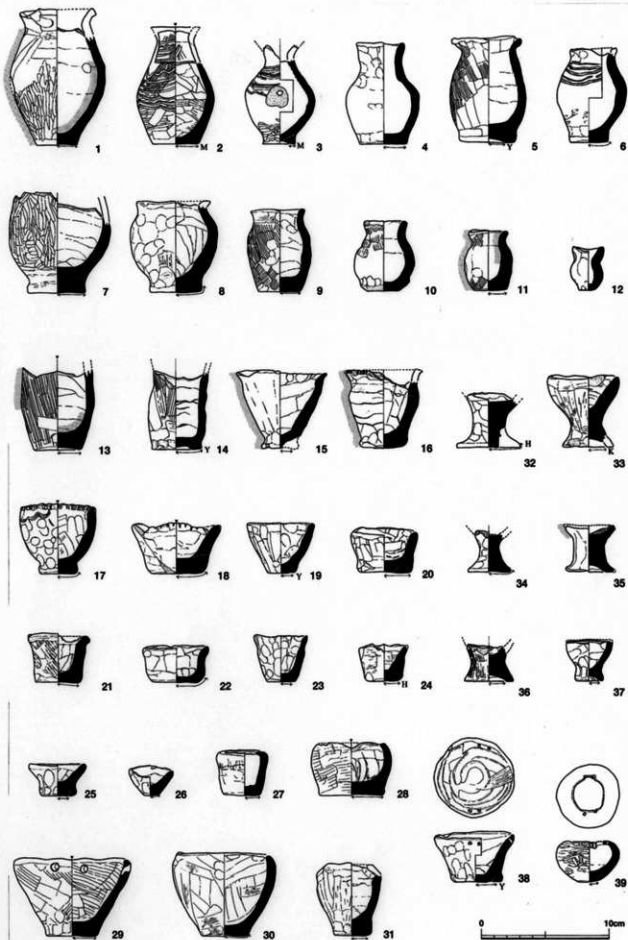
17は体部には管状具で体部に連弧文が一部のみと、口縁内外面に板状工具で、右から左方向にひくように連続した刺突が施されている。

70は1本の管状具で外面に連続した刺突を五列施し、口縁端部には、ヘラ工具による連続した刻みが施されている。

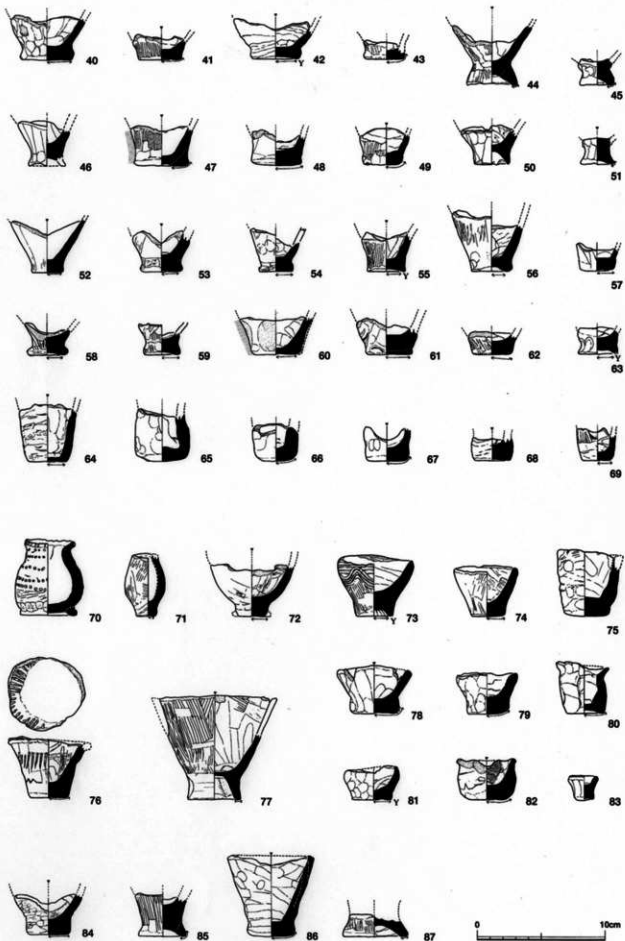
73は5本一組の櫛状工具で、乱れた直線文と波状文が一条ずつ施されている。

76は先端尖った工具で外面と口縁内面に連続した縦方向の刻みを施し、外面の刻みの下には波状文を意識しているのであろうか。細く一周しない線が施されている。

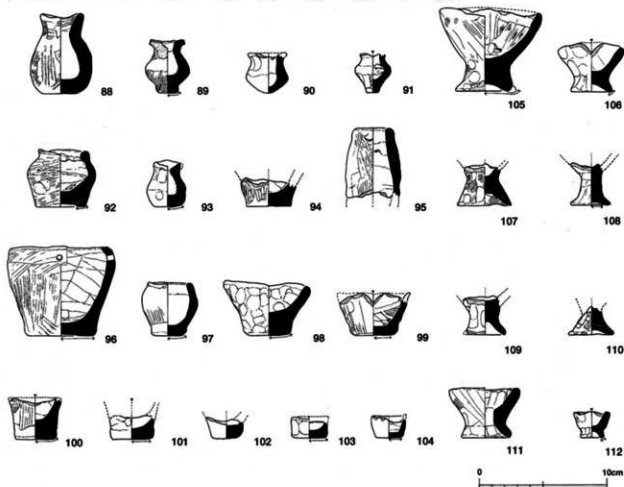
38・39は文様ではないが、蓋穴を模倣したもので、2個一対で2mm程度の穴が施されている。



第104図 ミニチュア土器 1 (S=1/3)



第105図 ミニチュア土器 2 (S=1/3)



第106図 ミニチュア土器 3 (S=1/3)

ミニチュア土器 (1~40)

No.	図	器名	素材	形状	寸法	重量	出土	年代	用途	備考	
1	2510-10	st	埴輪粘土	鉢	2.514/1~4/2(埴輪)	高径 15.9	7.3	3.1	5.0	10.6.08 東洋館 佐賀	
2	2510-5	st-v	埴輪粘土	鉢	10194/1(埴輪)	高径 4.0	3.7	3.8	10.6.08 東洋館 佐賀		
3	2510-2	st-v	埴輪粘土	鉢	2.515/1(埴輪)	高径 5.4	2.5	2.2	(7.5) 0.5 東洋館 佐賀		
4	2510-4	st-v	埴輪粘土	鉢	10196/2(埴輪)	高径 3.5	3.7	3.5	7.9 0.7 東洋館 佐賀		
5	2510-10	vst	埴輪粘土 No.276	鉢	10195/1(埴輪)	高径 5.7	3.9	4.1	4.2 6.3 1.1 東洋館 佐賀		
6	2510-6	st	埴輪粘土	鉢	10196/2(埴輪)	高径 3.3	3.4	3.1	3.2 3.4 7.3 0.9 東洋館 佐賀		
7	2510-3	vst	埴輪粘土	鉢	7.5195/1にv	高径 7.8	4.3		(7.8) 2.0 東洋館 佐賀		
8	2510-2	vst	埴輪粘土	鉢	1.918/1(埴輪)	高径 11.3	6.7	4.3	4.4 5.2 7.0 1.1 東洋館 佐賀		
9	2510-10	vst	埴輪粘土 No.074	鉢	2.512/2(埴輪)	高径 4.2	4.9	3.1	3.8 5.4 7.0 平岡 佐賀		
10	2510-14	v	埴輪粘土	鉢	2.514/1(埴輪)	***H 3.4	3.6	4.9	(3.7) (3.5) 7.4 0.7 平岡 佐賀		
11	2510-8	st	埴輪粘土 No.798	鉢	2.515/1~4/2(埴輪)	高径 2.8	3.8	2.4	2.8 2.6 4.7 0.7 東洋館 佐賀		
12	2510-10	vst	埴輪粘土	鉢	2.517/1(埴輪)	高径 12.4	2.6	1.5	1.4 2.0 3.4 0.5 平岡 佐賀		
13	2510-8	st	埴輪粘土	鉢	2.519/2(埴輪)	高径 5.4	3.6		(6.3) 1.1 東洋館 佐賀		
14	2510-10	st-v	埴輪粘土	鉢	319/2(埴輪)	高径 4.6	3.8	4.2	(8.0) 0.7 東洋館 佐賀		
15	2510-3	vst-v	埴輪粘土 No.2106	鉢	2.512/2(埴輪)	***H 6.5	4.8	7.0	(2.9) 4.0 6.0 1.0 東洋館 佐賀		
16	2510-6	st	埴輪粘土 No.377	鉢	10198/3にv	高径 15.9	5.4	3.7	3.9 5.1 5.9 1.1 東洋館 佐賀		
17	2510-8	vst	埴輪粘土 No.998	鉢	2.517/2~6/2(埴輪)	高径 5.2	5.7	3.0	3.1 3.4 1.1 東洋館 佐賀		
18	2510-2	st	埴輪粘土	鉢	2.519/1~2/1(埴輪)	***H 16.1	16.4	4.0	5.9 1.2 東洋館 佐賀		
19	2510-2	vst	埴輪粘土	鉢	102.514/1(埴輪) 102.516/2(埴輪)	高径 5.2	5.3	5.2	2.5	2.4 3.9 0.6 東洋館 佐賀 赤褐色片装	
20	2510-11	vst	埴輪粘土	鉢	2.519/1(埴輪)	高径 5.2	5.3	5.2	3.9	4.1 3.4 0.9 東洋館 佐賀	
21	2510-15	v	埴輪粘土	鉢	10194/1~3/1(埴輪)	高径 4.2	4.9	4.8	3.5	3.6 3.8 0.7 東洋館 佐賀	
22	2510-10	st	埴輪粘土	鉢	2.516/4にv	高径 5.0	5.1	5.1	4.0	4.3 2.8 0.4 東洋館 佐賀	
23	2510-12	vst	埴輪粘土	鉢	2.516/1(埴輪)	高径 4.1	4.1	2.3		3.5 0.8 東洋館 佐賀	
24	2510-5	vst-v	埴輪粘土	鉢	10197/4にv	高径 3.8	3.9	3.8	2.7	2.9 0.8 東洋館 佐賀	
25	2510-11	st	埴輪粘土	鉢	102.519/4(埴輪)	高径 4.3	4.4	4.4	2.7	2.9 2.4 1.1 東洋館 佐賀	
26	2510-4	st	埴輪粘土	鉢	319/2(埴輪)	高径 3.4	3.4	3.4	1.4	1.6 2.3 0.8 平岡 佐賀	
27	2510-5	st	埴輪粘土	鉢	2.516/4(埴輪)	高径 2.2	4.0	3.0	3.2	3.5 0.7 東洋館 佐賀	
28	2510-12	st	埴輪粘土	鉢	2.519/2(埴輪)	高径 1.6	1.6	2	4.7	4.0 1.8 0.7 東洋館 佐賀	
29	2510-13	vst	埴輪粘土	鉢	102.513/1(埴輪) 102.517/1(埴輪)	高径 10.0	9.0	4.0		6.0 1.1 東洋館 佐賀	
30	2510-2	vst	埴輪粘土	鉢	2.517/2~3/1(埴輪)~1(埴輪)	***H 7.2	10.0	3.4		6.4 0.7 東洋館 佐賀	
31	2510-11	st	埴輪粘土 No.C201	鉢	10194/1~3/1(埴輪)	高径 3.1	3.0	2.8	3.0	5.5 1.2 東洋館 佐賀	
32	2510-12	vst	埴輪粘土	鉢	2.519/3(埴輪)	高径 3.1	3.0	2.8	3.0	2.5 (5.0) (2.4) 3.5 東洋館 佐賀	
33	2510-12	vst	埴輪粘土	鉢	2.519/3(埴輪)	高径 5.4	5.6	5.6		5.5 2.3 東洋館 佐賀	
34	2510-11	st	埴輪粘土	鉢	2.515/1~4/2にv	高径 3.3	3.3	(3.2)	2.8	2.8 1.8 東洋館 佐賀	
35	2510-9	vst	埴輪粘土	鉢	7.5197/4にv	高径 4.2	(3.8)			4.4 3.8 (5.5) 2.8 東洋館 佐賀	
36	2510-12	vst	埴輪粘土	鉢	10198/1(埴輪)	高径 3.4	3.4			3.8	3.8 (2.8) 3.5 東洋館 佐賀
37	2510-11	vst	埴輪粘土	鉢	2.519/2(埴輪)	高径 4.0	4.2	4.2		3.8 0.5 東洋館 佐賀	
38	2510-4	vst	埴輪粘土	鉢	2.519/2(埴輪)	高径 6.0	6.2	6.2		5.7	5.9 2.1 (3.1) 0.5 東洋館 佐賀
39	2510-12	st	埴輪粘土	鉢	10197/2にv	高径 2.4	2.6	1.9	1.8	4.0 0.7 東洋館 佐賀	
40	2510-3	vst	埴輪粘土	鉢	2.514/1(埴輪)	***H 10.7	10.7	4.0		(3.5) 1.1 東洋館 佐賀	

第5節 蓋形土器 (第107図)

現在確認している数は13点のうち11点を掲載した。埋積浅谷出土は1・3・5・9が該当し、出土層位はxi～viii層から出土している。

1は内外面ハケ調整を行い、内面には接着痕が数カ所残る。外面は横方向にナデ消されている。つまみは欠損するが、剥離痕から2つ突出した瘤がついたと考えられる。

2は内面は剥離していて調整は不明である。外面のつまみは横長のものが二つ貼り付けられ、つまみから体部に向けて縦方向にハケ調整が施されている。またつまみの先端部分にはハケ工具による連続した刻みを、体部には5本一組の櫛状工具で波状文、直線文が交互に施されている。

3は裾部及びつまみは欠損する。内外面ナデ調整が施され、つまみは剥離痕から2つ突出した瘤がついたと考えられる。

4は裾部は節合部分から剥離したものと考えられる。内面は丁寧なナデで、外面は摩耗が激しいが、横方向にハケ調整が施されたのが確認できる。なお、つまみは一つで貼り付けられている。

5は焼成時の黒色を呈し、1/3程度欠損する。内外面ハケ調整を施し、外面はナデ消した後、半円状の三角形突帯が2つ単位で、対角線状同じように施されている。突帯は1本づつ付けられ、接着部は指で丁寧にナデられている。その後調整具と同一のハケ工具で羽状刺突文が突帯間をうめている。なお、端部上方にも同一工具で連続した刻みが施されている。

6は内外面ハケ調整を施し、外面はハケ調整の上にそのまま文様を施している。5本一組の櫛状工具で直線文三条、板状工具で三角刺突を一行、直線文二条、三角刺突を一行、直線文を一条施した上に、ハケ工具による連続した刻みが施されている。直線文は上から下に施されているが三角刺突との斬り合いがないため、順序は不明である。

7は内外面及び端部はハケ調整が施され、内面は裾部を残しナデ消し、外面は部分的に板ナデが施されている。無文でつまみは付かないものと考えられる。

8は内外面ハケ調整の後、内外面とも丁寧にナデ消されている。

9は内外面ハケ調整を施し、内面頂部はナデ消され、外面は剥離が激しいが横方向のミガキ調整が確認できる。

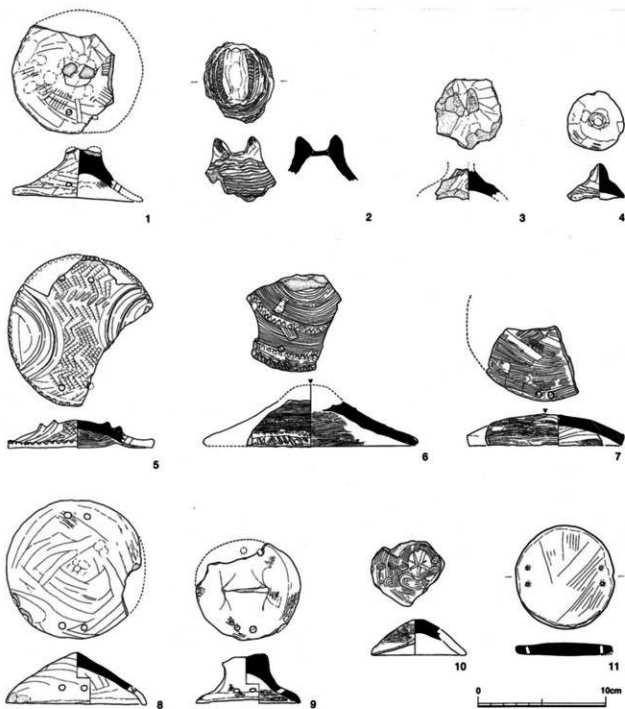
10は摩耗が激しく内外面の調整は不明であるが外面には4本一組の櫛状工具で直線文が四条施されている。

11は扁平である。内外面ハケ調整を施し、端部はやや下に張り出す。黒斑は表面に付いている。

すべて煤の付着はなく、穴の穿孔方向は外面から裏面であり、径は6の16cm程度のもの以外10cm以下で、付く器種は壺か鉢と考えられる。

土器、ミニチュア土器、異形土器として掲載している中で、蓋穴が付くものは、土器掲載がxi層出土：267・290無頸壺（口径8cm程度）、viii層出土：422壺（口径16.2cm）、vi層出土：417鉢（口径8cm程度）、v層：465鉢（口径9cm程度）とミニチュア土器掲載がviii層出土：29鉢（口径9cm）、遺構出土：鉢（口径9cm程度）と異形土器掲載がv～viii層内：3壺（口径7cm程度）8、9鉢（木製模造品）がある。木製模造品は楕円を呈するため2点を除き、ほぼ径が合うことがわかる。なお、異形土器：8であるが、木製品の蓋と径が合致する。

蓋はviii層以降出土していないが、土器でv層のものがみられ、5～10期にいたるま少量であるが存在したと考えられる。



第107図 蓋形土器 (S=1/3)

No	区	GR	統一番号	遺構名	取上げ	図種	色澤	胎土	焼成	口径	高さ	備考
1	26	F-11	viii~x	埋溝浅谷		蓋	2.5Y8/2 灰白砂	粗密	良好 (10.0)	(4.0)		在地
2	26	E-8	x	埋溝浅谷		蓋	10YR5/2 灰黄褐色	粗	良好	(4.2)		在地
3	26	F-9	xi ~ xii	埋溝浅谷		蓋	10YR8/2 灰白色	粗	良好			内面ナシ 在地
4	13	F-4		包含層		蓋	内 2.5Y4/1 黄灰色 外 2.5Y8/2 灰白色	粗	良好 (4.4)	2.6		在地
5	26	F-5	ix ~ x	埋溝浅谷	No.3192	蓋	10YR6/2~5/2 灰黄褐色	粗密	良好 11.8	2.1		在地
6	26	F-15	viii	埋溝浅谷		蓋	2.5Y8/4 淡黄色	粗密	良好 (16.0)	(4.7)		在地
7	26	E-2	v~ix	埋溝浅谷		蓋	10YR5/3 灰黄褐色	粗密	良好 9.5	2.3		在地
8	26	C-9	x	埋溝浅谷		蓋	外 7.5YR8/3 淡黄褐色 内 10YR5/2 灰黄褐色	粗	良好 10.5	3.95		在地
9	13	B-9	(x)	埋溝浅谷		蓋	2.5Y7/3 淡黄色	粗	良好 8.0	3.8		在地
10	17	J-2	ミゾ2			蓋	2.5Y8/3 淡黄色	粗密	良好 (7.4)	2.7		在地
11	23	J-5	土坑			蓋	2.5Y8/1 灰白色	粗密	中や不具 7.7	0.9		在地

第6節 異形土器 (第108図～第110図)

双口壺、耳付土器、木製模造品、転用品等を土器から抽出し、異形土器として掲載する。7・11・12を除いてすべて埋積浅谷出土である。

1は双口壺である。出土層位はから10期と考えられる。底部は一部しか残存しないが、円形であったものを、徐々に楕円にして、鳥形土器同様、中央をつなぎ口を二つ作ったものと考えられる。また口縁は欠損しており、どこまで延びるか不明である。調整は内面は横方向に、外は下から上へ順に斜め方向にハケ調整を施した後、体部上半は部分的に板状工具でナデ消され、底部には調整ハケと同一工具で放射状に施している。内面はハケ調整の後、底面と体部上半は指で縦方向にナデ消されている。

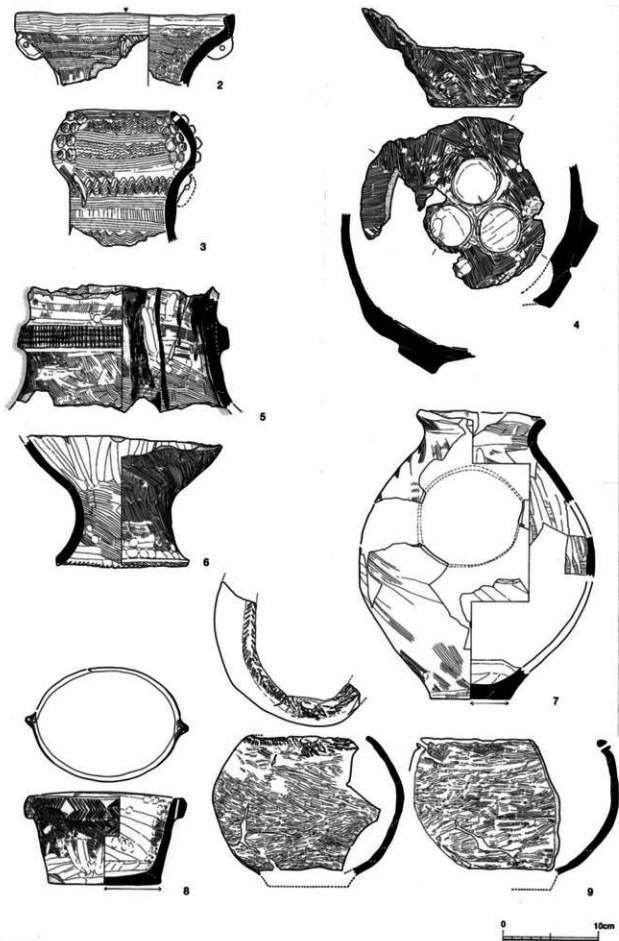
2・3は耳付土器である。出土層位から2は4・5期と、3は5・6期と考えられる。2は口縁が1/3のみ残存する。内面頸部は横方向、外面頸部は縦方向にハケ調整を施し、口縁は受け口状を呈し、内外面横方向にナデた後、外面は横方向に再度ハケ調整を施している。口縁下には半円状の粘土を貼り付け、焼成前の穿孔が1つみられる。これは2箇所確認でき、四方向につくものと推測する。6本一組の櫛状工具で耳間に直線文が一条と、その下に1周する直線文が逆時計回りで一条施されている。3は頸部から上のみ残存する。内面は横方向、外面は縦方向にハケ調整を施し、内外面袋状に張り出す箇所は横方向にナデ消されている。袋状の部分には瘤状突起が4個一列を2列一組にしたものが四方向に施されている。また頸部には、2cm程の縦長の付帯が二方向に付けられる。片側は痕跡だけであるが、もう片側からは、焼成前の穿孔が確認できる。袋状の付帯間には、5本一組の櫛状工具で直線文と波状文を二段施し、頸部には同一工具で波状文と直線文が一条ずつと、間をあけて直線文と波状文が一条ずつ施されている。

4は底部が三個付く条痕文系の壺である。出土層位から5期と考えられる。なお、底部しか残存しない。内面は丁寧なナデ調整で外面には櫛状条痕が縦羽状に施されている。

5・6は壺の台への転用土器と考えている。いずれも出土層位はviii層以降のもので、時期に置き換えると、8期以降のものと考えられる。5は口縁及び頸部を打ち欠き筒状にしている。内面は横方向、外面は斜め方向にハケ調整を施す。頸部には3.5cm程度の断面台形の貼付突帯を施し、突帯接合部は横方向にナデている。突帯上にはヘラ工具で三条沈線を描き、その後5mm程度の間隔で垂線を施している。なお外面には部分的であるが煤の付着であろうか。内面には滴る液体痕が残る。6は口縁から体部上半のみ残存し、体部上半の割面には打ち欠きを施したものと考えられる。調整は内面は荒い目のハケ調整を施し、頸部近くまで指でナデ消している。外面は内面に比べ、細かい目のハケ調整が斜めから縦方向に施され、体部上半には再度斜め方向に施されている。口縁内外面は横方向にナデられ、端部には沈線を一条施し、上方からハケ工具による連続した刻みが施されている。これは、5と違い付着痕跡はないが、口縁開き部がややすれた感があるのと、安定感があることなどから、逆さに利用したものと考えられる。

7は円窓付土器である。外面は下から上へ順に斜め方向に、内面は横方向にハケ調整を施し、内面は体部下半から底部にかけて指でナデ消され、体部最大径から上にかけては縦方向に指で部分的にナデている。口縁は高さが均一ではなく、かなりゆがんでいる。なお、残りは悪いが体部上半には焼成前に作られた円窓があり、残存部横幅で10.5cm程度である。時期は9・10期のものと考えられる。

9は木製模造品であろうか。底部及び体部半分以上欠損する。内外面ハケ調整を施し、内外面とも丁寧に横方向のミガキが施されている。底部は円形であったと考えられ、体部から口縁にかけて楕円



第109図 異形土器 2 (S=1/4)

第7節 絵画土器 (第111図～第114図)

絵画及び記号文が付く土器である。現在確認している絵画資料のみ掲載しており、1・2・4～19は埋積浅谷の出土である。遺構遺物は今後増加するものと考えられる。すべてviii層以降の出土であり、時期に置き換えると、9～10期と考えられる。器種は6以外すべて壺である。煤の付着のみられるものが、3・4・11・13・21とみられる。

1は鹿と狩人が描かれた土器である。【みずほ】21号(宮下・橋1997)の中で詳細な報告がされている。今回報告の中では恣意的主観で書くため、若干の手法表現の差を了承されたい。外面は底部から体部上半にかけては斜め方向に、頸部から口縁にかけては縦方向にハケ調整が施され、口縁外反部は横方向に一～二条ほどハケ調整が施されている。その後、体部最大径のみ横方向に再度ハケ調整が施されている。体部上半から頸部にかけては横方向に部分的にナデ消されている。内面は下から上へ順に斜め方向に、頸部から口縁にかけては横方向にハケ調整が施され、底部のみ指で縦方向にナデ消されている。なお、外面体部下半や頸部は粘土帯接合痕が消しきれていない。口縁端部は板状工具による連続した刻みが施され、口縁内面には管状具による刺突が、縦方向に5～7個を一列とし、二列一組で三方向に施されている。ただ三方向といっても均一ではなく、180°に三方向とも入ってしまい、また1点だけ施されたものがあり、当初施工開始した際には、七～八方向に施そうとしたのであろうか。次に絵画であるが、口縁内面の刺突と同一工具で描かれる。頸部や下にて三條からなる弧線文が描かれる。その下には、鹿が描かれる訳だが、鹿は弧線文から1頭目と数えて時計逆回りに説明していく。鹿の横幅は1頭目が最大で6.5cm程度あり、最小で8頭目の3.5cmと倍差がある。鹿は基本的に胴部弧線から描かれ、角、脚、尾が描かれている。脚はすべて前後に2本ずつ単線4本で足先の表現はない。残存する中で頭部の表現を逆L字に表現しているものは、1・3～8・10が確認できる。角は2頭目はなく、それ以外はすべて2本描かれている。次に尾を弧線の跳ね上げを利用して、後脚をやや前方に描くことにより表現したものが1・3・9・10・11頭目が確認でき、その他、尾の表現があるものが、下に下がる表現として2頭目、上に跳ね上がる表現として6頭目がある。次に、人の表現が3頭目と4頭目の間にみられる。縦に1本描き胴部の表現を行い、左側に縦方向の短線を描き、そこからT字を描くように横線を描き、末端をやや垂下させる。脚は1本ずつハの字に描く。また頭部の表現は、円形に浅く彫り込み表現されている。なお、一部であるが、8頭目と9頭目の間には、薄い線がみられ、罫描き線が施されていたことが確認でき、それをもとに鹿を一周して描いたものと考えられる。また12頭目と一部1頭目はミガキ消されており、ここで終始を調整したものと考えられる。

2～4は在地の無文の壺である。外面底部は縦方向に、体部は横方向に、口縁から頸部にかけては縦方向にハケ調整が施され、再度体部上半のみ横方向に施されている。内面は斜め～横方向に施され、3のみ底部は削られ、その後、頸部近くまで指で縦方向にナデ消されている。口縁が残存するのは3のみであり、内外面横方向に丁寧にナデている。絵画は、2のみ管状具で、3・4はヘラ工具で描かれている。2は人の表現であろうか。右側に短線を描いた後、縦方向に左側に向くように描き、逆Y字を描く。3は3本同一の長さのものが左側から1本ずつ描き、鳥の足の表現であろうか。4は接点がないものの同一個体と考えられ、内面の粘土帯接合痕から、おおよそ掲載図のように付くものと考えられる。ただ一つの絵を示すかは不明である。

5は2～4に比べ頸部はやや広いものと考えられる。内面は荒いハケ調整を施し、内面頸部及び外面は細かいハケ調整が施されている。なお内面には粘土帯接合痕が残る。口縁内外面は横方向に丁寧に

ナダられ、やや外面端部に膨らみを持つ。外面体部上半には、管状具で絵が描かれる。人の表現であろうか。縦に1本やや軽く曲がる線を描き、沿わせる形で1本と付随する形で左側に1本施される。

6は鉢である。内面は横方向に、外面は斜め方向に施し、口縁外面には粘土帯を貼り付け、上から横方向にハケ調整が施されている。口縁端部にはハケ工具による斜格子状の刻みが施されている。絵画は、口縁外面の肥厚した部分に管状具で二条の弧線文が描かれている。

7～21は体部破片であり、体部上半の一部であると考えられる。調整は観察表の備考に記載し、鹿及びそれ以外は絵画のみの記載とし、工具別に説明を行う。

7～9・20・21は鹿の表現と考えられ、8はヘラ工具で、7・9・21は先端鋭利な工具で、20は管状具で描かれている。胴部の表現は8が線状だけでなく、胴部から脚部のみ表現であり、横方向に胴部の表現を描いた後、脚を2本描き、最後に脚の上に1本縦線を描き、尾を表現している。7は2頭確認でき、弧状に頸部から胴部を表現し、顔は三角形状に、角は枝分かれしていることが確認でき、左側の1頭の尾は二本枝分かれがみえる。9は前足1本以下のみ残存し、尾の表現はみられない。21は胴部以下のみ残存し、胴部の中に短線を描き、横方向に1本描き、胴部に文様を描いている。その後、後脚2本が描かれている。20は後脚が欠損する。弧状の線を描き、頸部から腹部を表現する。その後、半円状に横線を描き背面を描く。その後角2本と、顔の表現が1本で描かれ、前脚2本が描かれている。

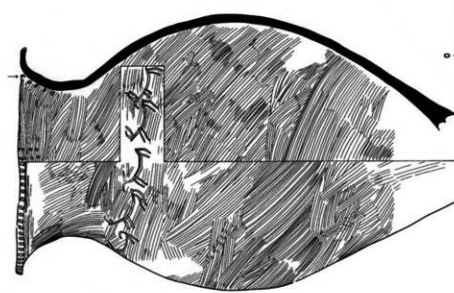
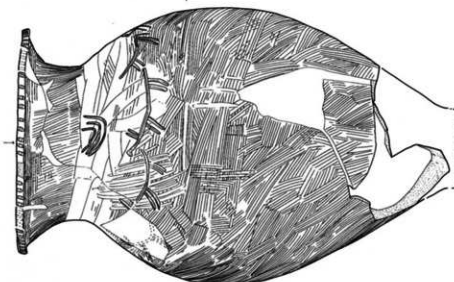
管状具で描かれるものとして、10・18・19があり、10は人の手の表現であろうか。18は3の逆向きを、19は円が描かれている。

鋭利な工具で描かれたものとして、12～15があり、12は横方向と斜め方向の線が描かれ、13は脚先の表現がある2本の脚が描かれ、14は横方向の線と枝分かれする2本の線が描かれている。15は軽い弧状の線が2本描かれている。

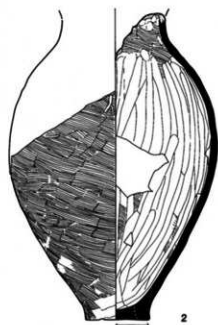
ヘラ工具で描かれるものとして、16・17があり、16は弧状に三条描かれ、下に2本の縦線が施されている。17は16に比べると浅いあたりで、逆ハの字に2本ずつ描かれており、その中には、同心円上に4本確認できる。

絵画土器 (1-21)

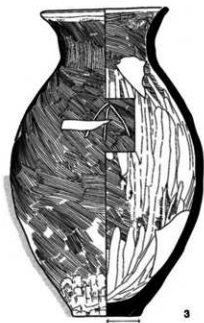
No.	図	統一番号	器種	出土層	発掘	内容	No.21	口径	最大径	高さ	重量	厚さ	底径	底厚	底の径	底の厚	備考
1	13		埴輪(高)		横	1098/7(底)黄褐色		17.3	21.3		11.8	134.2(6.2)					底端
2	26/7-9	v	埴輪(高)		横	1098/7(底)黄褐色		21.1	6.3-6.5	(16.3)	131.8(5.7)	1.0	底端部?				底端
3	13/30-37.3	v	土片	No.1066	横	1098/7(底)黄褐色		14.3	19.8	6.7	9.2	32.8	4.7	1.3			底端
4	26/7-8	vi	埴輪(高)	No.8732, 8763	横	1098/7(底)黄褐色											底端
5	26/7-4	vi	埴輪(高)	No.2660	横	1098/7(底)黄褐色											底端
6	26/5-7	vi-viii	埴輪(高)		横	1098/7(底)黄褐色											底端
7	26/6-10	vi	埴輪(高)		横	1098/7(底)黄褐色											底端
8	26/5-9	v	埴輪(高)	No.9031	横	1098/7(底)黄褐色											底端
9	26/5-11	v	埴輪(高)	No.8653	横	2.5/18/3(底)黄褐色											底端
10	26/C-11	vi	埴輪(高)	No.A242	横	2.5/18/3(底)黄褐色											底端
11	26/C-6, 11E	vii-viii	埴輪(高)		横	2.5/18/3(底)黄褐色											底端
12	26/5-10	vi-vii	埴輪(高)		横	1098/7(底)黄褐色											底端
13	26/C-9	vi-vii	埴輪(高)	No.951	横	1098/7(底)黄褐色											底端
14	26/5-7	vii-viii	埴輪(高)	No.9634	横	2.5/18/3(底)黄褐色											底端
15	26/5-2	vi-vii	埴輪(高)		横	1098/7(底)黄褐色											底端
16	26/5-9	vi	埴輪(高)	No.9031	横	2.5/18/3(底)黄褐色											底端
17	26/5-5	vi	埴輪(高)		横	7.5/18/3(底)黄褐色											底端
18	26/5-5	vi-vii	埴輪(高)	No.1012	横	1098/7(底)黄褐色											底端
19	26/D-9	vi	埴輪(高)		横	2.5/18/3(底)黄褐色											底端
20	26	ii	土片	No.106	横	1098/7(底)黄褐色											底端
21	18/46-44	i, 2	土片		横	1098/7(底)黄褐色											底端



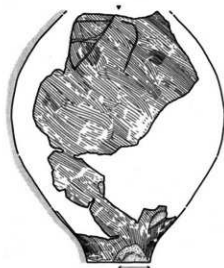
第1111図 繪圖土器1 (S=1/3)



2



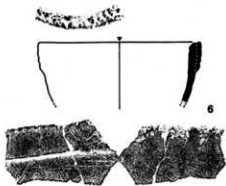
3



4



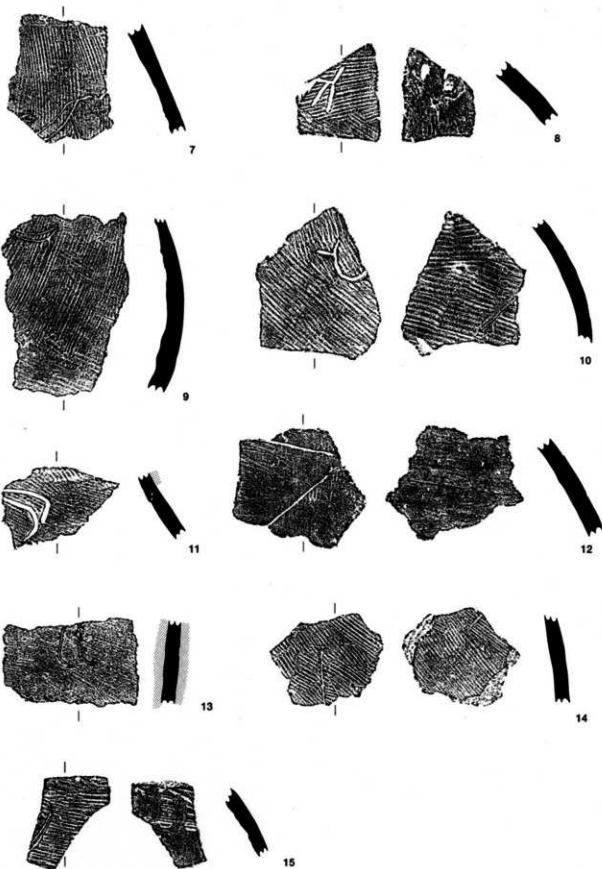
5



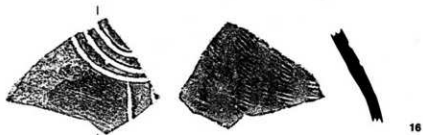
6

0 10cm

第112図 繪面土器 2 (S=1/4)



第113圖 繪面土器 3 (S=1/2)



16



17

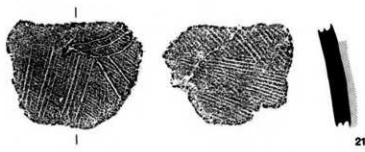


18

19



20



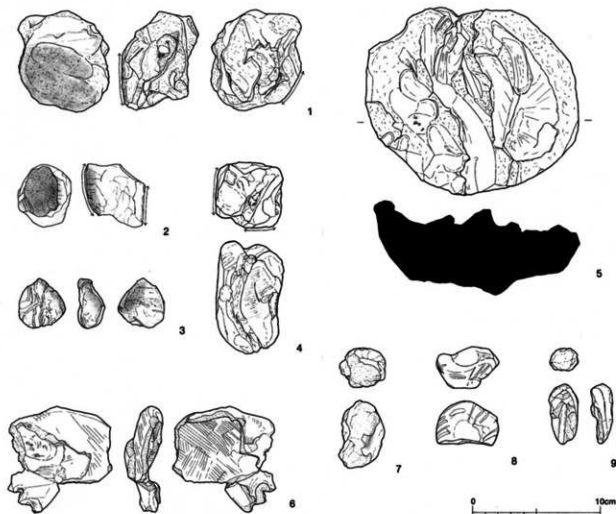
21



第114图 绘画土器 4 (S=1/2)

第8節 焼成粘土塊 (第115図)

現在、確認しているものは11点で、埋積浅谷出土のみ掲載した。出土層位は、xi層～v層にわたってみられる。いずれも直接土器焼成坑からみつかった訳ではないが、遺跡内で土器が作られていることを示すものと考えられる。5・6以外は粘土を乱雑に丸めたものである。中には両側に面を持ち、その片側に明瞭な黒斑が残るもの(1・2)があり、土器焼成時に使用されたのであろうか。また薬圧痕が残るもの(3)や棒状の圧痕が残るもの(9)などがみられる。5は丸い固まりをちょうど半分に分った状態のまま焼けている。6は土器の失敗作なのであろうか。内外面はハケ調整がみえ、外面はやずけてみえる。また外面には粘土の付着がみられ、左親指の圧痕がみられる。



第115図 焼成粘土塊 (S=1/3)

No	図	GR	統一番号	遺跡名	取付寸法	形状	土質	粘土	焼成	焼成温度	焼成時間	備考
1	13	D-2	v52	埋積浅谷		焼成粘土塊	10968/1(灰白土)	粘質	良好	4.3	16.0	
2	26	F-12	v52	埋積浅谷		焼成粘土塊	2.577/2(黄赤土)	粘質	良好	4.9	4.6	
3	26	G-5	v51	埋積浅谷		焼成粘土塊	2.578/2(灰白土)	粘質	良好	3.9	3.55	
4	26	E-6	v51	埋積浅谷	No.7784	焼成粘土塊	10968/2(灰白土)	粘質	良好	8.7	3.7	
5	26	D-5	v-v51	埋積浅谷		焼成粘土塊	10968/2(灰白土)	粘質	良好	14.3	15.6	湯釜底の陶器片付
6	26	D-5	v-v51	埋積浅谷		焼成粘土塊	10968/2(灰白土)	粘質	中々不良	5.2	5.0	湯釜底の陶器片付
7	27		s-s51	埋積浅谷		焼成粘土塊	10968/1-6/1(灰白土-黒斑色)	粘質	中々不良	5.2	3.6	
8	26	東平川ト1C	v51	埋積浅谷		焼成粘土塊	2.577/1(灰白土)	粘質	不良	3.4	4.8	破く、砂物少なし
9	13	D-3		埋積浅谷		焼成粘土塊	10967/2(C-3)(黄赤土)	粘質	良好	4.6	12.2	湯釜底の陶器片